

<p>明治二十九年告示第三十八號ヲ以テ函館本金庫及札幌本金庫所屬支金庫ヲ左ノ如ク改正ス</p>	
區域	本 金 庫
北海道	函館本金庫 札幌
	支 金 庫
	福山 江差 壽都 室蘭 浦河 根室 釧路 小樽 岩内 月形 増毛
<p>同年告示第八十四號ヲ以テ臺北本金庫ヲ新設シ其所屬支金庫ヲ左ノ如ク定ム</p>	
區域	本 金 庫
臺灣	臺北本金庫
	支 金 庫
	臺中 臺南 鳳山 澎湖
<p>明治三十年告示第六十五號ヲ以テ臺北本金庫所屬支金庫中新ニ新竹嘉義宜蘭ノ三支金庫ヲ増設ス右ノ外各金庫所在位置ノ變更及各支金庫間出納區域ノ變換等ニ至リテハ殆ト數フルニ詳ナシ明治三十年十一月十六日大藏省告示第七十三號ヲ以テ從來ノ金庫位置及出納區域ヲ改正シ翌三十一年一月一日ヨリ之ヲ施行スルコト、セリ今各金庫所在ノ位置及各支金庫出納區域ハ之ヲ省略シ各金庫配置ノ状態ヲ示セハ左ノ如シ</p>	
區域	中央金庫及本金庫
東京府	中央金庫
	支 金 庫
	淀橋 千住 八王子 青梅 浦和

埼玉縣	中央金庫	川越 熊谷 本莊 大宮 松山 杉戸
京都府	京都本金庫	伏見 木津 園部 龜岡 周山 福知山 綾部 舞鶴 峯山
滋賀縣	大阪本金庫	宮津 大津 草津 今津 八幡 八日市 水口 彦根 長濱
大阪府	大阪本金庫	茨木 池田 枚方 富田林 八尾 橿 岸和田 奈良 三輪
奈良縣	橫濱本金庫	高田 五條
神奈川縣	神戸本金庫	橫須賀 中野 小田原 厚木 藤澤 松田 秦野
兵庫縣	長崎本金庫	三田 西宮 伊丹 篠山 柏原 洲本 市村 明石 神村
長崎縣	新潟本金庫	姫路 赤穂 山崎 龍野 村岡 豊岡 枚田
新潟縣	前橋本金庫	福江 平戸 大村 諫早 湊 武生水 嚴原
群馬縣	千葉本金庫	村上 新發田 新津 卷 津川 三條 長岡 六日町
千葉縣	千葉本金庫	小千谷 十日町 安塚 糸魚川 高田 柏崎 相川
茨城縣	水戸本金庫	沼田 中ノ條 高崎 桐生 館林 太田 富岡 藤岡
栃木縣	宇都宮本金庫	大多喜 茂原 東金 木更津 佐倉 松戸 佐原 銚子 北條
		太田 松原 鋒田 笠間 土浦 麻生 谷田部 江戸崎 下館 取手 宗道 境
		矢板 太田原 真岡 鹿沼 栃木 佐野

三重縣	津本金庫	四日市 龜山 桑名 大泉原 白子 松阪 山田 上野
愛知縣	名古屋本金庫	名張 尾鷲 木本 島羽
靜岡縣	靜岡本金庫	一宮 津嶋 半田 豊橋 岡崎 足助 舉母 西尾 新城 田口 知立
山梨縣	甲府本金庫	沼津 吉原 藤枝 江尻 川崎 濱松 掛川 森町 兼賀 三嶋 下田
岐阜縣	岐阜本金庫	歌澤 韭崎 谷村 大原 日下部
長野縣	長野本金庫	大垣 上有知 高須 揖斐 八幡 御嵩 太田 土岐津 中津川 高山
宮城縣	仙臺本金庫	飯山 須阪 中野 松本 福嶋 伊那 飯田 上諏訪 豊科 大町 上田 岩村田 白田
福嶋縣	福嶋本金庫	古川 吉岡 築館 石巻 浦谷 佐沼 本吉 大河原 角田 二本松 若松 田嶋 高田 坂下 喜多方 郡山 須賀川
巖手縣	盛岡本金庫	中村 白河 棚倉 石川 三春 富岡 平
青森縣	青森本金庫	黒川口 久慈 一ノ關 水澤 宮古 遠野 盛 福岡 鱒ヶ澤 黒石 五所川原 弘前 七戸 田名部 八戸
山形縣	山形本金庫	東根 天童 寒河江 米澤 高畑 長井 新庄 鶴岡 酒田
秋田縣	秋田本金庫	土崎 鷹巣 能代 大曲 横手 湯澤 本庄 花輪

福井縣	福井本金庫	武生 大野 朝日 三國 敦賀 小濱 高濱
石川縣	金澤本金庫	小松 大聖寺 七尾 羽咋 飯田 輪嶋
富山縣	富山本金庫	魚津 高岡 井波
鳥取縣	鳥取本金庫	賀茂 吉岡 米子 倉吉 江尻
嶋根縣	松江本金庫	廣瀬 掛合 大東 今市 大森 川本 濱田 益田 津和野 西郷
岡山縣	岡山本金庫	金川 味野 本庄 窪屋郡倉敷 玉嶋 笠岡 高梁 新見 津山 弓削 英田郡倉敷 久世
廣嶋縣	廣嶋本金庫	二十日市 西條 可部 和庄 吉田 忠海 府中 尾道 福山 三次 庄原
山口縣	山日本金庫	三田尻 徳山 室積 岩國 屋代 深川 萩 赤間關 太田 舟木
和歌山縣	和歌山本金庫	岩出 妙寺 田邊 新宮 御坊 湯淺
徳嶋縣	徳嶋本金庫	撫養 桑川 池田 富岡 日和佐 脇町
香川縣	高松本金庫	長尾 丸龜 觀音寺 土庄
愛媛縣	松山本金庫	郡中 久万町 今治 川之江 西條 宇和嶋 宇和 八幡濱 大洲
高知縣	高知本金庫	伊野 後免 赤岡 安藝 須崎 中村

福岡縣	福岡本金庫	前原 甘木 直方 飯塚 東郷 蘆屋 久留米 福岡 吉井 柳河 三池 小倉 行橋 香春 八屋 日出 佐伯 臼杵 國崎 玉津 竹田 三重 豆田 杵 中津 四日市
大分縣	大分本金庫	小城 森木 北鹿嶋 武雄 唐津 伊萬里
佐賀縣	佐賀本金庫	高瀬 宮地 隈府 八代 人吉 町山口 御船
熊本縣	熊本本金庫	低肥 高鍋 高岡 小林 都城 延岡 高千穂
宮崎縣	宮崎本金庫	隈ノ城 知覽 上出水 中伊集院 大口 金久 北種子
鹿兒嶋縣	鹿兒嶋本金庫	加治木 鹿屋 岩川
沖繩縣	那覇本金庫	福山 江差 壽都 根室 釧路 帶廣 室蘭 浦河
北海道	函館本金庫 札幌本金庫	岩見澤 小樽 岩内 月形 旭川 増毛
臺灣	臺北本金庫	新竹 臺中 嘉義 臺南 鳳山 宜蘭 澎湖嶋

右明治三十年大藏省告示第七十三號金庫位置及出納區域ハ爾後數回ノ小改正ヲ經タリ即チ明治三十一年四月十六日大藏省告示第三十二號ヲ以テ津本金庫及其所屬支金庫ノ欄ヲ削リ名古屋本金庫及其所屬支金庫ノ欄ヲ左ノ如ク改正ス

區域 本金庫 支金庫

愛知縣  
三重縣

名古屋本金庫

一宮 津嶋 半田 豐橋 岡崎 足助 舉母 西尾 新城  
田口 知立 津 四日市 龜山 大泉原 白子 松阪 山田  
上野 名張 尾鷲 木本 烏羽

明治三十二年大藏省告示第十九號ヲ以テ中央金庫所屬淀橋支金庫及札幌本金庫所屬月形支金庫ヲ廢シ翌年大藏省告示第六號ヲ以テ中央金庫所屬支金庫中へ新嶋八丈島父嶋ノ三ヲ加へ那覇本金庫中ニ宮古八重山ノ二支金庫ヲ置ク同年告示第三十二號ヲ以テ臺北本金庫所屬鳳山支金庫ヲ打狗支金庫ト改稱シ同年告示第五十一號ヲ以テ千葉本金庫以下七金庫ニ左ノ支金庫ヲ新設ス又函館本金庫所屬室蘭支金庫ヲ札幌本金庫ノ所屬トス

本金庫 新設支金庫

千葉本金庫 福岡  
熊本本金庫 山鹿  
長崎本金庫 佐世保  
廣嶋本金庫 江田嶋  
高松本金庫 善通寺  
函館本金庫 紗那 網走  
札幌本金庫 稚内

明治三十四年告示第四號ヲ以テ福岡本金庫所屬トシテ桑折支金庫ヲ新設シ松山本金庫所屬川之江支金庫ヲ三嶋支金庫福岡本金庫所屬三池支金庫ヲ大牟田支金庫ト改稱ス同年告示第二十六號ヲ以テ福岡本金庫所屬トシテ八幡支金庫ヲ新設シ告示第四十五號ヲ以テ高松本金庫所屬土庄支金庫ヲ淵崎支金庫ト改稱ス同年告示第五十五號ヲ以テ臺北本金庫所屬支金庫ヲ左ノ如ク改正ス

區域 本 金 庫 支 金 庫

臺灣 臺北本金庫 新竹 臺中 臺南 打狗 宜蘭 澎湖

明治三十五年告示第二號ヲ以テ佐賀本金庫所屬北鹿嶋支金庫ヲ鹿嶋支金庫ト改稱シ告示第十一號ヲ以テ福岡本金庫所屬蘆屋支金庫ヲ廢止ス右ノ外各金庫所在位置ノ移轉及各支金庫間出納區域ノ變換等ニ至リテハ爾後十數回ノ多キニ上レリ

明治三十五年五月二日大藏省告示第二十五號ヲ以テ從來ノ金庫位置及出納區域ヲ改正シ同年七月一日ヨリ之ヲ施行シタリ其詳細ハ之ヲ略シ各金庫配置ノ狀況ヲ左ニ示サン

區域 中央金庫及本金庫 支 金 庫

東京府	千住	八王子	青梅	新嶋	八丈嶋	父嶋	横濱	横須賀
神奈川縣	中野	小田原	厚木	藤澤	松田	秦野	浦和	川越
埼玉縣	本莊	大宮	松山	杉戸	千葉	大多喜	茂原	東金
								木更

千葉縣

京都府

滋賀縣

大阪府

兵庫縣

奈良縣

和歌山縣

長崎縣

新潟縣

群馬縣

茨城縣

栃木縣

愛知縣

三重縣

岐阜縣

京都本金庫

大阪本金庫

長崎本金庫

新潟本金庫

前橋本金庫

水戸本金庫

宇都宮本金庫

名古屋本金庫

津 佐倉 松戸 佐原 銚子 福岡

伏見 木津 園部 龜岡 周山 福知山 綾部 舞鶴 岸山

宮津 大津 草津 今津 八幡 八日市 水口 彦根 長濱

茨木 池田 枚方 富田林 八尾 堺 岸和田 神戸 三田

西宮 伊丹 篠山 柏原 洲本 市村 明石 社村 姫路

赤穂 山崎 龍野 村岡 豊岡 枚田 奈良 三輪 高田

五條 和歌山 岩出 妙寺 田邊 新宮 御坊 湯淺

福江 平戸 大村 佐世保 諫早 湊 武生水 嚴原

村上 新發田 新津 卷 津川 三條 長岡 六日町 小千

谷 十日町 安塚 糸魚川 高田 柏崎 相川

沼田 中ノ條 高崎 桐生 館林 太田 富岡 藤岡

太田 松原 鉾田 笠岡 土浦 麻生 谷田部 江戸崎

下館 取手 宗道 境

矢板 太田原 眞岡 鹿沼 栃木 佐野

一宮 津嶋 半田 豊橋 岡崎 足助 舉母 西尾 新城

田口 知立 津 四日市 龜山 桑名 大泉原 白子 松阪

山田 上野 名張 尾鷲 木本 鳥羽 岐阜 大垣 上有知

揖斐 八幡 御嵩 太田 土岐津 中津川 高須 高山

靜岡縣	靜岡本金庫	沼津 吉原 藤枝 江尻 川崎 濱松 掛川 森町 氣賀
山梨縣	甲府本金庫	三嶋 下田
長野縣	長野本金庫	飯山 須坂 中野 松本 福嶋 伊那 飯田 上諏訪 豊科
宮城縣	仙臺本金庫	大町 上田 岩村田 白田
福嶋縣	福嶋本金庫	古川 吉岡 築館 石卷 涌谷 佐沼 本吉 大河原 角田
山形縣	福嶋本金庫	桑折 二本松 若松 田嶋 高田 坂下 喜多方 郡山 須賀川 中村 白河 棚倉 石川 三春 富岡 平 山形 東根 天童 寒河江 米澤 高畑 長井 酒田
巖手縣	盛岡本金庫	黒川口 久慈 一ノ關 水澤 宮古 遠野 盛 福岡
青森縣	青森本金庫	鯉ヶ澤 黒石 五所河原 弘前 七戸 田名部 八戸
秋田縣	秋田本金庫	土崎 鷹巢 能代 大曲 横手 湯澤 本莊 花輪
福井縣	福井本金庫	武生 大野 朝日 三國 敦賀 小濱 高濱
石川縣	金澤本金庫	小松 大聖寺 七尾 羽咋 飯田 輪嶋
富山縣	富山本金庫	魚津 高岡 井波
鳥取縣	鳥取本金庫	賀茂 吉岡 米子 倉吉 江尾
嶋根縣	松江本金庫	廣瀬 掛合 今市 大東 大森 川本 濱田 益田 津和野 西郷

岡山縣	岡山本金庫	味野 瀬戸 倉敷 玉嶋 笠岡 高梁 新見 津山 弓削 英田 久世
廣嶋縣	廣嶋本金庫	二十日市 西條 可部 和庄 江田嶋 吉田 忠海 尾道 府中 福山 三次 庄原
德嶋縣	德嶋本金庫	撫養 桑川 池田 富岡 日和佐 脇町
香川縣	高松本金庫	長尾 九龜 善通寺 觀音寺 淵崎
愛媛縣	松山本金庫	今治 郡中 久万町 三嶋 西條 宇和嶋 宇和 八幡濱 大洲
高知縣	高知本金庫	伊野 後免 赤岡 安藝 須崎 中村
福岡縣	門司本金庫	福岡 前原 甘木 直方 飯塚 東郷 八幡 久留米 福岡 吉井 柳河 大牟田 小倉 行橋 香春 八屋 山口 三田 尻 徳山 室積 岩國 屋代 深川 萩 赤間關 太田 船木
山口縣	門司本金庫	
大分縣	大分本金庫	日出 佐伯 臼杵 國東 玉津 竹田 三重 豆田 森 中津 四日市
佐賀縣	佐賀本金庫	小城 藤木 鹿嶋 武雄 唐津 伊萬里
熊本縣	熊本本金庫	高瀬 宮地 隈府 山鹿 八代 人吉 町山口 御船

宮崎縣	宮崎本金庫	飯肥 高鍋 高岡 小林 都城 延岡 高千穂
鹿兒嶋縣	鹿兒嶋本金庫	隈之城 知覽 上出水 中伊集院 大口 金久 北種子 加治木 鹿屋 岩川
沖繩縣	那覇本金庫	宮古 八重山
北海道	函館本金庫	福山 江差 壽都 根室 釧路 帯廣 浦河 紗那 網走
	札幌本金庫	岩見澤 小樽 岩内 旭川 増毛 稚内 室蘭
臺灣	臺北本金庫	新竹 臺中 臺南 打狗 宜蘭 澎湖嶋

右告示第二十五號金庫位置及出納區域中本金庫及支金庫所在位置變更サレタルモノ數次アリ

### 第五章 監督機關

#### 第一節 監督機關ノ第一期

##### 第一款 監督司

###### 第一項 管 務

明治二年五月八日初メテ會計官中ニ監督司ヲ置クノ時ニ當テヤ未タ別ニ其事務管掌ノ事ヲ明記シタルモノアルナシ故ニ其當時監督司ノ執行セシ事蹟ニ基キテ其管掌事務ヲ摘録スレハ金穀出納ニ關スル事項ノ檢按勘定帳ノ檢査營繕土木起工ノ事由竝ニ費額ノ審議工事實況ノ檢査金庫開閉ノ臨檢會計法規ノ立案及査閲金穀ノ恩賜及拜借金請願ニ對スル許否ノ立案賈金處分汚損紙幣交換方法ノ立案貨幣改造通用方請願ニ係ル許否ノ立案ノ類ナリ

明治二年八月十一日日本司ノ民政部ニ轉屬スルニ及ヒ其管掌事務大ニ複雑トナリ民政會計ノ二事ヲ監督スルニ至レリ即チ之カタメニ増加セシ所ノ事務ハ戶籍警保救荒儲蓄官有地管理府縣廳舍位置及建築開墾物産等ノ申牒ニ對シテ審議立案シ其他省中各司官吏ノ銓衡ニ關スル事等ナリ  
 明治三年十一月二十七日ニ至リ始メテ本司ノ職制章程ヲ定ム之ニ依レハ其第一章ニ於テ本司ハ大藏省ノ耳目ニシテ各司ハ省中ノ手足ナリ耳目能ク明ニシテ手足各其用ニ供スルヲ得故ニ此司常ニ專當ノ任ナシト雖モ本省内外ノ事務都テ監視督察スルヲ要トストアリ而シテ其管掌事項ハ成規定例ナキ支出ノ審議賞典附與秩錄支給方當否ノ審按勘定帳ノ檢査各司計簿ノ點檢金庫ノ監

察、營繕土木實況ノ監督、購入物品價格ノ検査、各地方官各局申牒書指令案ノ査閱、法規改廢ニ依ル草案ノ査閱、省中官吏ノ身分ニ關スル監督ニシテ、其各府縣ニ派出シテ監視檢察スヘキ事項ハ、金穀一切ノ出納、租稅ノ厚薄、官廳諸費ノ當否、貨幣流通ノ便否、正價貨幣交換ノ處分、土地ノ肥瘠、物産ノ多寡、通商ノ有無等是ナリ

### 第二項 分掌

明治二年五月本司ノ起ルヤ別ニ分課ヲ定メ、三年十一月二十七日其職制章程ヲ制定スルニ當テモ亦敢テ其分課ヲ區畫セス曰ク、監督司ハ純ハラ監視督察ヲ以テ主務ト爲シ、別ニ專擔スル科目有ルナシ故ニ丞官モ亦特ニ分課スルヲ須キスト、然レトモ實際其事務ヲ處理スルニ當テハ各員自カラ便宜分課ヲ爲シタルモノ、如シ

### 第三項 職員

明治二年五月八日本司ヲ會計官ニ置クヤ本司ニ知事判事、權判事、附屬ヲ置ク知事ハ官中ノ庶務ヲ總轄シ、金穀ニ關スル事項其他各官各局及府藩縣ノ申牒ヲ審査シ、計簿ヲ推明スル事ヲ掌リ、判事以下各其事務ヲ擔理ス  
同年七月八日會計官ヲ廢シ、新ニ大藏省ヲ置ク是ニ於テカ監督司ハ更ニ大藏省ニ屬シ、職員ヲ改メテ正權正、大佑、權大佑、少佑、權少佑、大令史、少令史トス、正ハ司中職員ノ處事ヲ總判シ、兼テ省中ノ庶務ヲ監察ス、權正ハ掌ルコト正ニ同シ、而シテ地方ニ派出シテ府縣ノ施治ヲ監督スルハ權官ノ任ニシ

テ權正、權大佑、權少佑皆同シ、大佑ハ司中各課ノ事務ヲ糺明ス、權大佑ハ掌ルコト大佑ニ同シ、但シ少佑以下分課職員アルトキハ其課務ヲ分擔ス、少佑、權少佑ハ司中ノ庶務分課ノ科目ニ從ヒテ各其事務ヲ整理ス、大令史、少令史ハ同議同覽ノ法案文書ヲ受付シ、事ヲ受テ上抄シ、及司中ノ記録編輯、計算ノ事ヲ掌ルモノトス、其後八月十一日監督司民部省ニ屬シ、三年七月十日ニ至リ更ニ大藏省ニ屬ス、是年十一月事務章程及職制ヲ定メタリト雖モ其職員ニ至テハ敢テ改ムルコトナク、唯官吏ニシテ他官ヲ兼任スルヲ禁セリ

### 第四項 雜件

**第一 設置及廢止** 明治二年五月八日監督司ヲ會計官中ニ置キ、四年七月二十七日民部省ヲ大藏省ニ竝合スルニ及テ之ヲ廢ス  
**第二 位地** 本司ハ始メ會計官ニ屬シ、尋テ大藏省及民部省ニ轉屬シ、後復大藏省ノ所管トナル、今其年月日ヲ示セハ

- 會計官所管 自明治二年五月八日—至同年七月七日
- 大藏省所管 自明治二年七月八日—至同年八月十日
- 民部省所管 自明治二年八月十一日—至同年七月九日
- 大藏省所管 自明治三年七月十日—至同四年七月二十七日

**第三 班次** 明治二年五月八日監督司ヲ會計官中ニ置クヤ之ヲ諸司ノ首位ニ班ス、同年七月八日會計官廢セラレ、大藏省起リ本司該省ニ屬スルニ及ヒテ諸司ノ第五位ニ班ス、同年八月十一日本司

民部省ニ轉屬シ同月十八日民部大藏二省合竝シ二十二日寮司ノ班次ヲ定ムルヤ本司諸司ノ首位ニ班シ三年七月十日民部大藏兩省分離シテ監督司復大藏省ノ所屬トナルニ及ヒテ八月寮司ノ班次ヲ更定シ之ヲ諸司ノ首位ニ班セリ

第四 支署

一 京都支署 明治二年五月監督司設置ノ際支署ヲ京都ノ會計官出張所中ニ置ケリ其初ノ之ニ在勤セシモノ知事一名判事權判事及附屬各一名ニシテ二年七月官制改革後ハ權正一名佐令史ノ内二名又ハ三名トナシ此他ニ正一名出張セリ而シテ其管掌スル所ノ事務ハ收支ニ關スル事件ノ商議收支回議ノ檢閱勘定帳ノ検査會計法規ノ辯明倉庫開閉ノ臨檢等ナリ此支署ハ四年七月ヲ以テ廢止セラレタリ

二 大阪支署 明治二年五月監督司設置ノ際支署ヲ大阪ニ置ク其初メ知事二名在勤シ内一名ハノリ兼動ス此他二年七月官制改革以後ハ權正一名佐令史三名在勤シ而シテ此他ニ正一名出張セリノリ兼動ス此他其管掌事務及廢止年月ハ京都支署ニ同シ

三 橫濱支署 明治二年七月支署ヲ橫濱ニ置ク其吏員ハ正一名權正一名佐一名又ハ二名ニシテ此他ニ正一名出張セリ其管掌事務ハ收支回議ノ檢閱勘定帳ノ検査ナリトス其廢止年月ハ京都支署ニ同シ

第二款 正算司

第一項 管 務

明治四年八月十日正算司ヲ創設スルヤ同月十九日事務章程ヲ制定シ金穀ノ出納ニ關スル一切ノ券書及傳票ヲ調査正算スル事務ヲ掌理スルモノトセリ而シテ其查算スヘキ簿書ノ種類ヲ擧クレハ曰ク收支ノ傳票曰ク歳入ニ關スル簿冊租稅寮モリ送曰ク官省府縣等ノ諸費ニ關スル簿冊紙幣寮モリ送是ナリ但シ右ノ外ト雖モ各寮司各課ヨリ正算ヲ要求スルモノアレハ總テ之ヲ查算ス又計簿ノ書式及算則ノコトニ關シ立案スル職權アリ而シテ本司ノ正算ヲ爲スヤ獨リ計數ヲ算スルノミナラス事項ノ査閲ヲモ掌レリ即チ勘定帳ヲ查算スルカ如キ其中ニ於テ事項ノ誤謬ヲ發見スルコトアレハ主務廳ヲシテ之ヲ訂正セシメ以テ検査寮ニ回附ス検査寮之ヲ査閲シ異見アレハ附箋シテ正算司ニ返致シ正算司ハ主務廳ヲシテ訂正セシメ再ヒ之ヲ検査寮ニ回付スルヲ例トス正算司検査寮ノ關係ノ密接ナルコト斯ノ如シ後遂ニ合シテ一ニ歸セル良ニ故アルナリ

第二項 分 掌

正算司モト出納司計算掛ノ後ヲ承ケ其所屬吏員亦甚タ多カラス然レハ本司開設中未タ別ニ其分課ニ付テ規定シタルモノナシ

第三項 職 員

明治四年八月十日正算司ヲ設置スルヤ本司ニ正權正、大令史、權中令史、少令史、權小令史ヲ置ケリ正ハ司中諸官員ノ首長ニシテ一切金穀出納ノ計數ヲ正算スルヲ掌リ權正ハ職掌責任正ニ亞キ大令史ハ司中各分局又ハ分課ノ事務ヲ擔當シ各掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テ正權正



ニ對シ其責任ヲ有ス權大令史以下ノ各史ハ正權正ノ指令ニ從テ司中ノ事務ヲ處理ス

### 第四項 雜件

第一 設置及廢止 正算司ハ出納司計算掛ノ後ヲ承ケテ明治四年八月十日之ヲ設置シ五年十月九日ニ至リテ之ヲ廢シ其事務ヲ検査寮ニ屬ス

第二 地位 明治四年八月正算司ヲ置クヤ之ヲ大藏省ニ屬ス

第三 班次 明治四年八月十日正算本司ノ班次ヲ定メテ之ヲ一等司トス

### 第三款 検査寮及ヒ検査局

#### 第一項 管務

明治四年八月十九日検査寮ノ事務章程ヲ定メ検査寮ハ一切金穀ノ出納ニ關スル事務ヲ審按検査スル所トス其管掌事務ノ大要ヲ舉クレハ金穀出納ニ係ル申請書ノ検査收入ニ係ル納入證書ノ點檢勘定帳ノ検査出納實況ノ検査出納寮簿冊ノ點檢及處務ノ監視倉庫ノ視察及鎖鑰ノ管守公債證書紙幣諸印紙類製造ノ臨檢検査ニ係ル規則ノ考按考課狀ノ調製等ナリ其後所管事務ニ多少ノ増加アリ十一月十二日日本省新縣掛ヲ廢シ其歲入歲出ノ整理現存米金ノ計查ヲ本寮ノ管掌トシ五年十月九日正算司ヲ廢シ其所管ニ係ル出納金穀ノ券書及收支傳票ヲ調查正算スル事務ヲ本寮ノ所屬トシ同月晦日府縣ノ備置米金ヲ管理スル検査寮諸務局ノ分課ヲ議定ス  
明治九年六月三十日更ニ検査寮ノ事務章程ヲ定メ本寮ハ金穀出納ノ當否ヲ検査シ計簿ヲ整理ス

ル所トス此章程ニ於テハ寮務ノ範圍ヲ定メ大藏卿ノ決裁ヲ經テ施行スルモノト寮頭專行スルヲ得ルモノトノ區別ヲ定メタリ其事務章程ニ據リ處理スル事項ヲ舉クレハ歲出豫算ノ検査租稅其他收入金ノ検査定額及臨時支出ノ検査勘定帳ノ検査諸物品在高帳ノ検査金庫内ノ現狀ノ概視及鎖鑰ノ管守銀行預ケ金ノ檢視紙幣公債證書各種印紙等製造ノ臨檢決算證書ノ交付中仕切決算ノ處分定額常費内流用ノ承認検査執行上ニ係ル法規ノ考按勘定ニ關スル規則ノ辯明各處適宜設定ニ係ル給與法ノ查閱歲入出入ノ概計及決算ニ係ル明細簿ノ調製年報書ノ調製等ニシテ右ノ内豫算ノ検査物品ノ検査銀行預ケ金検査決算證書ノ交付中仕切決算ノ處分流用ノ承認法規ノ辯明查閱等ノ如キハ舊章程ニ比シテ増加セルモノナリ七月十三日日本省ノ簿記法取調掛ヲ本寮ニ屬セシム  
明治十年一月十一日検査寮ヲ廢シテ検査局ヲ設置スルヤ別ニ事務章程ノ設ナク其事務ハ大藏卿ノ連ニ據リ検査寮ノ章程ニ準シテ之ヲ執行セリ

### 第二項 分掌

明治四年九月八日日本寮ノ管務ヲ分チテ四課ヲ置ク往復課編纂課検査課照查課是ナリ  
往復課 各局ヨリ回送スル勘定簿冊願届伺書ヲ受領シ及諸官省各寮司ノ文書往復ヲ掌ル  
編纂課 寮中記録簿冊ヲ謄寫編輯スルコトヲ掌ル  
検査課 金穀ニ關スル諸申請ヲ審閱シ及其指令ヲ起草スルコトヲ掌ル  
照查課 出納ニ關シ各廳ニ達スル文書ヲ檢閱シ傳票ヲ廻達スルコトヲ掌ル  
明治五年六月寮中分課ヲ改メテ成算検査編輯受付ノ四課ト爲シ同年十月九日改メテ六課ニ分ツ

蓋シ舊正算司ノ事務ヲ本寮ニ屬セシメタルヲ以テナリ其名稱ハ檢案課、調査課、照査課、正算課、編輯課、受付課是ナリ而シテ調査課ニ於テハ勘定帳ノ検査ヲ掌リ照査課ハ月俸、旅費等渡分ノ傳票ヲ掌リ正算課ハ金穀ニ關スル計算簿書ノ正算ヲ掌ル此他ノ三課ノ職掌ハ前ニ同シ是時始メテ委任ノ官吏ヲシテ各課ヲ分擔セシメ一名ハ檢案、調査ノ二課ヲ掌リ一名ハ照査、編輯、受付ノ三課ヲ掌リ一名ハ正算課ヲ掌ル十一月十八日正算、照査、調査ノ三課ヲ廢シ更ニ成算調査ノ二課ヲ置ク

明治六年八月分課ヲ改定シ成算課、定額調査課、官省調査課、府縣調査課、置米金掛、檢案課、編輯課、受付課ト爲ス是時更ニ委任官ノ分擔ヲ定メ其一名ハ成算、定額調査ノ兩課ヲ掌リ一名ハ官省調査、府縣調査ノ二課及置米金掛ヲ掌リ一名ハ檢案、編輯、受付ノ三課ヲ掌ル

明治七年三月二十八日分課ヲ改メテ九課ト爲ス受付、諸務、檢案、編輯ノ四課及第一ヨリ第五ニ至ル五課ノ成算課是ナリ八月十四日改正掛ヲ増置シ金穀出納検査法改正ノ事ヲ調査セシム八年三月ニ至リ檢案課ヲ廢シテ八課一掛トナス受付、諸務、編輯ノ三課第一乃至第五ノ五成算課及改正掛是ナリ五月十日處務順序ヲ制定ス其各課ノ分掌事項ヲ舉クレハ

受付課 院省使廳府縣ヨリ送致スル諸公文及諸計簿其他内務、大藏兩省各局課ノ議冊等ヲ領受シテ寮中主務ノ各課ニ分付シ又之ヲ各所ニ送達スル等ノ事ヲ掌ル

諸務課 寮中ノ經費及廳舎ノ修補營繕其他ノ雜務ヲ管理シ諸要物品ヲ受授シ上申往復ノ文案ヲ草スル等ノコトヲ掌ル

編輯課 寮中ノ文籍書冊ヲ綜理管領シ規則ヲ編纂シ及考課狀ヲ作ル等ノコトヲ掌ル

第一成算課 院省使廳府縣ノ定額アル經費及收入ヲ調査シテ其收出ノ順序ヲ爲シ且ツ出納ニ關

スル會議書ヲ檢案シ定額ニ係ル規則ノ疑問ニ答ヘ又ハ指令文ヲ調理スル等ノコトヲ掌ル

第二成算課 院省使廳ノ經費及稅外收入ノ勘定帳簿ヲ整理シ其經費ノ殘金等ヲ納付セシムルコトヲ掌ル

第三成算課 府縣ノ經費及稅外收入ノ勘定帳簿ヲ整理シ其經費ノ殘金等ヲ納付セシムルコトヲ掌ル

第四成算課 院省使廳府縣一切ノ收支ニ關シ傳票ヲ要スル金穀ヲ精査勘算シ追算表ヲ調整スル等ノコトヲ掌ル

第五成算課 成算完結ノ精算表ヲ調整スルコトヲ掌ル

改正掛 歲入歲出豫算決算ヲ調理シ出納順序及検査法改正ニ關スル一切ノ事務ヲ擔理ス

此分課ヲ前ノ六年八月所定ノ分課ト比較シ其改廢増減ヲ見ルニ檢案課、置米金掛ヲ廢シ定額調査及受付課ヲ割キテ諸務課ヲ置キ定額調査課ヲ第一成算課、官省調査課ヲ第二成算課、府縣調査課ヲ第三成算課、成算課ヲ第四成算課、成算課中製表掛ヲ第五成算課ト爲セント別ニ改正掛ヲ設置セルコト是ナリ而シテ各課掛ハ委任官之ヲ管理シ判任官以下之ニ分屬ス同年十二月二十八日受付課ヲ廢シ其事務ヲ諸務課ニ合竝ス九年五月五日改正掛ヲ廢シ歲入出金穀調査ニ關スル事務ヲ第一成算課ニ付セリ是レ處務ノ順序一般ニ慣熟シ百事整備ニ赴キタルヲ以テナリ又從前第一成算課ニ於テ擔理セシ事務ヲ割キ其院省使廳ニ係ル分ヲ第二成算課ニ付シ府縣ニ係ル分ヲ第三成算課ニ屬セリ故ニ當時ノ分課ハ諸務課、編輯課、第一乃至第五成算課ノ七課トナレリ

明治十年一月十一日検査寮ヲ廢シ検査局ヲ置クヤ同月十七日分課ヲ改定シ豫算掛、院省掛、府縣掛

追算掛、製表掛、諸務掛、編輯掛ノ七掛トス豫算掛ハ舊検査寮ノ第一成算課院省掛ハ第二成算課府縣掛ハ第三成算課、追算掛ハ第四成算課製表掛ハ第五成算課ノ事務ヲ繼承シ諸務編輯ノ兩掛ハ從來ノ課ヲ掛ト改メシモノナリ而シテ各掛ハ委任官之ヲ管理シ判任官以下之ニ分屬ス十一年六月二十六日製表掛ヲ廢シテ其事務ヲ追算掛ニ付シ越エテ數日院省府縣ノ兩掛ヲ廢シテ調査掛ヲ設置ス此調査掛ヲ置キタルハ検査員派出規定制定ノタメ其便宜ヲ計リタルニ因ル十三年一月十日追算掛ヲ廢シテ更ニ決算掛簿記掛ヲ置ク決算掛ハ歲入出決算報告書ヲ調製シ及決算ヲ歲入出豫算ニ對比シ其ノ増減伸縮ヲ照查シ又決算上ニ係ル回議書ヲ檢閱スル等ノ事ヲ掌リ簿記掛ハ會計諸帳簿ヲ登錄シ各廳ノ計簿ヲ監視シ歲入出豫算決算比較表ヲ製シ及收支ノ傳票順序ヲナス等ノ事ヲ掌ル又同月諸務課ニ各掛起草ノ文案ヲ覆審修正シ他ノ省局立案ノ回議書中事ノ制定釐正ニ係ルモノヲ審査スルノ事項ヲ增加セリ而シテ當時ノ分課ハ豫算調査決算簿記諸務編輯ノ六掛ナリトス

### 第三項 職員

明治四年八月十日検査寮ヲ大藏省中ニ置クヤ同月十九日職制ヲ定メ寮ニ頭權頭、助權頭、大屬、權大屬、中屬、權中屬、少屬、權少屬ヲ置キ頭ハ一切金穀出納ノ當否ヲ検査スルコトヲ掌リ寮中諸官員ノ職務ヲ指令シ各分局分課ノコトヲ監理ス各分局分課ノ廢置及寮中官吏ノ増減黜陟ハ卿輔ノ決判ヲ乞ヒテ處分ス分課改廢ノコト明治九年五月權頭ハ職掌頭ニ亞ク頭缺席又ハ缺員アル時ハ一切頭ノ職掌ヲ代理スルヲ得、助ハ寮中各分局又ハ分課ノ事務ヲ擔當シハ缺員アル時ハ其事務ヲ代理スル

得權助ハ職掌助ニ亞ク事務代理シコ屬ハ上官ノ指揮ニ從テ寮中ノ事務ヲ處辨ス八年十二月二十八日權少屬ノ次ニ史生、寮掌ヲ置ク九年六月三十日更ニ職制並事務章程ヲ定メタリシモ組織上ニ於テ別ニ變更ナシ其新ニ定マリタルハ上下二款ノ設ケ是ナリ其上款ハ大藏卿ノ判決ヲ經テ施行スルモノ下款ハ頭ノ意見ヲ以テ專行スルヲ得ルモノナリ此上下二款ニ掲ケタル事項頗ル多シ其要旨ヲ擧クレハ規程ヲ制定シ帳簿表式ヲ變更シ豫算超過ノ處分ヲ爲シ背規事項ノ處分ヲ爲シ中仕切決算ヲ立テ難キ經費ノ處分ヲ爲シ定額金交付ノ期限ヲ伸縮スル等ノコトハ上款ニ屬シ而シテ例規アル各廳ノ經費ヲ交付スルノ議案及定額常費内流用ノ議案ヲ決シ收入ノ未納ヲ督促シ勘定帳提出延期申請及給與ニ適宜法ヲ設クル申牒ヲ許否スル議案ヲ決シ會計法規ノ質議ニ對スル答案ヲ決定シ京地ノ各廳ニ就キテ計簿ヲ檢シ金庫内ノ現狀及銀行預ケ金ヲ検査シ紙幣公債證書各種印紙ノ製造ヲ監督スル等ノコトハ下款ニ屬セリ

明治十年一月十一日検査寮ヲ廢シ検査局ヲ置クヤ局員ハ大藏大書記官、同權大書記官、同少書記官、同權少書記官、同一等乃至十等屬ヲ以テ之ニ充テ大書記官一名局長トナリテ局務ヲ統轄シ其他ノ書記官ハ掛長トナリテ事務ヲ管理シ屬之ニ分屬セリ

### 第四項 雜件

第一 設置及廢止 検査寮ハ監督司ノ後ヲ承ケ明治四年八月十日ヲ以テ設置セララル十年一月十一日之ヲ廢シ改メテ検査局ヲ置キ十三年三月五日更ニ之ヲ廢シ其事務ヲ會計検査院及精算局ニ分屬セシム

**第二 地位** 検査寮及検査局ハ大藏省ニ屬ス

**第三 班次** 明治四年八月十日検査寮ヲ大藏省中ニ置クヤ二等寮ノ第六位ニ班シ明治十年一月十一日検査寮ヲ廢シテ検査局ヲ置クヤ之ヲ諸局ノ第四位ニ班ス

### 第二節 監督機關ノ第二期

#### 第一款 會計部

##### 第一項 管 務

明治十三年三月三日太政官中ニ六部ヲ置クヤ會計部其一ニ居ル同日會計部ノ分掌事務ヲ定メ歳入出ノ豫算決算並ニ租税金穀出納及貨幣國債其他財政ニ關スル事務執行ノ方法ヲ在理シ其主務官廳ノ事務ヲ監視スル所トス乃チ政府ノ財政事務ハ悉ク六部中ノ會計部ニ於テ總理スルコト、ナレシ

##### 第二項 職 員

明治十三年三月從來ノ參議兼各省卿ノ制度ヲ改メ權力ヲ太政官ニ集中スルノ目的ヲ以テ制ニ專任參議ヲ置キ之ト同時ニ太政官中ニ法制會計軍事內務司法外務ノ六部ヲ置キ右ノ專任參議ヲシテ各部ニ分屬シテ各省ヲ監督セシム

#### 第三項 雜件

**第一 設置及廢止** 明治十三年三月三日太政官中ニ會計部ヲ置キ十四年十月二十一日之ノ廢ス

**第二 地位** 本部ハ太政官六部中ノ一タリ

**第三 班次** 明治十三年三月二十二日太政官中局部順次ヲ定メ會計部其第二次ニ班ス

### 第二款 會計検査院

#### 第一項 管 務

明治十三年三月五日會計検査院ヲ創設スルヤ事務章程未タ定マラサルヲ以テ太政官ヨリ送セラレタル處務條項ニ據テ院務ヲ處理シタリ其條項ハ大藏省検査局ニ於テ履行セル成規定例ニ據テ處辨シ若シ疑義ニ涉ルモノアラハ稟裁ヲ請フヘキコトヲ規定セリ其他特達又ハ舊慣ニ依リ院務トシテ實行シ來レルモノアリ當時本院ノ管掌セル事務ノ大要ヲ舉クレハ歳入出豫算表ノ審査歳入出作業費及物品受拂表ノ検査金穀出納及會計帳簿ノ検査決算證書ノ付與歳入出決算報告ノ調製會計規則及簿記法式ノ定案會計法規ノ辯明會計法規及收支ニ關スル處分ノ答牒簿記官金葉捐決算延期未決算ノ承認恩給計算書ノ點檢紙幣燒棄ノ臨檢ナリトス

明治十四年四月二十八日ニ至リテ始メテ本院事務章程ヲ公布ス其第一條ニ會計検査院ハ政府ノ歳計ヲ審査監督シ會計法規ノ統一ヲ主持スル所トスト掲ケ以下各條ニ於テ處務ノ事項ヲ列載セリ其他會計法若クハ特別ノ命令等ニ依リ院務トシテ實行スルモノアリ其大要ヲ舉クレハ歳入出

豫算ノ審査、國庫及各廳收支決算ノ審査、判定、官有財産管理方法ノ監査、官有財産計長ノ檢、物品受拂ノ檢査、官金及物品出納ノ監督、決算ノ宣告及會計官吏ニ對スル懲戒斷案ノ起草、刑法ニ係ルモノノ告知、歲入出決算報告ノ調製、行務年報ノ調製、法規財務ニ關スル質議答牒、地方稅豫算決算報告ノ査閱、國庫及各廳簿記決算延期未決算ノ承認、恩給計算書ノ點檢、紙幣燒棄ノ臨檢ナリトス而シテ其決算ノ宣告ハ之ヲ終審トス但シ内閣當時未タ内閣官制ノ實施ナカリシニ於テ其宣告ヲ不當ト認メタルトキハ更ニ本院ニ下シテ再審セシメ又ハ特別委員ヲ命ジテ審理セシムルコトヲ得ト規定ス此他會計檢査上各事業ノ審査ヲ要スルトキハ其實況ヲ視察シ其得失ヲ内閣ニ具申スルコト會計ニ關スル法律規則ノ制定、釐革ニ就キ其意見ヲ内閣ニ建議スルコト會計ニ關スル法規ノ疑條ヲ辯明シ之ヲ各廳ニ通知スルコトヲ得ルノ權限ヲ附セリ右ノ處務條項ヲ前ノ處務條項ト比較スルニ増加セルモノ五アリ曰ク官有財産管理方法ノ監査官有財産計長表ノ檢査モ此内ニ含有ス曰ク會計官吏ニ對スル懲戒斷案ノ起草、刑法ニ係ルモノ、告知曰ク行務年報ノ調製、曰ク地方稅豫算決算報告ノ査閱、曰ク事業實況ノ審査及其得失ノ建議即チ是ナリ其減少セシモノハ官金棄捐ノ承認ノ一項ナリ

### 第二項 分掌

明治十三年三月十一日會計檢査院ノ分課ヲ定メ審査簿記決算編輯庶務ノ五課トス  
 審査課 會計諸規則ノ考案、歲入出豫算ノ檢査、歲入出勘定ノ檢査、物品受拂ノ檢査、金穀出納ノ檢査、作業費ノ檢査、各廳會計簿ノ檢査ヲ掌ル而シテ課ヲ分テ五部トシ第一部ニ於テ課中全部ノ係ル事務ヲ執リ第二部以下ニ於テ各官廳ノ檢査ニ係ル事務ヲ執レリ其各部ノ分掌左ノ如シ

#### 第一部 總務

第二部 太政官、宮内省、文部省、開拓使、一府九縣

第三部 外務省、司法省、工部省、元老院、地租改正事務局、十縣

第四部 內務省、大藏省、二府九縣

第五部 陸軍省、海軍省、十縣

簿記課 簿記法式ノ考案、歲入出金穀ノ記帳、決算證書ノ付與ヲ掌ル

決算課 歲入出決算報告書ノ調製ヲ掌ル

編輯課 文書ノ編纂ヲ掌ル

庶務課 院中ノ雜務ヲ掌ル

而シテ右ノ各課ハ檢査官之ヲ管理シ屬之ニ分屬ス

明治十四年六月二十二日院中分課ヲ改正シ更ニ七部一課ヲ置ク蓋シ是年四月新ニ職制章程ノ制定アリシヲ以テナリ其名稱ハ審査部自第一部至第五部簿記部、報告部、簿記課是ナリ

審査部 ハ歲入出豫算決算ノ檢査、各廳會計上ニ於ケル事業ノ實況、物品ノ受拂及官有財産管理方法ノ檢査、會計官吏ニ對スル懲戒斷案ノ起草及規則其他文書ノ立案ヲ掌ル而シテ其各部分掌セル官廳ハ次ノ如シ

審査第一部 太政官、宮内省、文部省、開拓使、七縣

審査第二部 外務省、司法省、工部省、元老院、地租改正事務局、七縣

審査第三部 內務省、農商務省、警視廳、內國勸業博覽會事務局、二府七縣

審查第四部 大藏省、一府八縣

審查第五部 陸軍省、海軍省、八縣

簿記部 會計ノ簿記管理簿記様式ノ承認ヲ掌ル

報告部 年報書及歳入出決算報告書ノ調製ヲ掌ル

書記課 課中三掛ヲ置キ後ニ受付掛ヲ増置シ凡テ四掛トナス

庶務掛 院長官房ノ事務及院中ノ雜務ヲ掌ル

調度掛 會計及物品ノ受拂ヲ掌ル

記録掛 文書ノ編纂保存ヲ掌ル

受付掛 文書ノ授受往復ヲ掌ル

而シテ各部ハ検査官一名乃至二名之ヲ管理シ検査官補之ニ分屬シ課ハ書記官之ヲ管理シ屬之ニ分屬ス此他分課ノ外ニ於テ委員ヲ組織シテ事務ヲ整理セルコトアリト雖モ茲ニハ之ヲ省ク

### 第三項 職員

明治十三年三月五日會計検査院ヲ太政官中ニ置クヤ是月十日院長幹事一等乃至四等検査官一等乃至十等屬ノ職員ヲ置ク明治十四年四月二十八日本院ノ職制章程ヲ更定シ本院ニ院長、副長、一等乃至四等検査官、大少正權書記官、検査官補、屬ヲ置ク而シテ院長ハ本院ノ官吏ヲ統率シテ主管ノ事務ヲ總理シ本院官吏ノ進退黜陟ニ關シテハ奏任以上ハ之ヲ具狀シ判任以下ハ之ヲ專行ス副長ハ職掌長ニ亞ク検査官ハ官金及物品ノ出納官有財産管理方法ノ監督豫算決算ニ係ル事務ヲ分任シ

會計主務官吏懲戒ノ斷案ヲ調整ス書記官ハ院長官房ノ事務及院中ノ庶務會計記録ヲ管理ハ検査官補ハ検査官ニ屬シ検査ノ事務ニ從事シ検査官事故アルトキ、其事務ヲ代理スルヲ得屬シ書記官ニ屬シ文書計算ノ事務ニ從事ス

### 第四項 雜件

第一 設置 明治十三年三月五日本院ヲ太政官中ニ設置ス

第二 地位 明治十三年三月五日本院ヲ開設スルヤ本院ハ太政官ニ隸屬ス

第三 班次 明治十三年三月二十二日太政官局部ノ順次ヲ定ムルヤ本院ハ其第八次ニ班シ十四年十二月七日太政官中局、院館ノ順次ヲ更定シ本院ヲ其第六次ニ班ス

第四 署衙 本院創立ノ際其署衙ヲ赤坂皇居内太政官中ニ設置ス

第五 支衙 明治十三年三月十一日本院分局ヲ大藏省内ノ一室ニ置ク十四年二月十五日ニ至リ之ヲ廢シテ本院ニ併合ス

### 第三款 精算局及ヒ調査局

明治十三年三月五日大藏省検査局ノ廢セラレ財務監督ノ機關トシテ太政官會計部及會計検査院ノ起ルヤ大藏省中ニハ更ニ翌六日精算局ヲ建テ六月十九日改メテ調査局ト稱ス精算局及調査局ハ固ト一種ノ監督機關タルモ其權力甚タ大ナラサルノミナラス既ニ中央機關ノ一部トシテ縷述セシ所ナルヲ以テ今此ニ再ヒセス

### 第三節 監督機關ノ第三期

#### 第一款 會計検査院

##### 第一項 管 務

明治十五年一月十六日太政官達第五號ヲ以テ從來ノ會計検査院事務章程ヲ更定シタリ其第一條ニ會計検査院ハ政府ノ會計ヲ検査シ會計法規ノ統一ヲ主持スル所トスト規定シ以下各條ニ於テ處務ノ事項ヲ列記セリ其他ニ於テ會計法若クハ特別ノ命令等ニ據リ院務トシテ實行スルモノアリ此等ノ事項ノ大要ヲ擧クレハ歳入出決算ノ審査判定各廳長官會計報告書ノ審査會計帳簿及金錢物品出納ノ検査認可狀ノ付與及會計官吏ノ違法刑事ニ係ルモノ、告知會計上ノ規則ノ制定釐革ニ關スル各廳通知ノ査閱各廳長官會計報告書ニ對スル證明、行務ノ成績ヲ掲クル年報書ノ調製會計上ノ國庫簿記ノ承認恩給計算書ノ點檢紙幣燒棄ノ臨檢是ナリ此他章程ニ於テハ會計法規ノ制定釐革ニ關シ其意見ヲ内閣ニ建議スルコト検査ノ時宜ニヨリ事業ノ實況ヲ査閱スルコト検査上要用ト認ムル書類ハ悉皆之ヲ點檢シ及其主務者ノ辯明ヲ求ムルコトヲ得ルノ權限ヲ付セリ而シテ右列舉事項ヲ以テ前十四年ノ章程ト比較スルニ増加セルモノ四項アリ曰ク各廳長官報告書ノ審査曰ク會計上ニ關スル規則ヲ制定釐革スル各廳通知ノ査閱曰ク各廳長官會計報告書ニ對スル證明曰ク検査上要用ナル書類ノ點檢主務者辯明ノ要求是也而シテ其減少セルモノ七アリ曰ク官有財産計算表物品受拂表ノ検査曰ク各廳簿記及決算延期末決算ノ承認曰ク歳入出豫算ノ審査

曰ク歳入出決算報告ノ調製曰ク法規財務ニ關スル質議答牒曰ク地方稅豫算決算報告ノ査閱曰ク各廳ニ對スル會計法規ノ辯明通知トス而シテ其歳入出決算報告調製ノ事務ハ之ヲ大藏省調査局ニ轉屬セルナリ夫ノ官有財産ノ監督ハ固ト本院職權ノ範圍内ニアリシモノナレトモ本期ノ初以來章程中ニ其明文ヲ存セス又恩給計算書點檢ノコトハ十七年太政官達第十五號ヲ以テ之ヲ廢止セリ

明治十九年四月十六日勅令第二十號ヲ以テ本院官制ヲ制定ス之ヲ十五年ノ章程ニ比スルニ著シキ變更アルナク唯僅ニ二三ノ改正セラレタル所アルノミ蓋シ此時内閣ノ組織ヲ變更シ一般各廳ノ官制ヲ改革シタルニ因リ検査院官制モ之ト伴ニ發布シタルナリ即チ其改正ノ重ナル點ヲ擧クレハ舊章程ニ於テ政府ノ會計ヲ検査シ會計法規ノ統一ヲ主持スル所トストアルヲ改メテ政府ノ會計ヲ検査スル爲メ云々トシ又歳入歳出ノ決算ヲ審査判定ストアルヲ國庫及各廳金錢物品ノ會計官有財産ノ増減作業資本別種金保管金抵當物品ノ會計ヲ審査判定ストナシ其他年報書ヲ報告書ニ改メ告知ヲ通知ト改メ各官廳中一部ニ屬スル會計ノ検査ヲ其廳ニ委任シテ報告セシムルコトヲ得ル權限ヲ付セラレタルコト是ナリ又同年六月以降海軍公債其外各種ノ公債條例ニ因リ公債償還ノ抽籤ニ臨檢スルノ事務ヲ増加セリ

##### 第二項 分 掌

明治十五年一月十八日從前ノ審査各部ヲ廢シ更ニ審査第一部第二部第三部ヲ置キ同月二十三日ニ至リ報告簿記ノ二部ヲ廢シテ其事務ノ一分ヲ書記課ニ屬セシム蓋シ是月章程ノ改定アリタル

カ爲メナリ

審査部 検査ノ事務ヲ管掌ス各部ノ分掌左ノ如シ

審査第一部 國庫、内務省、大藏省、元老院、一府十四縣

審査第二部 外務省、陸軍省、海軍省、文部省、一府十四縣

審査第三部 太政官、宮内省、農商務省、工部省、司法省、北海道、一府十縣

書記課 院長官房ノ事務及院中ノ庶務、會計ヲ掌ル課中五掛ヲ置キ後ニ統計掛ヲ増置ス即チ庶務

掛、調度掛、記録掛、受付掛、年報掛、統計掛ノ六掛トス

右改置ノ分課ヲ以テ從前ト比スルニ其減セルモノハ報告、簿記ノ兩部ニシテ増加シタルハ書記課  
中年報、統計ノ兩掛ナリ報告部ノ廢止ハ歲入出決算報告ノ事務ノ大藏省ニ轉屬シタルニ基因ス但  
シ其本院年報ノ事務ハ新設ノ年報掛ニ於テ之ヲ處理スルコト、ナレリ而シテ簿記部ノ廢セラレ  
タルハ國庫出納簿記ノ登記及各廳簿記検査承認ノ事務ヲ廢止シタルヲ以テナリ但シ其豫算増減  
ノ追調ハ審査部中ニ於テ之ヲ處理ス又統計掛ハ統計委員ヨリ轉換セシモノナリ而シテ右ノ審査  
各部ハ検査官三名乃至四名之ヲ管理シ検査官補之ニ分屬ス但シ各部検査官ノ内一名ヲ以テ部長  
トス書記課ハ書記官之ヲ管理シ屬之ニ分屬ス

明治十六年一月十七日改メテ二部一課ト爲ス審査第一部同第二部、書記課是ナリ

審査部 検査ノ事務ヲ管掌スルコト前ニ同シ各部分掌ハ左ノ如シ

審査第一部

第一科 國庫、大藏省、一府五縣

第二科 太政官、農商務省、七縣  
第三科 内務省、宮内省、七縣  
總務科 各廳諮問ニ對スル答議及各科ノ回議書等ヲ査閲シ文案ノ起草ヲ掌リ兼テ該部諸文  
書ノ受付保存及部中ノ庶務ヲ擔理ス  
簿記科 歲入出豫算決算ニ係ル金額事由ノ記載ヲ掌ル

審査第二部

第一科 外務省、海軍省、文部省、一府七縣

第二科 陸軍省、一府六縣

第三科 司法省、工部省、元老院、九縣

總務科 簿記科ハ共ニ第一部ニ同シ

書記課 其事務ハ前ニ同シ課中六掛ヲ置ク庶務、年報、往復、記録、調度、統計是ナリ  
右ノ分課ヲ以テ從前ノモノニ比スルニ其異ル所ハ三部ヲ約シテ二部ト爲シ部中ニ分課ヲ設ケタ  
ルニアリ書記課中ノ往復掛ハ受付掛ノ改稱ナリ而シテ各部ハ部長ノ職ヲ帶フル検査官之ヲ掌理  
シ第一科、第二科、第三科ハ検査官之ヲ管理シ検査官補之ニ分屬ス總務科、簿記科ハ検査官補ヲ以テ  
之ニ充ツ書記課ハ書記官之ヲ管理シ屬之ニ分屬ス

明治十六年十二月三日分課ヲ改定シ審査第一部、審査第二部及書記局ト爲ス

審査部 其事務ハ舊制ニ同シ各部分掌左ノ如シ

審査第一部



第一課 常用準備租稅郵便稅諸返納雜收入陸海軍ノ國債償還及利子、年金恩給諸祿備荒儲蓄

第二課 國庫下渡金、造幣局印刷局作業費

第三課 郵便稅、內務省、大藏省、租稅局、關稅局、農商務省、驛遞局、集治監經費、府縣獄囚徒費、神社費、土木費、營繕費

第三課 警視廳、府縣經費、府縣警察費

第四課 關明治十七年五月至之ヲ區ク

部長附 部中ノ庶務ヲ擔理ス

審查第二部

第一課 帝室及皇族費、太政官、外務省、在外公館、文部省、司法省、宮內省、元老院、皇居御造營車務局經費

第二課 陸軍省經費作業費雜收入

第三課 海軍省經費作業費雜收入

第四課 工部省、北海道事業管理局經費、諸作業費大藏、陸海軍

部長附 第一部ニ同シ

書記局 其事務ハ前ノ書記課ニ同シ、局中庶務、年報往復、記錄、調度、統計ノ六掛ヲ置ク

右改置分課ヲ前ノ分課ニ比スルニ其異ナル所ハ部中ノ各科ヲ課トシ、總務科ヲ部長附トシ、簿記ノ一科ヲ廢止シ、書記課ヲ書記局ト改稱セルニアリ、而シテ部局ノ擔理ニ至テハ前ニ同シ、翌十七年八月二十一日書記局中調度掛ヲ改メテ會計掛ト稱ス

明治十九年十月十四日分課ヲ改置シテ審查第一部、審查第二部、書記局トス、此改置分課タル表面上ハ従前ト異ナル所ナキカ如シト雖モ其事務分掌ノ方法ニ至テハ大ニ異ナルモノアリ、蓋シ從來審查ノ部ヲ分ツヤ其各部ノ掌ル所ノ事務ハ孰レモ皆相均シ然ルニ這般改置ノ部ニ在リテハ各部司掌スル所ノ事項ノ性質全然均カラサルモノアリ、即チ左ノ如シ

審查第一部 検査上全般ニ關スル事務ノ審查ヲ掌リ、部中ニ審閱報告ノ二課ヲ置ク

審閱課 決算判定ノ稟議及第二部立案ノ書ヲ審閱シ會計規則ニ關スル事務ヲ掌ル

報告課 年報書、行務報告ノ調製ヲ掌ル

審查第二部 官廳又ハ科目ノ區別ニ據リ検査ノ事務ヲ掌リ、部中ニ八課ヲ置ク

第一課 國庫、內國稅、關稅、國債費、賞勳年金、恩給諸祿、非職俸給、帝室費、大藏省所管作業費

第二課 陸軍省

第三課 海軍省

第四課 內務省、神宮式年御造營費、遞信省、郵便及電信收入

第五課 大藏省作業費、司法省

第六課 農商務省、北海道廳、森林收入

第七課 內閣外務省、文部省、元老院、會計検査院、鐵道局、假皇居御造營費、民法編纂費、鐵道諸官衙及議院建築費

第八課 神社費、警視廳、府縣

部長附

書記局 其事務ハ前ニ同シ局中庶務往復記録會計統計ノ五掛ヲ置ク  
 右書記局中年報掛ノ廢止セラレタルハ審査第一部ニ報告課ヲ設ケタルニ因ルナリ而シテ第一部  
 ノ部長ハ副院長又ハ検査官ヲ以テ之ニ充テ第二部ノ部長ハ検査官ヲ以テ之ニ充テ書記局ハ書記  
 官ヲシテ之ヲ管理セシム而シテ又右分課ノ外ニ主管ノ設ケアリ即チ検査官二名又ハ三名ヲ聯合  
 シテ一主管トシ各自擔當ノ事務上ニ於テ重要ニ屬シ異例ニ涉ル事項ハ互ニ相協議決定シ其事項  
 ニ關シテハ連帶シテ其責ニ任ス以上分課ノ外特ニ委員ヲ組織シテ事務ヲ整理セルコトアリト雖  
 モ今ハ之ヲ省ク

### 第三項 職員

明治十五年一月十六日會計検査院事務章程ト共ニ達セラレタル職制ニ依レハ本院ニ院長副院長檢  
 査官書記官検査官補屬ヲ置ク前キニ検査官ノ上ニ幾等ノ文字ヲ冠セシカ是ニ至テ渾テ單一検査  
 官ト稱ス而シテ院長ハ本院ノ官吏ヲ統率シテ主管ノ事務ヲ總理シ本院官吏ノ進退黜陟ニ關シテ  
 ハ奏任以上ハ之ヲ具狀シ判任以下ハ之ヲ專行ス副院長ハ職掌院長ニ亞ク検査官ハ會計検査ノ事務  
 ヲ分任シ書記官ハ院長官房ノ事務及院中ノ庶務會計記録ヲ幹理ス検査官補ハ検査官ニ屬シ検査  
 ノ事務ニ從事ス検査官事故アルトキハ其事務ヲ代理スルヲ得屬ハ書記官ニ屬シ文書會計ノ事務  
 ニ從事ス

明治十九年四月十六日會計検査院官制ヲ定ム之ニ依レハ本院ニ院長副院長検査官書記官検査官  
 補屬ノ職員ヲ置キ院長ハ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケテ院務ヲ處理シ及院中ノ官吏ヲ統督シ

奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス副院長ハ院長ノ職務ヲ佐ケ又ハ  
 院長事故アルトキ其職務ヲ代理ス検査官ハ院長ノ命ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌ル検査官補ハ検査  
 官ニ分屬シテ會計検査ノ事務ニ從事ス屬ハ書記官ニ屬シテ書記會計ノ事務ニ從事ス右ノ職制ヲ  
 以テ明治十五年制定ノ職制ニ比スルニ別ニ大差ヲ見ス唯從前ハ検査官補ニ検査官代理ノ權アリ  
 シト雖モ是ニ至テ此權ヲ削除セリ

### 第四項 雜件

**第一 地位** 本院ハ前期以來引續キ太政官ニ隸屬ス十八年十二月太政官ヲ廢シ内閣ノ組織ヲ改  
 ムルヤ本院ハ内閣ニ屬シ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ク  
**第二 署衙** 本院ハ前期以來引續キ赤坂皇居内太政官中ニ在リシカ麹町區錢瓶町一番地ノ廳舎  
 新築成ルヲ以テ明治十五年十二月二十二日同所ニ移轉セリ

### 第二款 調查局及ヒ主計局

大藏省中ニ調查局アリ調查局ハ明治十九年一月十六日主計局ト改稱ス共ニ監督ノ機關ヲ成スモ  
 ノナリト雖モ其沿革ニ付テハ中央機關ノ部ニ既ニ詳述セルヲ以テ今再ヒセス

### 第四節 監督機關ノ第四期

#### 第一款 帝國議會

### 第一項 組織

明治二十二年二月十一日大日本帝國憲法ノ發布アリ其第三章ヲ以テ帝國議會ノコトヲ規定シ其第三十三條乃至第三十五條ニ於テ議會組織ノ大綱ヲ定メ帝國議會ハ貴族院及衆議院ヲ以テ組織シ而シテ貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族、華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織シ衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織スルモノトセリ即チ貴族院ノ組織ヲ定ム貴族院令ハ明治二十二年二月十一日勅令第十一號ノ規定スル所ニシテ之ニ附屬セル諸條規ハ同年六月四日勅令第七十八號貴族院伯子男爵議員選舉規則同日勅令第七十九號貴族院多額納稅者議員互選規則二十三年二月二十七日貴族院令並貴族院伯子男爵議員選舉規則及貴族院多額納稅者議員互選規則施行ノ詔勅同年三月十日內務省訓令第七號貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方同年五月十六日貴族院伯子男爵議員選舉規程二十七年五月二十六日勅令第五十七號貴族院多額納稅者議員ノ補缺選舉方等トス而シテ衆議院ノ組織ヲ定ムル衆議院議員選舉法ハ二十二年二月十一日法律第三號ノ規定スル所ニシテ之ニ附屬ノ條規ハ二十三年一月九日勅令第三號衆議院議員選舉法施行規則同年同月十七日內務省訓令第二號衆議院議員選舉法及ヒ選舉法施行規則ノ事務及書式ノ準據方等ナリシカ三十三年三月二十八日法律第七十三號ヲ以テ衆議院議員選舉法ノ改正アリ從テ其附屬法規ニ改廢アリ即チ明治三十四年十月勅令第百八十六號衆議院議員選舉法施行令同月內務省令第十四號第二十七號第二十八號第二十九號等是アリ

### 第二項 權限

帝國議會ノ財政上ニ關シテ有スル權限ハ大日本帝國憲法第六章會計ノ章ニ於テ規定セララル即チ第六十二條ニ於テ新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ議會ノ協贊ヲ經タル法律ヲ以テ定ムヘク又國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スニハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘキ旨ヲ規定シ第六十四條乃至第六十八條ニ於テ豫算議定權ノコトヲ規定シ國家ノ歲出入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘク豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算外ノ支出ハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス而シテ皇室經費ハ現在ノ定額以外ニ増額ヲ要スル場合ニノミ議會ノ協贊ヲ得ヘク又政府ハ特別ノ須要ニ因リ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ議會ノ協贊ヲ求ムルヲ得ヘク憲法上ノ大權ニ基ケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルヲ得サルコト、セリ更ニ第七十條ニ於テ財政上緊急處分ニ對スル權限ヲ定メ公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用アル場合ニ内外ノ情況ニ因リ帝國議會ヲ召集スル能ハサルトキハ政府ハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スヲ得ルト雖モ此場合ニハ次ノ會期ニ之ヲ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ求ムルヲ要スル旨ヲ定メタリ而シテ第七十二條ニ於テ決算報告ノコトヲ定メ國家ノ歲出入決算ハ會計検査院ノ検査確定ヲ經其検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘキ旨ヲ規定セリ其他帝國議會ハ上奏建議、質問等ノ方法ニ據リ事實上ニ於テ國家財政上ノ監督作用ヲ爲スヲ得ヘシ

### 第三項 職員

帝國議會ノ職員ハ明治二十二年二月十一日法律第二號議院法同日勅令第十一號貴族院令及兩議

院規則ノ規定セル所ナリ此等ノ規定ニ依レハ各議院ノ議長副議長ハ各一人トシ貴族院議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘク被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其職ニ就ク衆議院ノ議長副議長ハ其院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其中ヨリ之ヲ勅任ス其任期ハ議員ノ任期ニ依ル而シテ各議院ノ議長ハ其議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシム其他各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス書記官ハ議事録及其他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

#### 第四項 雜 件

第一 分部 議院法ハ各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部部長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘキコトヲ規定シタリ而シテ兩議院規則ニ依レハ議長ハ書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ヲ九部ニ配分シ各部ニ號數ヲ附ス均分スル能ハサルトキハ第一部ヨリ以下每部一員ヲ加フヘシ但シ議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス部屬ハ每會期之ヲ定ム臨時會ニ於テハ前會ノ部屬ヲ繼續スヘシ各部ハ年長部員ヲ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長理事各一名ヲ互選シ其最多數ヲ得タルモノヲ當選人トシ最多數ヲ得タルモノ同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ部長ハ部ノ事務ヲ整理シ理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘキモノトス

第二 委員 議院法ノ規定ニ依レハ各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトシ常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲メニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其任ニ在ルモノトス特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲メニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ附託ヲ受クルモノトス而シテ全院委員長ハ一會期毎ニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉シ常任委員長及特別委員長ハ各委員中ニ於テ之ヲ互選スルモノトス

### 第二款 會計検査院

#### 第一項 管 務

明治二十二年五月九日法律第十五號ヲ以テ會計検査院法ヲ制定シ其第十二條ニ検査院ノ官掌事務ノ大綱ヲ宣明シ會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關スル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督スルモノトスト規定シタリ蓋シ是年二月公布ノ憲法第七十二條國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムトノ規定ニ基クナリ而シテ同院法第十三條以下第二十四條ニ至ル十二條ニ於テ更ニ其細目ヲ示セリ其規定ニ依レハ會計検査院ノ検査ヲ要スルモノハ第一總決算第二各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關スル決算第三政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關スル決算第四法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算トス而シテ検査院ハ決算ヲ検査確定スルト同時ニ報告書ヲ作り又各年度會計検査ノ

成績ヲ上奏シ其成績ニ就キテ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ竝  
 テテ意見ヲ上奏スルコトヲ得而シテ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ハ其廳ニ委託  
 スルコトヲ得ルモ其検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ報告セシム但シ右ノ委託ニ拘ラス時宜ニヨリ  
 其所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ検査ヲ行フコトアルヘク此規定ハ政府ヨリ補助金  
 又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦之ヲ適用スルコトヲ得ルモノト  
 ス又會計検査院ハ金庫ノ出納及簿記上ニ關スル各省ノ命令ニ付キ其發布ノ前通知ヲ受ケ意見ア  
 ルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得ヘク收入及支出ニ關スル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各  
 省ノ命令ニ付其發布ノ前通知ヲ受ケ計算書及計算證明ノ様式竝ニ其提出及推問ニ對スル答辯ノ  
 期限ヲ定メ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムル  
 コトヲ得ルモノトス會計検査院長ハ検査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲  
 ス此場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會ヲ爲サシムルコト  
 ヲ得而シテ會計検査院ニ於テ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキ  
 ハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其責任ヲ解除ス若シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤  
 ヲ爲サシメ仍ホ正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム其判決ニ據  
 リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ス若シ出納官吏計  
 算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スル  
 コトヲ得ヘシ右ノ如ク會計検査ノ職權ヲ有スト雖モ政府ノ機密費ニ關スル計算ハ検査ヲ行フ限  
 ニ在ラス而シテ一旦認可狀ヲ付スルノ後ト雖モ其五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求ス

ルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得ヘク若シ  
 眞偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖モ再審ヲ爲スコトヲ得而シテ出納官吏ハ此再審ノ  
 判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ストセリ以上會計検査院法ノ規定ニ依リ定マレルモ  
 ノ、外ニ會計規則又ハ特達ニ據テ院務ニ付セラレタルモノアリ主計簿ノ締切紙幣燒棄、公債償還  
 ノ抽籤ニ關スル臨檢即チ是ナリ

### 第二項 分掌

明治二十二年五月制定ノ會計検査院法ハ本院ニ三部ヲ設ケ各部部长一員検査官四員ヲ以テ検査  
 ノ事務ヲ分掌スヘキコトヲ規定シ同年九月二十四日勅令第六號會計検査院事務章程ハ本院ニ  
 第一第二第三部ヲ設ケ各部ニ第一第二第三第四課ヲ置キ各課ノ課長ハ検査官ヲ以テ之ニ充テ檢  
 査官補及屬若干員ヲ分屬セシメ其他本院全般ニ關スル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理スル爲メニ特  
 ニ委員若クハ分科ヲ設クルコトヲ得ルモノトス仍テ是月二十七日右ノ規定ニ基キテ三部ヲ置キ  
 本院ノ部課管理事務ヲ定ム之ニ依レハ

#### 第一部

第一課 國庫、國債、國庫所管各種資金、三府、開港場、四縣、補助金特約保證アル團體及公私立諸營  
 造ノ收支

第二課 租稅海關稅、除關稅、內國稅徵收費、森林資金繰入、諸拂戻及缺損補填金

第三課 海關稅、稅關、四國四縣、九州六縣、沖繩縣

第四課 二十八縣

第二部

- 第一課 陸軍(本省、近衛、第一師團、第二師團、雜收入、臨時歲出)
- 第二課 陸軍(第三師團、第四師團、第五師團、第六師團、作業場)
- 第三課 海軍
- 第四課 大藏省、內閣、樞密院、元老院、會計檢査院、北海道廳

第三部

- 第一課 內務省、土木監督區署、集治監、警視廳、土木費、外務省、在外公館
- 第二課 司法省、裁判所、文部省、諸學校
- 第三課 遞信省
- 第四課 農商務省、鐵道

(備考) 各廳ハ其支出收入及官有物ノ計算ヲ併セテ管理ス

神社費ハ其所在地方廳ノ部課ニ於テ管理ス

而シテ右ノ三部ノ外書記局ハ故ノ如シ然ルニ翌十月七日統計掛ヲ置キ翌二十三年六月二日ニ至

リ書記局ヲ割キテ官房、庶務科、會計科ヲ置ケリ即チ左ノ如シ  
官房 院長ノ秘書、官吏ノ進退、身分及官印管守等ノ事ヲ掌ル又登記員ヲ置キ各部ニ派出ヤシム  
庶務科 科中二掛ヲ置キ往復掛ハ文書ノ受授ヲ掌リ記録掛ハ法規ノ編纂書籍ノ保存等ヲ掌ル  
會計科 收支ニ關スル事項及營繕ノコトヲ掌ル

統計掛 行務成績書ニ掲載スヘキ事項其他檢査上必要ノ事項ヲ統計ス

右各部ハ部長之ヲ掌理シ各課ノ事務ハ檢査官課長トシテ之ヲ監理シ官房及庶務會計二科ハ書記  
官統計掛ハ檢査官之ヲ監理スルモノトス

明治二十九年十二月九日本院部課管理事務ヲ改定スルコト左ノ如シ

第一部

- 第一課 國庫、國債、海軍省
- 第二課 陸軍省
- 第三課 陸軍省
- 第四課 海軍省

第二部

- 第一課 大藏省、海關稅
- 第二課 外務省、內務省
- 第三課 內國稅、內國稅徵收費
- 第四課 府縣、府縣租稅外歲入

第三部

- 第一課 遞信省
- 第二課 司法省、文部省
- 第三課 農商務省、官設鐵道

第四課 拓殖務省

(備考) 租稅外歲入及物品ハ各支出主管ノ課ニ於テ之ヲ管理ス

諸拂戻及缺損補填金ハ各其仕拂廳主管ノ課ニ於テ之ヲ管理ス

補助團體ノ收支ハ各其所管省主管ノ課ニ於テ之ヲ管理ス

但シ部課外ノ諸科掛故ノ如シ然ルニ三十年五月三日勅令第四百十二號ヲ以テ本院事務章程中一部分ヲ改メ本院ニ第一、第二、第三部ヲ設ケ各部ノ分課ハ會計檢査院長之ヲ定ムルコト、ナシ尋テ同月七日本院ニ臨時第四部ヲ設ケ臺灣地方所在官廳ノ會計檢査ニ從事セシメ部ニ第一、第一課ヲ置キ各課管理事務ヲ掌テ定ム即チ左ノ如シ

第一課 歲入、諸拂戻及缺損補填金、逓信費、陸軍費、海軍費

第二課 民政費、稅關費、製藥諸費、豫備金、臨時部各款

蓋シ此年三月九日法律第二十五號ヲ以テ臺灣支廳設置法ニ附加スル所アリタルニ基ク即チ此附則ニ依レハ會計檢査院ハ當分ノ内部長一員、檢査官二員、檢査官補二員、屬若干員ヲ増置シ本廳ニ於テ第一條ノ事務(支廳ノ檢査事務)ヲ執行スルコトヲ得ルコト、セリ

明治三十二年十二月二十三日勅令第四百五十七號ヲ以テ本院事務章程ヲ全部改正ス然レトモ其條項ハ大體ニ於テ變更ナシ唯院長官房ヲ設ケ書記官之ニ屬シテ庶務ヲ掌ルモノトシ又前ニハ本院全般ニ關スル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理セシムル爲メニ委員若クハ分科ヲ置クトアリシヲ單ニ委員ヲ置クコト、爲セリ而シテ三十三年四月五日更ニ各部課管理事務ヲ改正ス之ニ依レハ

第一部

第一課 國庫、國債、恩賞、諸祿

第二課 陸軍省(本省、近衛、第一、第二、第三、第八、第九ノ各師團及臺灣ニ屬スル陸軍費)

第三課 陸軍省(第四、第五、第六、第七、第十、第十一、第十二ノ各師團及各作業會計)

第四課 海軍省(全部)

第二部

第一課 大藏省(國債及恩賞、外務省、各集治監、葉煙草專賣ニ關スル收支)

第二課 內務省(警視廳、各集、北海道廳)

第三課 租稅、內國稅徵收費、沖繩縣土地整理費

第四課 府縣、府縣監獄費

第三部

第一課 逓信省(官設鐵道)

第二課 司法省、文部省

第三課 農商務省、官設鐵道

第四課 臺灣歲入歲出

(備考) 租稅外歲入及物品ハ各支出主管ノ課ニ於テ管理ス

諸拂戻及缺損補填金ハ各其仕拂廳主管ノ課ニ於テ之ヲ管理ス

補助團體ノ收支ハ各其所管省主管ノ課ニ於テ之ヲ管理ス

以上述フル所ノ外本院事務章程ニ從ヒ委員ヲ置テ事務ヲ處理セルコトアリト雖モ茲ニハ之ヲ省

### 第三項 職員

本院ノ職員竝ニ其權限ハ明治二十二年二月公布ノ帝國憲法ニ基キ同年五月制定會計検査院法竝ニ同年九月ノ本院事務章程ノ規定スル所ナリ之ニ依レハ本院ニ院長、部長、検査官、書記官、検査官補、屬ヲ置キ院長、部長、検査官ヲ以テ會計検査官トス會計検査官ハ勅令ヲ以テ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任シ刑事裁判又ハ懲戒裁判ニ依ルニ非レハ其意ニ反シテ退官、轉官又ハ非職ヲ命セラル、コトナク父子兄弟同時ニ検査官タルヲ得ス又他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得サルモノトス而シテ院長ハ院務ヲ總理シ所屬官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任以下ハ之ヲ專行ス部長ハ部務ヲ掌理シ院長事故アルトキハ上席ノモノ院務ヲ代理スルヲ得、検査官ハ検査ノ事務ヲ分掌シ課長トナリテ課務ヲ監理ス検査官補ハ計算書、證據書ノ検査報告ヲ爲シ審理書其他文書ノ起草ヲ掌リ總會議又ハ部會議ニ於テ其報告ノ事件ニ就キ辯明ヲ爲シ院長若クハ部長ノ命ニ依リ検査官ノ缺席ヲ補充スルタメニ總會議又ハ部會議ニ出席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得書記官ハ院長官房ノ事務其他院中ノ庶務會計ヲ監理シ屬ハ各部下ニ屬シテ調査ニ從事シ又ハ書記官ニ屬シテ庶務會計ニ從事スルモノトス其後二十九年五月一日法律第九十號ヲ以テ本院法中検査官補ノ定員ヲ増加シ同日勅令第六十號ヲ以テ院長ニ特ニ親任官ノ待遇ヲ賜フ三十二年十二月二十三日勅令第四百五十七號ヲ以テ本院ノ事務章程ヲ改正セリ然レトモ其大體ニ於テ前章程ニ同シク唯其變更ノ重ナルモノハ検査官補、書記

官及屬ノ職權竝ニ速記技手ノ新設ナリトス即チ検査官補ハ各課ニ分屬シ課長ヲ助ケ又ハ院長官房若クハ各部ニ分屬シ審議立案ヲ掌ル(院長又ハ部長ノ命ニ依リ總會議又ハ部會議ニ出席スルコトアルハ前ニ同シ)書記官ハ院長官房ニ屬シ庶務ヲ掌リ屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ検査ノ事務又ハ庶務ニ從事ス而シテ速記技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ速記ノ事務ヲ執ルモノトス尋テ三十三年四月四日法律第八十一號ヲ以テ検査官補ノ定員ヲ減少セリ

### 第四項 雜件

**第一 地位** 明治二十二年五月制定ノ會計検査院法ニ依レハ本院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有スルコトヲ規定セリ是ニ至リテ本院ハ内閣ノ隸屬ヲ脱シテ全ク獨立ノ官衙トナレリ

**第二 會議** 明治二十二年五月制定ノ本院法ニ依レハ本院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決シ總會議ハ院長ヲ議長トシ部會議ハ部長ヲ議長トス特定ノ事項ハ總會議ヲ以テ議決スルコトヲ要シ計算検査ノ判決ハ凡テ會議ヲ以テ決ス但シ其總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ院長ノ定ムル所ニ依ルヘキモノトス更ニ同年九月ノ事務章程ニ依レハ本院ノ會議ハ會計検査官ヲ以テ組織シ總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク而シテ總會議及部會議ハ課長ノ在閣ヲ經タル検査官補ノ報告書若クハ會計検査官ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス三十二年十二月本院事務章程ヲ改正セリト雖モ右會議ニ關スル事項ハ大體ニ於テ變更セラル、所ナシ唯從來總會議及部會議ハ課長ノ在閣ヲ經タル検査官補ノ報告書若クハ會計検査官ノ提出シタル文書ヲ以テ



議案トストアリシヲ會計検査官委員又ハ検査官補ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トスト改ム

**第三 支廳** 明治二十九年五月一日法律第九十二號ヲ以テ臺灣ニ會計検査院支廳ヲ設置ヘルノ法律ヲ定メ同日勅令第六十四號ヲ以テ會計検査院臺灣支廳事務章程ヲ定ム右ノ規定ニ依レハ臺灣地方所在官廳ノ歳入歳出及官有物ニ關スル計算ヲ検査スル爲メ會計検査院ニ一部ヲ増設シテ之ヲ臺灣ニ置キ會計検査院臺灣支廳ト稱ス會計検査院ニ部長一員、検査官三員、書記官一員、検査官補五員及屬若干員ヲ増置シ臺灣支廳ノ職員ニ充ツ而シテ部長ハ支廳中一切ノ事務ヲ管理シ職員ヲ監督ス部長事故アルトキハ上席ノ検査官之ヲ代理シ課長事故アルトキハ部長ノ命ニ依リ他ノ課長之ヲ代理ス書記官ハ部長ノ命ヲ受ケ庶務會計ヲ掌理シ屬ハ各課ニ屬シテ調査ニ從事シ又ハ書記官ニ屬シテ庶務會計ニ從事ス而シテ計算検査ノ判決ハ部會議ニ於テ之ヲ爲ス但シ院長ニ於テ總會議ヲ要スト定メタルモノハ此限ニアラス會計検査院長ハ其權限ニ屬スル事務ノ一部ヲ部長ニ委任スルコトヲ得ルモノトセリ然ルニ右ノ臺灣支廳ハ未タ開廳スルニ至ラスシテ明治三十年三月九日法律第二十五號ハ前記二十九年法律第九十二號ニ附則ヲ追加セリ曰ク會計検査院ハ當分ノ内左ノ職員ヲ増置シ本廳ニ於テ第一條ノ事務ヲ執行スルコトヲ得部長一員、検査官二員、検査官補二員、屬若干員トス是ニ於テ臺灣歳出入ノ検査ハ之ヲ支廳ニ於テセス本廳中ノ一部ニ於テ處理スルコト、ナレリ但シ此時以前ニ於ケル臺灣ノ歳出入ハ臨時軍事費ノ一部トシテ本廳内ノ委員ヲ以テ検査セシメタルモノナリ

### 第三款 主計局

大藏省主計局ノ沿革ハ中央機關ノ部ニ於テ詳述セルヲ以テ茲ニハ之ヲ省ク

## 第六章 中央當局者

### 第一節 金穀出納所時代

#### 第一 參與假新時代

林左門及三岡八郎

慶應三年十二月二十七日始メテ金穀出納所ノ開設セラレ、時ニ當テヤ百事草創未タ一定ノ職司ヲ置キテ其事務ヲ執ラシムルノ餘裕アラズ然レハ名護屋藩士林左門(後安孫子六郎ト改ム)福井藩士三岡八郎(後由利公正ト改ム)ノ兩人共ニ參與ヲ以テ假リニ其事務ヲ提掌スルコト、ナレリ

#### 第二 會計事務總督時代

一 岩倉具視中御門經之、淺野茂勳及西四辻公業

明治元年正月十七日新ニ會計事務課ヲ創設シ之ヲ以テ金穀出納所ノ事務ヲ管理セシムルコト、ナルヤ議定副總裁岩倉具視議定中御門經之同淺野茂勳(後長勳ト改ム)參與西四辻公業ノ四人共ニ會計事務總督トシテ其事務ニ執掌ス

#### 二 博經親王

明治元年正月二十三日議定博經親王(華頂宮)モ亦會計事務總督ノ任ニ當ラセ給フ

### 第二節 會計事務局時代

一 小原二兵衛  
 明治元年二月三日會計事務課並ニ金穀出納所ノ廢セラレテ會計事務局ノ起ルヤ職制亦革マル是日會計事務掛小原二兵衛會計事務局判事ニ任命セラレタリト雖モ長官ノ任命ハナカリキ

二 中御門經之  
 明治元年二月二十日議定中御門經之會計事務局督ニ任シ爾來其廢局ノ日ニ至ルマテ會計事務幹理ノ衝ニ當レリ

### 第三節 會計官時代

一 萬里小路博房  
 明治元年閏四月二十一日官制ノ改定アリ會計事務局廢セラレ會計官起ル是ニ於テ職制モ亦革マル是日議定兼京都裁判所總督萬里小路博房會計官知事ニ轉任シテ會計事務ノ首幹ト爲ル

二 中御門經之  
 明治元年八月二十二日議定中御門經之會計官知事ニ兼任ス

三 萬里小路博房  
 明治二年五月十五日會計官知事萬里小路博房會計官知事ニ任セラルル七月八日會計官ノ廢官ト共ニ宮内卿ニ轉任ス

### 第四節 大藏省時代

第一 大藏卿時代

一 大隈八太郎  
 明治二年七月八日官制ノ改革アリ會計官ヲ廢シテ代フルニ大藏省ヲ以テス是日會計官副知事大隈八太郎(後重信ト改ム)大藏大輔ニ任セラレ是月二十二日更ニ民部大輔ニ轉任ス當時未タ大藏卿ノ任命ナシ

二 伊藤俊介  
 明治二年七月二十二日大藏大輔大隈八太郎ノ民部大輔ニ轉任スルヤ伊藤俊介(後博文ト改ム)大藏少輔ヲ以テ本省ニ首班タリ

三 松平慶永  
 明治二年八月十八日大藏省ノ民部省ト合併スルヤ民部卿松平慶永大藏卿ニ兼任ス

四 大隈八太郎  
 明治二年八月二十四日民部卿兼大藏卿松平慶永ノ大學別當兼侍讀ニ轉任スルヤ復暫ラク大藏卿缺位ス當時本省ニ首班タリシハ大藏大輔大隈八太郎トス

五 伊達宗城  
 明治二年九月十二日從二位伊達宗城民部卿ニ任セラレ大藏卿ヲ兼ヌ越エテ三年七月十日大藏省ノ民部省ト分立スルヤ民部卿兼大藏卿伊達宗城大藏卿ニ任セラル

六 大久保利通  
 明治四年六月二十七日參議大久保利通大藏卿ニ任セラル但シ伊達宗城ノ大藏卿ヲ罷メタルハ九

月二十九日ナリトス

七 大隈重信

明治六年十月十二日大藏卿大久保利通ノ參議ニ轉任スルヤ暫ク大藏卿ヲ缺ク是時ニ當リテ本省ニ首班タリシハ大藏省事務總裁參議大隈重信ナリ尋テ同月二十五日大隈重信大藏卿ニ兼任シ十三年二月二十八日ニ至テ其兼官ヲ罷ム

八 佐野常民

明治十三年二月二十八日大隈重信ノ大藏省ヲ去ルヤ議官佐野常民入リテ大藏卿トナリ以テ十四年十月二十一日ニ至ル

九 松方正義

明治十四年十月二十一日大藏卿佐野常民ノ元老院副議長ニ轉任スルヤ内務卿松方正義參議兼大藏卿ニ任セラレ十七年七月七日伯爵ヲ授ケラル十八年十二月二十二日各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ大臣ヲ置クヤ松方正義大藏大臣ニ任ス

第二 大藏大臣時代

一 伯爵松方正義

明治十八年十二月二十二日伯爵松方正義大藏大臣ニ任シ引續キ本省ヲ總理ス二十四年五月六日内閣總理大臣兼大藏大臣ニ任セラレ二十五年八月八日依願本官竝ニ兼官ヲ免セラル

二 渡邊國武

明治二十五年八月八日大藏次官渡邊國武大藏大臣ニ任セラレ二十八年三月十七日遞信大臣ニ轉

任ス同年八月二十日子爵ヲ授ケラル

三 伯爵松方正義

明治二十八年三月十七日伯爵松方正義大藏大臣ニ任シ八月二十七日之ヲ罷ム

四 子爵渡邊國武

明治二十八年八月二十七日子爵渡邊國武大藏大臣ニ任シ二十九年九月十八日之ヲ罷ム

五 伯爵松方正義

明治二十九年九月十八日伯爵松方正義内閣總理大臣兼大藏大臣ニ任シ三十一年一月十二日之ヲ罷ム

六 伯爵井上馨

明治三十一年一月十二日伯爵井上馨大藏大臣ニ任セラレ以テ六月三十日ニ至ル

七 松田正久

明治三十一年六月三十日松田正久大藏大臣ニ任セラレ十一月八日之ヲ罷ム

八 伯爵松方正義

明治三十一年十一月八日伯爵松方正義大藏大臣ニ任シ三十三年十月十九日之ヲ罷ム

九 子爵渡邊國武

明治三十三年十月十九日子爵渡邊國武大藏大臣ニ任セラレ三十四年五月十四日依願本官ヲ免セラレ

十 侯爵西園寺公望

明治三十四年五月十四日侯爵西園寺公望樞密院議長兼内閣總理大臣ヲ以テ臨時大藏大臣ヲ兼任  
ス同年六月二日兼官ヲ免セラル

十一 會禰荒助

明治三十四年六月二日會禰荒助大藏大臣ニ任セラレ三十五年二月二十七日男爵ヲ授ケラル

三十一

第三編 會計法規

## 第三編 會計法規

### 第一章 總說

願フニ明治ノ初年ニ當リテハ内外多事ニシテ百事悉ク草創ニ屬セリ是ヲ以テ國資ヲ徵收スルニ一定ノ法ナク經費ヲ支出スルニ一定ノ則ナク場合ニ應シテ從來ノ慣例ト當局者ノ見解ト一依テ以テ事ヲ處斷セシモノ、如シ蓋シ當時維新擾亂ノ餘ヲ享ケ國庫ノ窮乏甚シク之ニ加フルニ官制法規ノ變革常ナク爲メニ會計ノ事務モ未タ其緒ニ就クニ遑アラサリシナリ是故ニ或ハ中央官廳ノ經費ニ關シ或ハ地方官廳ノ費途ニ付キ或ハ又工事ノ費用物品ノ賣買ニ關シテ毫モ成文法規ノ之ヲ統一スルモノアルナク一事ノ生スルアレハ則チ下官ノ伺トナリ上官ノ指令トナリ斷片ノ指令其數幾何ナルヲ知ラサルニ至レリ而シテ其間一二見ルヘキノ成規ナキニアラスト雖モ概シテ會計帳簿ノ種類計數記載ノ様式或ハ出納報告ノ時日等ヲ定メタルニ過キス然リト雖モ事務ノ複雜ニ赴クニ從ヒ之ヲ統一スル法規ノ必要ヲ感スルニ至ルハ自然ノ勢ナリ是ニ於テカ明治六年十二月初メテ金穀出納順序ノ制定ヲ見ルニ至レリ其前文ニ曰ク

各廳出納ノ順序等一定ノ方法無之ニ付今般右取扱ノ順序並書式勘定帳簿形共別冊頒布候條云云

ト以テ當時ノ狀態ヲ推知スルニ足ラン

斯ノ如クニシテ初メテ金穀出納順序ノ制定アリタリト雖モ其規定スル所實ニ粗笨ニシテ只金穀

出納ニ關スル手續法タルニ過キス併シ其規定中各廳常額金ハ其年額ヲ十二分シ毎月初旬大藏省ヨリ受取リ以テ其經費ニ充テシムルカ如キ或ハ毎年十一月各廳ハ其所管ノ經費ニ關シ翌年ノ概算帳ヲ調製シテ之ヲ大藏省ニ送附シ大藏省ハ此等概算ニ對シ收支ノ豫算表ヲ作り十二月限り太政官ニ上申スル規定ノ如キ多少觀ルヘキモノアリト雖モ他ハ皆金穀收入支出ニ關スル帳簿ノ種類ヲ規定セルニ止マリ未タ以テ一國財務ヲ處理スルニ適スルモノアラサリキ後明治八年三月府縣ニ令達シ一周年ノ收入及經費總額ヲ豫算シテ大藏省ニ差出サシムルコト、シ收入及經費ノ科目ヲ概記シテ以テ出納ノ照準ヲ示シ殊ニ經費ニ付テハ各科目ハ勿論小科目ト雖モ彼此之ヲ流用スルヲ禁シ五月各省ニ對シテ亦同様ノ布達ヲナセリ此ニ於テ收支ニ關スル制度ハ頗ル整備ヲ告ケタリ而シテ當時已ニ製絲鐵道及鑛山等各種ノ官業漸ク發達シ之ニ付テ特立ノ經濟ヲ立テシムルノ必要アルヲ以テ明治九年九月各廳作業費區分及受拂例則ヲ制定ス是レ即チ他日特別會計法制定ノ淵源ヲナセシモノニシテ特ニ注目スヘキ價值アルモノト云ハサルヘカラス次テ同年九月大藏省出納條例ノ制定アリ同條例ハ款ヲ重ヌルコト二十條ヲ追フコト二百七十四ノ多キニ上リ從テ其規定スル所ハ汎ク會計ノ全體ニ亘リ收支ノ科目豫算ノ調製出納ノ手續及監督ヨリ金穀ノ處置計簿ノ調理ニ至ルマテ實體法タルト手續法タルトヲ問ハス悉皆之ヲ網羅セリ

又一方ニ於テハ會計ノ事務益々複雜トナルニ從ヒ之ヲ審査監督セシムルハ會計制度ノ完成ヲ期スルニ當リテ必要缺クヘカラサルコトナルヲ以テ明治十一年一月金品出納ノ實況ヲ檢查スルタメ大藏省官吏ヲ派出セシムルコト、シ同時ニ検査員派出規程ヲ制定シ次テ大藏卿大隈重信ノ建議ニ基キ遂ニ明治十三年三月會計検査院ヲ太政官内ニ設置シ翌十四年四月ニ至リ從來存在ヒシ種

種ノ規則ヲ統一シテ會計法ヲ發布シ尋テ會計検査院章程ヲ制定セリ而シテ會計法ハ全篇五章六十一條ヨリ成リ其規定スル所ハ會計ノ年度歲計ノ區分科目ノ分類豫算ノ調理金錢ノ出納收支ノ決算等實ニ現行會計法ノ淵源ヲ爲セルモノニシテ會計検査院章程ニ於テハ豫算ノ審査金品出納財産管理ノ監査決算報告ノ調製及地方稅ニ關スル豫算決算報告ノ査閱等ヲ規定シタリ

前述諸法規ノ發布ニ依リ會計法規ハ大體ニ於テ稍整備ノ域ニ達セルニ似タルモ詳カニ其規定ヲ講究シ之ヲ財務ノ實際ニ應用スルニ當リ或ハ官廳ノ期限明劃ナラサルモノアリ或ハ豫算調製ノ順序繁雜ニ過キ或ハ現金出納ノ手續粗漏ニ失スル等尙ホ間然スヘキ點尠カラス因テ財政ノ發達ト官制ノ改正ニ伴ヒ明治二十二年現行會計法發布ニ至ルマテ屢一部ノ修正加除スルトヨリ即チ明治十五年一月會計法及會計検査院章程ヲ改正シ會計検査院ノ權限ヲ決算審査ニノミ限リタルカ如キ或ハ同十七年七月經費金支出條規ヲ制定シ各廳ノ經費ハ總テ大藏省ニ於テ管理シ其支拂ヲ執行セシムルカ如キ或ハ同十八年三月歲入出豫算條規ヲ制定シ豫算調製ノ方法ヲ一層精密ニ規定シタルカ如キ或ハ同十九年三月歲入歲出出納規則ヲ設ケ出納ノ順序ニ改良ヲ加ヘタルカ如キ其最モ著シキモノトス要スルニ是皆曩キノ會計法ヲ基礎トシ時宜ノ必要ニ應シタルモノニシテ又以テ明治二十二年會計法制定ノ要素トナリタルモノナリ

會計年度ニ關シテハ明治二年九月初メテ之カ規定ヲ設ケ十月ヨリ翌年九月ニ至ルマテヲ一年度トナセシカ五年十一月之ヲ改メテ一月乃至十二月ヲ一會計年度トナシ七年十月更ニ七月ヨリ翌年六月ニ至ル迄ヲ一會計年度トナシ十七年十月更ニ之ヲ改メテ四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル間ヲ以テ一會計年度ト定メ以テ歲出入ニ關スル會計上ノ區劃ヲ爲セリ明治二十二年帝國

憲法ノ發布アリ一國ノ政務茲ニ一新シ會計法規モ亦大ニ其面目ヲ改ムルニ至レリ即チ同年會計法ヲ改定シ得テ會計規則會計檢査院法物品會計規則金庫規則諸特別會計法歳入歳出豫算概定順序豫定經費算出概則及出納官吏現金取扱規則等ノ發布アリ孰モ二十三年ヨリ施行セラレ會計ニ關スル法規ハ殆ント茲ニ大成ヲ告ケタリ爾來年ヲ閱スルコト茲ニ十有餘年其間豫算決算ニ關シテハ重要ナル問題ヲ惹起セシコト一ニシテ足ラスト雖モ會計法規ニ關シテハ明治二十六年十月會計規則中主要ナル部分ニ修正ヲ加ヘタルノ外特ニ注意スヘキモノナシ然レトモ國運ノ進歩ニ伴ヒ財政ノ事愈々複雑ヲ極メ會計整理上特別經營ヲ要スル事項ノ漸ク増加スルニ至リシハ最モ顯著ナル現象ナリト云ハサルヘカラス

從來政府ノ會計ニシテ一般會計ノ法規ニ準由シ難キモノハ別途ニ會計ヲ立テ、之ヲ整理ヤシモノ少カラス而シテ其主ナルモノハ官業ニ關スル會計其他鐵道公債整理起業勸業及學校ニ關スル會計ノ如キ是ナリ然レトモ此等ノ別途會計ハ一定ノ法規ニ依テ劃然區別セラレタルモノハ非スシテ只其出納取扱ノ便宜ニ出テタルモノナレハ法規トシテハ或一二ノモノヲ除ク外ハ特ニ見ルヘキモノナシ即チ官業ニ關シテハ明治九年九月各廳作業費區分及受拂例則ノ制定アリ同十年九月作業費出納條例ノ發布アリテ大ニ作業上ノ會計ヲ整理シタルノ蹟アリト雖モ他ハ單一必要ニ應ジ整理ノ手續ヲ内定シタルニ過キササルヲ以テ其法規ハ同一ノ系統ニ因リテ發達シタルモノニアラス而シテ明治十九年一月大藏省調查局ヲ改メテ主計局ト爲シ同局中ニ雜種金課ヲ設置スルニ及ヒ政府ノ別途會計ニ屬スルモノハ總テ該課ニ於テ處理スルコト、ナリ其整理ノ區分稍明カナルニ至レリ尋テ明治二十二年會計法ノ制定セラル、ヤ同法ニ於テ特別ノ須要ニ因リ本法ニ

準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得トシ以テ一般會計ト特別會計ト、區別ヲ明ニセリ從テ明治二十三年以降官設ノ作業及學校等ニ關スル特別會計ヲ制定シ次テ此等特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ヲ制定セラレタリ殊ニ明治二十七八年日清戰役ノ起ルヤ臨時軍事費特別會計法ヲ定メ臨時軍事費ニ關スル收入支出ヲ處理シ明治二十九年三月臨時ノ軍務略ホ平常ニ復スルヤ其殘務ニ屬スル經費ハ一般會計法ニ依リ總豫算ニ編入整理スルヲ便トシ同月法律第十號及勅令第三十號ヲ以テ臨時軍事費特別會計ハ同月三十一日限り終結スルモノトセリ而シテ二十七八年戰役後我國カ清國ヨリ領收セシ償金ニ就テモ亦之ヲ特別會計トシテ整理スルノ必要アリシヲ以テ時ノ大藏大臣渡邊國武ハ明治二十九年一月償金特別會計法ヲ議會ニ提出シ協賛ヲ經テ同年三月法律第六號ヲ以テ之ヲ公布セリ而シテ此二特別會計ハ臨時ノ性質ヲ有シ自ラ他ノ特別會計ト異ル所アルト財政史上國民ノ最モ記憶スヘキ事項ナルヲ以テ本編中特ニ章ヲ設ケテ之ヲ詳説スルコト、セリ其他葉煙草專賣ニ關シ或ハ臺灣總督府ニ關シ或ハ教育基金、災害準備基金、軍艦水雷艇補充基金ニ關シテ特別會計法ヲ制定セシ等特別會計ノ種類漸次増加スルニ至リシハ國家ノ經營スヘキ事業益増加セシニヨルモノニシテ特ニ注目スヘキ事項ナリトス

次ニ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品、動物等其他一切ノ動産ノ出納及保管ニ關スル法規ハ一般金銀會計ニ比スレハ其發達スルコト遅ク且ツ其制度モ頗ル單純ナリ而シテ維新以來物品會計ニ關スル法規ハ發達ノ順序ニヨリ之ヲ二期ニ分ツヲ得ヘシ其第一期ハ明治初年ヨリ明治二十二年物品會計規則制定ニ至ル間ニシテ第二期ハ右會計規則制定以後ノ期間ヲ云フ其第一期ニ於テハ物品ノ出納保管ニ關シテ未タ秩序的法規ノ存スルコトナク偶各廳需用諸物品出納順序ノ如キ一



二規程ノ存セサルニアラサリシト雖モ概シテ不整備タルヲ免レサリキ然ルニ明治二十二年二月會計法ノ制定アリ一般政府ノ會計法規ノ面目ヲ一新シ次テ同年六月勅令第八十四號ヲ以テ物品會計規則ノ制定アルニ及ヒテ物品會計ニ關スル統一的法規茲ニ初メテ備ハリ金錢會計ニ關スル會計規則ト相竝ヒテ我國會計法規ノ完備ヲ告クルニ至レリ

國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、諸營造物、船舶等官有財産ノ管理ニ關スル規定ハ物品會計ニ關スル法規ト同シク其整備ヲ見ルニ至レルコト速カナラス漸ク之ニ關スル法規ノ統一完備スルニ至レルハ明治二十三年十一月勅令第二百七十五號官有財産管理規則制定以後ノコトニ屬ス蓋シ明治ノ初葉ニ於テハ百事創始ニ屬シ未タ官有財産ノ管理處分ニ關スル法則ヲ定ムルノ邊アラス皆之ヲ臨時ノ處分ニ委セタルカ如シ其後庶政漸ク緒ニ就クニ及ヒテ或ハ官有土地、官有林野又ハ官有家屋ノ管理ニ就キ各特別ノ規程ヲ設ケタルモノアリト雖モ其規定タル孰レモ未タ不整備不統一タルヲ免レス然ルニ明治二十三年官有財産管理規則ノ制定アリ茲ニ從來ノ錯雜セル諸法規ヲ統一シ官有財産管理ニ關スル一般的法規ヲ見ルニ至レリ尋テ官有土地ニ關シテハ官有地取扱規則、官有地特別處分規則等ノ特別法ノ制定アリ國有林野ニ關シテハ國有林野法等ヲ以テ詳細ノ規定ヲ設クルニ至リ官有財産ノ管理處分ニ關スル法規ハ全ク完備ノ域ニ達スルヲ得タリ

會計法上ニ於テハ政府ニ屬スル現金若クハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ出納官吏トシテ特別ノ責任ヲ有シ又格段ナル監督ヲ受ケシム蓋シ直接ニ金品取扱ノ衝ニ當ルモノハ最も違亂ヲ戒ムルヲ要スルヲ以テ特ニ其責任ヲ重クシ格段ナル監督ノ下ニ立タシメ以テ會計ノ嚴正ヲ期セルナリ然リ而シテ明治初年以來會計制度未タ整備セス現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ル官吏ニ關シテハ僅ニ

一般會計法規中ニ其職務責任ヲ規定シタルニ止マリ之ニ對シテ特別ノ義務ヲ負ハシメ特別ノ監督ヲ加フル格段ナル法規ノ存スルコトナカリシカ明治二十二年二月法律第四號會計法ノ制定セラル、ニ及ヒ其第九章ニ於テ特ニ出納官吏ノ章ヲ設ケ其責任ノ原則竝ニ身元保證金及他ノ職務兼任等ニ關スル規定ヲ設ケ同年四月勅令第六十號會計規則ニ於テモ特ニ一章ヲ設ケテ會計法ノ細則ヲ定メ同年大藏省令第十三號出納官吏身元保證規則二十三年勅令第四號出納官吏身元保證金ニ關スル規定同年大藏省令第二號出納官吏身元保證金取扱規則等ヲ以テ詳細ナル規定ヲ設ケタリ是ニ由テ之ヲ觀レハ出納官吏ニ關スル法規ハ明治二十二年會計法ノ制定ヲ以テ自ラ前後ノ二期ニ分タレタルモノト謂フヘシ

之ヲ要スルニ我國ノ會計法規ハ明治二十三年以前ハ極メテ不統一ナリシモ同年會計法並ニ會計ニ關スル諸則ノ實施セララル、ニ及ヒ漸ク整備ノ域ニ達スルヲ得タリ就中一般會計ト特別會計トノ區別ヲ明ニシ物品會計、官有財産管理、出納官吏等ノ規程明定セシコトハ特ニ注目スヘキ事項ナリトス

## 第二章 一般會計法

### 第一節 一般會計法規ノ第一期(自明治元年 至明治六年)

抑明治ノ初年ニ當リテハ百事皆草創ノ際ニ屬シ會計法規ノ如キモ亦固ヨリ整備スル能ハシ唯從來ノ慣例ニ從フニ過キサリシ且兵馬騷擾ノ餘ヲ承ケ國帑空乏ヲ極メシノミナラス東北ノ隅尙ホ朝命ニ抗シ國內未タ全ク平定セス軍需ノ金穀巨多ニシテ各廳ノ經費自カラ檢束ナク漸ク濫出ノ弊アルヲ免レサリキ是ニ於テカ政府ハ金穀ノ收支ニ檢束ヲ加ヘンカ爲メ明治二年正月出納司規則書ナルモノヲ制定シ之ニ由テ金穀出納ノ順序漸ク其緒ニ就クヲ得タリ

#### 出納司規則書

出納司ノ儀ハ米金御取締專一ニ相心得左ノ通取扱候様可仕奉存候

- 一、米金渡方ノ儀各官司共差定候諸入用ノ分ハ凡見込ヲ以伺ニ不及渡方取計一箇月限り清算ノ上翌月初旬ノ内仕上勘定帳請取内譯相改不相當ノ廉ハ其官司司へ申談爲引直右清算仕上帳差出方遲延オヨヒ候向へハ諸渡方仕間敷候事
- 一、月給渡方ノ儀ハ辦事衆ニテ人名並等級共突合相違無之分ハ伺ニ不及渡方取計並諸向等外附屬ノ者其向見込以月給取極判官事知司事等ヨリ斷有之不相當無之分ハ其官司司ノ印ヲ以是又伺ニ不及一纏ニ渡方取計候様可仕候
- 一、本祿並御扶助米被下候分モ先達テ追追御取極メ相成候分ハ是又伺ニ不及渡方取計候様可仕候

- 一、旅費渡方等御定則ニ不振分ハ勿論其時宜ニ寄取捨仕候儀御座候トモ前同様取計候様可仕候
- 一、清算仕上帳其官其司又ハ其局總裁ノ者印ヲ目當ニ取扱請取書等ノ突合ハ不仕積ニ御座候
- 一、臨時入用御渡方申出候向ハ行政官ヘ伺出候様ニ申達候得共格別ノ金高ニモ無之事實不相當ニ無之分ハ伺ニ不及渡方取計候様可仕候
- 一、米金臨時御出方諸拜借等御渡可相成廉廉御英斷ヲ以被仰出候儀ハ格別可相成ハ願人ヘ御沙汰以前御評決ノ儀一應御違御座候様兼テ辨事衆ヘ御打合可被下候
- 一、米金御出方ニ付テハ御評決相成候儀ニテモ相當仕間敷ト心付候儀ハ無腹藏存寄申上筋合難相分廉ハ渡方仕間敷ト奉存候
- 一、諸向共御金渡方ハ各官各司限リ通帳相用府縣所ヘ可相渡分ニテ通帳差支候節ハ別段證書取置候様可仕候
- 一、貨幣司ノ儀是迄ハ吹立金銀ヲ以吹元金銀御買上取計候得共以來ノ儀ハ吹元御買上ノ上其時時相渡通用金銀ニ吹立出來ノ分ハ十日目毎ニ上納ノ積其外吹立入用始メ諸入費ノ儀 前書各官各司差定候入用ノ振合ヲ以渡方取計候様仕候
- 一、右吹元唐金洋銀等ハ都テ出納司オイト御買上ノ上右兩局ヘ相渡候様可仕候
- 一、鑛山司オイト御買上取計候金銀銅代金ノ儀ハ右司ヨリ斷次第相渡金銀銅ノ儀ハ増減ノ時時有高書付取置候様可仕候
- 一、營繕司オイト新規御建物又ハ御修復向等ノ御入用判官事衆御評議濟相成候ハ、其段調印書付ヲ以出納司ヘ爲相達金高多少ニ寄數度ニ割合八步通迄ヲ目當ニ追追内渡取計殘リニ步通

ハ清算仕上帳差出候上相渡可申尤清算ノ儀ハ御普請御修復ノ多少ニ寄可申候得共可成丈遲遲不致様御場所出來後三十日ヲ限取調候様仕度且小破取繕等ノ分ハ諸向小買物等ノ振合ヲ以一箇月限清算ノ上御入用相渡候様可仕候

但仕様積書内譯ハ其司オイト吟味可致儀ニ付再改ハ仕間敷候得共其場所ニ對シ御入用過當ニ相見分候ハ品ニ寄一覽仕心付候儀申談候様可仕候哉

一、同司オイト至急ノ御建物等取計御入用見積モ無之節ハ臨時ノ取計ニ付其節伺ノ上渡方取計候様可仕候

一、諸向共上納物御渡モノ差引勘定ハ不致様仕度尤遠國府縣ノ儀ハ是迄御物成ノ内ヲ以月給諸入用等請取居候得共追追御渡物定員御取極メ相成御物成ハ都テ上納爲致御渡物ハ於當地別段御渡方取計候様仕度候

一、諸上納諸渡物共兩替町爲替方ニテ爲取扱候ニ付テハ同所包分ケノ場所ニ金銀座役人爲立會金銀竝金札共改ノ上封目改印爲致候様仕度候

一、出納司ノ内御金掛御米掛竝御扶助米渡取調掛ト三手ニ分課仕取扱罷在候得共判司事以下附屬ニ至迄其時時ノ模様ニ寄逸逸伺ニ不及御用多ノ方ヘ助合爲相勤候様可仕ト奉存候

一、高當リ拜借金札ノ内軍費其外差向候入用ノ廉ヘ振替渡願出候共都テ上京ノ上相願候様申達渡方仕間敷候事

但知縣事ノ分ハ振替相渡京師ヨリ其時時操戻候様可仕候

一、古金銀潰金銀竝差銀等御買上ノ儀ハ出納司オイト買入貨幣司ヘ相渡候様可仕候尤御買上場

所別段取開キ不申候テハ取扱向差支候間夫迄ハ只今迄ノ姿ヲ以取計置早右御買上場所取  
建候様可仕候

此年四月參與外國官副知事兼會計官副知事大隈八太郎太政官ニ建議シ政費濫出ノ時弊ヲ防遏ス  
ルハ宜シク會計出納ヲ監督スルノ一官司ヲ置キ金穀收支ノ條例定則ヲ設ケ之ニ照ラシテ諸般ノ  
請求ヲ許否スルノ權力ヲ附與スヘキ旨ヲ唱ヘ翌五月會計官職制章程ヲ定メ造幣局及監督租稅出  
納用度、營繕、鑛山ノ六司ヲ管セシム七月官制官等ヲ改正シ會計官ヲ廢シテ大藏省ヲ建テ造幣寮及  
通商、鑛山用度、監督租稅出納六司ヲ管セシム同年九月始メテ會計年度ヲ定メ其年十月ヨリ翌年九  
月ニ至ルマテ一會計年度ト爲ス蓋シ從來ハ正月ヨリ十二月ニ至ル曆年ヲ以テ會計上ノ年度ト  
セルナリ乃チ十一月七日大藏省ヨリ各官廳ニ達シテ各廳設置以來ノ經費金同年九月限り之ヲ精  
算シ十月以降ハ翌年九月ヲ限り新ニ其計算ヲナスヘキコト、セリ即チ左ノ如シ

官省院臺校

今般出納總計取調ヘ候ニ付於諸官省昨辰年建官以來諸用途諸拂向共當九月ヲ限勘定仕上ケ致  
シ十二月中旬迄ニ當省ヘ御差出可有之事

一當十月ヨリ諸帳面新規相仕立來ル午年九月ヲ限り勘定仕上前同様御取計ノ事  
右之通後年御心得可有之事

(雜形略)

明治二年九月會計年度ヲ定メシヲ以テ府縣及諸藩寄託地ニ令達シテ元年以降本年九月ニ至ルマ  
テノ貢納及諸費ヲ精算シ其十二月ヲ期シテ之ヲ進致セシメ其十月已降ハ帳簿ヲ新製シ翌年九月

ヲ限り決算シ爾後毎年十二月ヲ期シテ之ヲ錄上セシム

明治四年四月府縣ニ對シテ其經費ニ使用スル金穀ハ總テ赤紙切手ヲ以テ交付スルノ方法ヲ定ム  
蓋シ從前府縣ノ諸費ハ先ツ其歲額ヲ概計シテ置米金ト稱シ其徵收セル租稅米金ノ内ヨリ之ヲ控  
除シテ直ニ使用スルノ方法ナリシニ堤防道路修築費ノ如キ官民ノ兩費ニ屬スルモノヲ全部支辨  
スル等類ル出納ノ區域ヲ混淆セリ因テ府縣ノ經費ニ充ツルモノハ大藏省ヨリ節次ニ其金額ヲ記  
載セル赤紙切手ヲ交付シ府縣ハ其徵收セル租稅米金ヲ以テ一時經費ヲ支辨シ後日租稅完納ノ期  
ニ至リ現實ノ米金ト併セテ其切手ヲ納致セシムルノ法ヲ設ク

明治四年八月大藏省從來ノ官制ヲ改正シ更ニ戶籍、營繕、記錄、驛遞、勸業、租稅、紙幣、出納、統計、檢査ノ十  
一寮及正算司ヲ置ク蓋シ此ノ官制ノ改革アリシハ七月廢藩置縣ノ斷行セラレタルト嚮ニ財務調  
査ノ爲メ米國ニ派遣セラレタル大藏少輔伊藤博文ノ歸朝スルアリテ財政整理ニ關シ縷縷數千言  
大藏省ノ組織權限ヨリ處務細則ニ至ルマテ審ニ建議スル所アリシニヨル而シテ此ノ建議ニ參酌  
シテ傳票ニ關スル法規ヲ定メ各局ノ配置ヲ改メシハ大藏省ノ面目ヲ一新セシモノニシテ爾後漸  
ク出納法規ノ整齊ヲ見ルニ至リシモ亦實ニ此ニ淵源スト言ハサルヘカラス

同年八月開拓使十箇年間ノ經費額ヲ定ム同年十一月各縣ニ縣治條例ヲ頒布シテ常備金ノ規則ヲ  
定メ第一常備金ハ千六百圓第二常備金ハ四千五百圓ト限定シ之ヲ管轄石額二十萬石ノ定額ト爲  
ス第一常備金ハ縣廳ノ經費官員ノ巡視費使部以下ノ月給金ニ供ス管轄石額二十一萬石以上四十  
萬石以下ハ每一萬石ニ金五十圓ヲ増加ス即チ四十萬石ニシテ金二千六百圓ト爲シ四十一萬石以  
上ハ每一萬石ニ金三十圓ヲ増加ス即チ五十萬石ニシテ金二千九百圓ト爲ス他ハ此比例ニ準ス第

二常備金ハ管轄内ノ堤防橋渠道路等ノ破壊シテ少時モ緩過スヘカラサルノ修繕費ニ供ス管轄石額二十一萬石以上四十萬石以下ハ每一萬石ニ金百五十圓ヲ増加ス即チ四十萬石ニシテ金七千五百圓ト爲シ四十一萬石以上ハ每一萬石ニ金百圓ヲ増加ス即チ五十萬石ニシテ金八千五百圓ト爲ス但シ廳廡官舎牢獄等ヲ築造スル臨時費ハ常備金ノ支辨ニ屬セサルモノトス蓋シ從來府縣ノ經費ハ豫メ定額ヲ限定セス唯概計ヲ以テ租稅米金ノ内ヨリ之ニ充用セシモ會計ノ事務漸次整頓スルニ從ヒ其經費ヲ一定スルノ必要ヲ生シタルニ依リ茲ニ常備金規則ヲ設ケ以テ府縣經費定額金ノ制ヲ定メシナリ五年五月縣治條例中常備金規則ヲ改定シ第一常備金ハ二十萬石以下ハ每一萬石ニ金八十圓二十一萬石以上四十萬石以下ハ金五十圓四十一萬石以上ハ金三十圓ト爲シ縣廳ノ諸費及官員ノ巡視竝ニ地方派出ノ支費等外吏ノ月給其他囚獄等ノ經費ニ供ス第二常備金ハ二十萬石以下每一萬石ニ金二百二十五圓二十一萬石以上四十萬石以下ハ金百五十圓四十一萬石以上ハ金百圓ト爲シ堤防道路橋渠ノ急破修繕竝ニ臨時ノ經費水火災ノ救助等暫クモ緩過スヘカラサルノ要費ニ供セシム

明治五年九月文部省ノ同年十月以後ノ歳費定額ヲ假定ス十月左院及外務陸軍海軍工部宮内五省ノ同年九月ヨリ翌年九月ニ至ル歳費定額ヲ定ム蓋シ從來各官廳ノ經費ハ定額金ノ制ナク俸給旅費ヨリ營繕費用度品等ニ至ルマテ其支出ヲ要スルモノハ出納司ニ於テ一切之ヲ支辨セシモ是ニ至テ官廳經費定額ノ制略ホ定マルニ至レリ而シテ十一月官省ノ經費勘定帳ノ體列ヲ改メ官省ヲシテ毎月二十日限リ前月支出セシ經費額ヲ錄進セシメタリ此月曆法ヲ改定シ從來ノ會計年度ヲ改メ總テ一月ヨリ十二月ニ至ルマテヲ以テ一周年度ト爲シ各官廳金穀出納ノ取扱決算等ハ一切

之ニ準據シテ整理セシム

同年十一月赤紙切手ヲ廢シ別ニ納渡證書ヲ以テ府縣ノ經費米金ヲ交付スルノ方法ヲ設ケ新券ト稱ス蓋シ前年四月赤紙切手ヲ以テ授受スルノ方法ヲ設ケタルモ該切手ヲ發スルハ府縣ノ未タ租稅ヲ納致セサル以前ニアルヲ以テ其額ト租稅ノ實收額ト往々齟齬スルコトアルヲ免レス故ニ是ニ至リテ該新券ヲ以テ一旦其租稅ヲ納入スル順序ヲ爲シ更ニ府縣經費ニ充テ之ヲ交付スルノ方法ニ改定セリ尋テ六年四月新券ヲ廢シ更ニ爲替券ヲ以テ之ヲ交付スルノ方法ヲ定ム之レ全ク會計整理ノ目的ニ出テタルニ外ナラス

明治六年六月會計法沿革上ニ於テ最モ著明ナル一事實ヲ生セリ乃チ政府ノ見込會計表ノ公布是ナリ而シテ此ノ見込會計表ノ發布セララル、ニ至リシハ曩ニ大藏大輔井上馨同三等出仕澁澤榮一ニ氏ノ財政整理ニ關スル建議ヲ勸機トシテ顯ハレ來リシモノナリ抑モ明治五六年ノ頃ニ於テハ維新創始ノ際ニシテ官制未タ整備セス從ヒテ各省ノ權限自ラ明劃ナラサルモノアリ故ニ各省ノ事務ハ長官其人ノ手腕如何ニ依リ伸縮スルノ形況ナリ大藏省ハ明治二年會計官ノ後ヲ繼テ以來其事務漸次擴張シ一時ハ今日ノ内務農商務遞信諸省及會計檢査院ノ所管セル事務ヲモ包含シ且ツ明治ノ人才ハ多ク大藏省ニ集リタルヲ以テ其權力頗ル盛大ナルモノアリキ井上大藏大輔ハ明治三年乃至六年ノ間大藏省中首要ノ地位ヲ占メ殊ニ大藏卿大久保利通歐米巡回中ハ大藏卿代理ノ資格ヲ以テ其事務ヲ專行セリ斯クシテ漸ク政府内部ニ反對者ヲ生シ參議兼司法卿江藤新平ノ如キ最モ其反對ノ地位ニ立テリ是ニ於テ井上大藏大輔ノ意見往往廟議ニ納レラレサルモノアリ明治六年五月七日大藏省三等出仕澁澤榮一ト共ニ政府ノ財政ニ關スル一大建議ヲナシ同月十四

日二氏執ヲ連ネテ官ヲ辭セリ其建議ノ主旨ハ要スルニ民力ヲ休養シテ國家ノ富強ヲ計リ一般ノ政務ハ國庫歲入ノ力ニ應シテ漸ヲ以テ之ヲ擴張スヘク出入平衡ヲ失シテ維新ノ大業中途ニシテ蹉跎スルノ憂ナカラシムヘシト云フニアリ而シテ全國歲入ノ總額ヲ四千萬圓歲出ヲ五千萬圓トナシ歲入不足一千萬圓其他ノ負債一億三千萬圓ノ巨額ニ上レリトシ大ニ財政ノ悲況ヲ唱、テ經費ノ緊縮ヲ痛論セリ(後議全文ハ緒言ノ部ニ出ツ)此建議ハ固ヨリ廟議ノ納ル、トコロトナラス直ニ却下セラレタリ其指令全文左ノ如シ

指令

明治六年五月十八日

建言ノ主意其立論適當ノ事ニ候ヘトモ事ヲ擧ケ實ヲ指シ候處ハ現實ト相違候儀不少尤政理民力相背カサルヲ以テ從來ノ標準トナスヘキ等云云ハ適切ノ筋ニテ既ニ今般太政官事務章程改正被仰出候御主意ニ候ヘハ右等ノ儀ニ付テハ安心可有之候然ル處歲出入ヲ概算シ一千萬圓餘ノ不足ヲ生シ候等ノ儀書載候得共右ハ米價一石二圓七十五錢ヲ以テ善當候積ニテ且此内ニハ逐年繰戻ニ相成候分又ハ廢藩置縣ノ如キ非常ノ人費或ハ一時ノ費ノミニテ年年例算スヘカラサル者モ有之其上政府現今ノ負債ヲ論シ實ニ一億四千萬圓ニ下ラスト有之是亦計算上大ニ相違ノ慶不少彼是實事ニ徴シ勘合候ヘハ必シモ毎年一千萬圓ノ不足ヲ生シ又一億四千萬圓ノ巨債ヲ負ヒ候譯ニ無之旁、右等申出ノ儀不都合ノ次第ニ付書面其儘差戻候事

然ルニ此建議ノ漏レテ橫濱日新真事誌ニ掲載セラル、ヤ世人ヲシテ政府ノ會計危殆ナリトノ疑惑ヲ懷カシムルニ至リ朝野ノ議論大ニ沸騰スルニ至レリ是ニ於テ乎政府ハ其信用ヲ維持センカ爲メ歲計概算ヲ公ニスルノ必要ニ迫リ初メテ歲入出見込會計表ヲ公布シ世人ヲシテ其疑ヲ解カ

シメンコトヲ力メタリ

番外建

各省使府縣

前大藏大輔井上馨同三等出仕澁澤榮一前日差出候建言中誤謬ノ慶有之候ニ付歲計概算更精密取調候様大藏省事務總裁參議大隈重信へ兼而相違置候處此度別紙ノ通取調差出候ニ付爲心得此段相違候事

明治六年六月九日

太政大臣 三條 實美

(別紙)

參議大隈重信謹テ 太政大臣閣下ニ白ス慶キニ前大藏大輔井上馨同三等出仕澁澤榮一カ辭職ニ臨ミ閣下ニ上ル所ノ建議其論固ヨリ愛國ノ衷情ニ出ルト雖モ措辭實ニ過キ議論激ニ超エ且歲出入ヲ計ルニ至テハ多ク臆測ノ概算ニ出ツ是レ閣下ノ其書ヲ翻テ採用セサル所以ナリ然リ而シテ誤テ新聞紙ニ刊行セシヨリ中外人民其主職ノ上書タルヲ以テ固ヨリ眞確ナルコト、信シ大ニ紛紜ノ物議ヲ生スルニ至ル重信現職大藏ノ總裁ヲ辱ウス特ニ其會計實況ノ當否ヲ辯明スヘキノ欽命ヲ奉セリ於是テ其省ニ就キ其主職ノ官員ニ審問シ其簿記ヲ查覈シ實額ヲ計算シ乃チ別記ノ正數ヲ得タリ因テ簿錄上呈ス抑モ財政ハ皇國安危ノ關係スル所尙モ其當ヲ誤レハ不測ノ患害ヲ釀スコト彈指ノ間ニアルヤ固ヨリ論ヲ俟サルナリ然ルニ今二氏ノ論スル所ノ如クナレハ我政府ニ對シ中外人民ノ信憑依頼ヲ薄クシ是カ爲メニ疑惑ヲ生スルニ至ラン然ル時ハ其關係スル所亦大ナリトス故ニ切ニ望ム今錄呈スル所ノ歲計表ヲ遣ニ中外人民ニ公布シ以テ其疑惑ヲ解キ其物議ヲ止ンコトヲ誠恐ノ至ニ堪ヘス

一 此歳人ハ近年ノ收納ノ科目ニ準據シテ今後周年ノ税額ヲ計上シ其收入シ得ヘキノ大數ヲ擧クルモノナリト雖モ既往ハ實際之レヲ收課スルニ及ンテハ未納或ハ延納其他種種ノ通弊アルヲ以テ常ニ其額ニ充ツル能ハサルコトアリシナリ然レトモ今ヤ實際上ニ付テ監督ノ如此ノ通弊ヲ釐正シテ萬緒其序ヲ得ルニ至ラントスレハ歳入ノ額ハ増加ストモ減損スルノ理斷ヘテナキナリ

一 此歳出モ亦前年ノ科目ニ因據シテ計上セシナレハ今後ニ至テハ大ナル差異ヲ生スルコトナカルヘシ然レトモ定數ノ費ハ省冗節略シ百般其序ヲ得ルニ至ラハ必ス減省スヘキモノナリ然リ而シテ臨時失費ノ如キハ豫算シ得難キモノナレハ其額或ハ之ヨリ増加スルヤモ難測モノナリ然レトモ歳入ノ歳出ヲ償フ能ハサルノ害ナキハ決然疑フヘカラサルナリ

一 先次倫敦ニテ告知セシ我歳入歳出ノ表澳國博覽會ニ我公使ノ携帶セシ表及ヒ今此ニ提クルモノト歳入歳出ノ金額相異ル所以ヲ辯明セン抑我邦ヤ各外邦ト異ニシテ庶民ヨリ納ル、所ノ租税多クハ米ヲ以テスレハ其米價ノ高低ニ依リ出入ノ額ニ於テ大ナル差異ヲ生スルナリ實ニ今年ノ如キハ米價低下ノ極度ト雖モ猶今此ニ揭示スル金額ノ歳入アリ又近時ノ如キハ辰巳兩度ノ戰爭及ヒ廢藩置縣ノ改革ヲ施行セシナレハ其費莫大ニシテ二三箇月間ノ算計ニ於テモ亦大ナル差異ヲ生セシナリ又税法更正ノ際大ニ收納ノ額上ニ差異ヲ生セシニ因テナリ今ヤ廢藩立縣ノ擧モ整ヒ其序ニ就キ税法ノ釐正モ其端緒ヲ得ルニ至リシナレハ從令ハ從且是迄一般政府ノ所有ノコトキ權アリシカ近時地券ヲ施行シ人民所有タルノ權擴ナキ等ヲ云歳入ノ税日ニ増シ月ニ加ルニ從テ起手ノ事業モ大ニ増加スヘシト雖モ歳入ノ歳出ヨリ多キ

ハ論ヲ侍タサルナリ

一 今此ニ掲クル定費臨時費ノ如キハ素ヨリ確定ノ數ニハアラス今ヤ創業ノ際新タニ著手スヘキ百般ノ作業則チ鐵路ヲ設ケ燈臺ヲ築キ電線ヲ架シ諸般ノ工場ヲ開設シ或ハ官廳ヲ造營シ陣營ヲ建築スル等ノ費用ヲモ計上セシモノナレハ明年歳出ノ額減損スルコト必然ナリ上ニ掲クル事件ノ如キハ一時成效ノ上ハ年年新建スヘキモノニアラス唯修繕ノ細費ヲ要スヘキモノニシテ又夫レヨリ生スル利益アルコト疑ナシ然ラハ追年歳出ハ減シ歳入ハ加フルニ至ルヘキナリ萬一歳入ノ額不定ノコトアルトキハ上ノ如キ起手スヘキ業ニ付緩急輕重ヲ計リ箇裏ノ緩輕ナルモノヲ次年ニ譲リ得ルコトナレハ到底歳入ノ歳出ヲ償フ能ハサルノ害ナキコトヲ重言スルモノナリ諸事ノ成效及ヒ其費用ノ如キハ次年ニ出ス處ノ表中ニ於テ明了ニ揭示スヘキナリ

一 國債ノ如キハ内外ノ兩債ヲ負フト雖モ外債ヲ償フニハ諸族ノ祿制ヲ定メ有餘ヲ以テ不足ヲ償フノ規ヲ設ケテ以テ之ヲ支消スルノ一處法アリ又内債ノ如キハ之レニ充ルモノアリ即チ政府ヨリ庶民ヘ貸出セシ金穀ナリ又紙幣ノ發行アリト雖モ之レニ充ツルニ準備金ト稱スルモノニシテ大藏省ノ倉庫中ニ藏蓄セシモノアリ此三條ノ分明ナル解説ハ不日精細ニ調査シテ公布スヘキモノナリ

明治六年歳入出見込會計表

歳入ノ部

第一 正租 總計金四千百萬六千四百四十八圓二十八錢三厘

內譯	田租	金四千二十六萬三千五百八十八圓六十錢
三府稅商賣 免許稅其外		金三十一萬六千二百三十三圓六十八錢三厘
各種ノ鑑札稅		金三十三萬五千圓
船稅		金三萬四千圓
婢僕車馬ノ稅		金六萬三千二百三十六圓
第二 印紙稅	總計金百三十萬圓	
第三 酒類其他各種ノ稅	總計金二百十三萬七千六百四十一圓	
內譯	酒類稅	金七十七萬四千圓
	絞油稅	金五萬五千圓
	砂糖稅	金二十八萬七千七百七圓
	各種ノ稅	金百二萬九百三十四圓
第四 海關稅並諸稅	總計金百八十二萬三千九百九圓	
內譯	東京	金四千六百八十四圓
	橫濱	金百二十七萬四千八十一圓
	兵庫	金三十萬五千二百三十八圓

大阪	金八萬九千三百三十四圓	
長崎	金十五萬三千七百二十三圓	
新潟	金四百四十九圓	
第五 郵便稅汽車電信ノ收入	總計金四十萬圓	
內譯	郵便稅	金二十萬圓
	汽車電信ノ收入	金二十萬圓
第六 北海道收納高	總計金三十三萬八千八百七十二圓五十錢	
內譯	產物ノ稅	金三十一萬圓
	海關稅	金二萬二千圓
	正租雜稅	金六千八百七十二圓五十錢
第七 臨時種種ノ入高	總計金百七十三萬七千七百七十二圓五十錢	
內譯	貸出金及利足	金百二十二萬九千八百八十二圓五十錢
	缺所物其他拂下ケ	金三十萬八千九十圓
	贖金	金二十萬圓
通計		



通常歲入	金四千七百萬六千八百十圓七十八錢三厘
臨時歲入	金百七十三萬七十二圓五十錢
歲入總計	金四千八百七十三萬六千八百八十三圓二十八錢三厘
歲出ノ部	
第一 國債償却	總計金二百六十七萬九千百圓
內譯	
無利足ニテ元金ヲ	金五十萬八千七百圓
償還スヘキ内國債	同上
利足ト共ニ元金ヲ償還	金百十萬四百圓
スヘキ内國債及利足	同上
一時償還ス	金二十五萬圓
ヘキ内國債	
外國債	元金四十五萬圓 利足金三十七萬圓
第二 實業家録	總計金二千二百六十一萬三千八百十六圓三十五錢五厘
第三 營繕堤防	總計金四百萬圓
第四 外國交際	總計金十萬六千四百四十圓
第五 太政官	總計金三十三萬圓
第六 各省使	總計金二千三百三十五萬五千六百七十二圓十錢九厘
府縣使	
內譯	
外務省	金十六萬八千七百圓

大藏省	金八十九萬三千四百九十九圓
陸軍省	金八百萬圓
海軍省	金百八十萬圓
文部省	金百三十萬圓
教部省	金五萬圓
工部省	金二百九十萬圓
司法省	金六十三萬圓
宮内省	金六十四萬三千五百五十二圓六十錢九厘
開拓使	金百十七萬七千三百十二圓五十錢
三府	金八十萬三千四百一十一圓
諸縣	金二百九十九萬二千二百六十七圓
第七 府縣捕亡及選卒費	總計金八十五萬圓
內譯	
三府選卒	金五十七萬九千三百十三圓
各縣捕亡及選卒	金二十七萬六千八百八十七圓
第八 米英公使館	金八萬九千二百圓
第九 紐育外領事館	金二萬百六十四圓
第十 臨時歲出	總計金四百五十五萬七千三十圓

内譯

大藏省郵政改正舊幣幣引 金百六十四萬二千六百圓

特命全權大使各洲巡行 金十七萬二千三百圓

澳國博覽會 金二十四萬二千三百三十圓

一般臨時費ノ豫備 金二百五十萬圓

通計

通常歳出 金四千二百三萬八千五百八十八圓四十六錢四厘

通計

臨時歳出 金四百五十五萬七千三十圓

歳出總計 金四千六百五十九萬五千六百十八圓四十六錢四厘

歳入總計 金四千八百七十三萬六千八百八十三圓二十八錢三厘

歳出總計 金四千六百五十九萬五千六百十八圓四十六錢四厘

歳入ノ歳出ヨリ多キ高

金二百十四萬千二百六十四圓八十一錢九厘

國債

内國債

有利足債 金千三百七十五萬五千八百七十三圓

無利足債 金千二百七十一萬八千四百七十八圓

合金二千六百四十七萬四千三百五十一圓

内

金七十五萬八千七百圓 年賦ノ内明治五年六月分並時支消ノ分共本年債却ノ高

殘債金二千五百七十一萬五千六百五十一圓 明治七年以後可債却分

外國債

債金五百五十萬九千五百圓

合内外國債 三千百二十二萬四千七百一圓

此見込會計表ノ公布アルヤ曩ニ井上澁澤二氏ノ建白書ニ依リ一度政府財政ノ危殆ニ一驚ヲ喫セシメタル世人ヲシテ更ニ又其會計ノ豐ナルヲ信セシムルニ至リ政府カ此會計表ヲ公ニシタル目的ハ爰ニ充分ニ達セラレタルモノナリ而シテ右會計表ノ正否ハ明治十三年二月制定明治元年乃至八年八期間決算報告ニ徴スレハ自カラ瞭然タルモノアラン  
右ノ見込會計表ハ一歳間ニ入ルヘキモノト出ツヘキモノトヲ概算シタルニ止マリ所謂豫算ノ性質ヲ有スルモノニアラスシテ太政大臣ノ達文ニモ首々爲心得トアリテ命令ノ意ヲ示サ、ルナリ然レトモ一度此會計表ノ公布アルヤ政府ハ之ニ據リテ會計事務ヲ處理監督スルコトノ頗ル便宜ニシテ效果ノ大ナルヲ悟リ爾後毎年此表ヲ調製公布スルノ習慣トナリ終ニ變遷シテ真正ノ豫算ヲ形作ルニ至レリ則チ此見込會計表ノ公布ハ會計法規ノ發達上ニ於テ大ナル影響ヲ及ホンタルモノト謂フヘシ蓋シ當時井上澁澤二氏ノ財政ニ關スル建白書ハ直チニ政府ノ却下スル所トナリタリト雖モ此建白ハ實ニ意外ノ良結果ヲ我國會計整理上ニ生シタルモノト云フヘシ之ヲ歐米諸

國ニ就キテ考フルニ立憲政體ノ國ニアラスシテ會計ヲ公示スルモノ未タ之アラサリシナリ然ルニ其當時已ニ我國ニ於テ政府ノ會計ヲ公示シタルハ良制トシテ大ニ誇ルニ足ルモノト云ハサルヲ得ス

明治六年九月太政官ヨリ諸省ニ令シテ各官工場及病院等ニ係ル一切ノ收入並其經費ノ精算簿ヲ大藏省ニ錄致セシム蓋シ從來財政上各省分立シテ其收入ヲ專行セシニヨリ收入ノ多寡經費ノ増減ヲ知リ兼テ將來ノ豫算ヲ査定スルニ便ナラサリシヲ以テ之ヲ統一セシナリ其令達左ノ如シ

番外達

諸省

諸省收入金海軍省主船寮船塢修置代及器械賣拂代文部其他不用物品賣拂代等從前各省限リ出納取計費用差引殘金上納或ハ勘定元ニ組込等區區ノ處分ニ係リ不都合候條右等ノ類ハ當九月ヨリ毎月勘定帳ヲ副翌月十日マテ大藏省へ可和納八月以前ノ分ハ別段勘定帳取調殘金無付可致此旨相達候事

但翌月十日マテニ上納差支向モ有之候ハ、同省へ其次詳細可申出事

尋テ十二月ニ至リ金穀出納順序ヲ定ム而シテ其要領ハ專ラ收入金額ト經費トノ區別ヲ判明ニシ毎月ノ出納ヲ登記スル計簿ヲ制定シ以テ月計年計ヲ精確ニシ且ツ經費ノ明註ヲ要スルカ爲メ毎種目ニ明細ナル表ヲ付シテ之ヲ大藏省ニ送致セシメ而シテ從前計簿ニ副具セシ小譯證書ノ之ヲ廢止シ官省使ハ每一箇月府縣ハ每三箇月ヲ以テ計簿ヲ整理スルノ期ト爲ス其他各計簿ヲ製スルノ順序及ヒ支應ノ出納ヲ逐次合算スルノ規則ニ至ルマテ悉ク様式ヲ以テ之ヲ詳記ス又各官廳ヨリ翌年一切ノ費用ヲ概算シテ毎年十一月十五日ヲ期シ之ヲ大藏省ニ送致セシメ大藏省ハ之ニ依

據シテ各其當否ヲ點檢査定シ翌年一切ノ經費ヲ豫算シ之ヲ太政官ニ具進スルモノトセリ是レ所謂豫算ノ方法ヲ各廳經費ノ上ニ施行シタルモノニ似タリ其全文左ノ如シ

明治六年十二月太政官第四百二十八號達

院 省

各廳ノ出納ノ順序等一定ノ方法無之ニ付今般右取扱ノ順序並書式勘定帳雛形共別冊頒布候條右ニ照準來明治七年一月ヨリ施行可致尤從前勘定帳ニ相添差出來候小譯證書等ノ儀ハ爾後不及差出候此旨相達候事

但本年大藏省第五百五十四號布達勘定書式ノ内一旦本拂ノ分差繼拂ノ廉ハ今般相達候勘定書式ノ通更正候條此旨可相心得事

(別冊)

金穀出納順序

凡ソ金穀ヲ出納スルノ順序ハ須ク先ツ簿書ノ體裁ヲ精覈ニシ日目ノ入出ヲ遺漏錯雜ナキ様詳記スヘシ日目ノ計算精密ナレハ月計歲計ニ至リ自ラ明瞭ニシテ獨リ調査考檢ノ勞費ヲ省クノミナラス矛盾差謬ノ弊ナキニ至ラン依テ其處務ノ順序簿書ノ體裁ヲ約略左ニ掲ク

第一條

一 常額金ハ年額ヲ十二分シ毎月初旬大藏省ヨリ受取以テ權限ノ費用ニ充ツ其受取ノ手續ハ大藏省ノ規則ニ從フヘシ

第二條

一金穀ノ出納ヲ登記スル帳簿ノ類ハ左ノ體裁ニ從フヲ則トス

日計簿 一冊

此簿冊ハ本假納拂ハ勿論返納交換等ニ至ル迄毎日出納スル一切ノ金穀ハ無漏員數及ヒ受入拂出ノ旨趣人名等ヲ式ノ如ク詳記シ納拂トモニ金ハ切符米ハ預リ人證書ト同一ノ番號ヲ付シ主務ノ吏員檢印課長之ニ割印シ日毎ニ納拂ノ合計ヲ差引現在ノ有高ヲ算定シ而シテ其記載セシ費目ヲ部分シテ諸受拂帳及ヒ追算簿差繼帳等ニ編入登記シ月末ニ至リ總計各種ノ入拂高ヲ區別シ以テ其編入スル所ノ帳簿合計ト照合ス可シ

銀行ニテハ

金銀預ケ帳

同預リ帳

同斷

金銀受取帳

同上納帳

此簿冊ハ官廳ヨリ銀行等ニ金銀ヲ預ケ或ハ預金ヲ取出ス時取替ノ證ニシテ元受帳二冊拂出帳二冊ヲ製シ金銀ヲ預ル時官ノ預ケ帳ト銀行預リ帳ト兩帳一樣ノ證文ヲ登記シ預入ノ證印ヲ取り長官陸軍省監官長海軍省主計大監工部省會之ニ割印シ預ケ金ヲ拂出ス時ハ受取帳ト上納帳上一樣ニ記證シ前同様長官割印シ一帳ハ其廳ニ備置一帳ハ預人ニ交付ス而シテ其預金ヲ取出ス時竝納金ヲ相預クル時ハ左ノ順序ニ從フヘシ  
一納金ハ納人ヨリ直ニ預リ人ニ相渡預リ人ハ金質見改ノ上其員數事由及ヒ納人ノ姓名ヲ記セシ預リ切符ヲ納人ニ渡スヘシ納人ハ此切符ヲ以廳ニ上納スヘキナリ廳ニ於テハ式ノ如ク日計簿ニ登記シ長官名印ノ領收證書ヲ作り日計簿ト同一ノ番號ヲ付シ主務ノ吏

員檢印課長割印ノ上納人ニ下付ス而シテ切符ハ月末取束ネ預リ帳ニ移載シ長官コレニ割印シテ預人ニ下戻スヘシ

一預金ヲ取出ス時ハ其金員ト費用ノ要旨ト受取人ノ姓名トヲ記載セシ切符ヲ作り日計簿ト同一ノ番號ヲ付シ主務ノ吏員之ニ檢印シ課長割印ノ上受取人ニ交付ス受取人ハ此切符ヲ以テ預リ人ヨリ現金ヲ受取ヘキナリ右ノ切符ハ月末ニ至リ集計シテ預リ人ヨリ出サシメ日計簿ト照査シ切符ハ消抹シ而シテ預ケ帳ニ其月出金總計若干預ケ金高若干ト通算登記シ其金員ニ長官割印シ此差引殘金高ヲ以テ翌月預ノ元ニ立此ノ金高ヲ預ケ人ト預リ人ト雙方ヨリ五日迄ニ大藏省ニ届出ヘシ

一凡ソ官金ヲ銀行等ニ預クルニハ例規ニ照ラシ相當ノ價アル不動産ヲ書入レタル證書又ハ公債證書ヲ領收シ異日謬違ナキ様精密注意スヘシ

但不動産公債證書等ノ金高ニヨリ其預ケ高ヲ參酌増減シ時時銀行等ニ至リ之ヲ點檢スヘシ

金穀受拂帳 各冊

日計簿金穀納拂ノ内本假ハ勿論重複混淆等ノ儀無之様一一點檢考査ノ上費目ニ隨テ部分登記シ而後精密算勘シテ元拂殘ノ合計差謬ナキヲ要シ以テ勘定帳仕組ノ根據トスヘシ

追算簿 一冊

凡日計簿ニ掲クル入拂ノ内決算ニ至ラサルモノハ本人拂ト錯綜ナラサル爲詳悉部分シテ如式此帳簿ニ明瞭登記シ而シテ假拂ノ廉決算ニ至ルトキハ最前ノ假拂高ヲ悉ク一旦返納

以テ假拂ノ廉ヲ消抹シ其決算高ヲ更ニ日計簿拂ニ相立若シ半ハ決算半ハ未決算ノ節ハ前同様返納シテ假拂ノ廉一旦取消シ而シテ決算濟ノ分ハ日計簿本拂未決算ノ分ハ同帳假拂ニ立コレヲ追算簿ニ詳記シ順次如斯ナサシメ月末ニ至リ之ヲ調査シテ決算ノ濟未濟ヲ辨別シ若シ決算遅延ナルアレハ之ヲ督促スルヲ要ス

差繼簿 一冊

此簿冊ハ日計簿ヨリ移載セシ官員備士ノ月給旅費等總テ一旦本拂ニ立ル後事故アリテ返納スルアレハ出納重複ナラサル爲メ各種分別シテ其金員事由等ヲ詳細登記シ月末ニ至リ同種仕拂高ノ内へ差繼計算上錯雜ナキヲ要ス

金穀有高表

此表面ハ各種毎日ノ元受高ト拂出高トノ差引ヲナシ殘金穀ノ現穀ヲ一目瞭然タラシム故ニ諸受拂帳其他簿冊ノ合計ヲ移載シテ可ナリ但シ長官之ヲ閱シ一一之ニ檢印シ以テ量爲ノ斟酌ヲナスヘシ

右ノ外計算上便利ノ爲メ各種ノ費用ヲ分別シテ計算簿類ヲ製スル等ハ其應ノ便宜ニ從フヘシ

第三條

一支應ハ一箇所毎ニ豫メ定額ヲ立定シ毎月本應常額金ノ内ヲ以テ支派シ日計簿ヨリ之ヲ追算簿ニ移載シ漸次決算スヘシ其出納簿記ノ體裁ハ本應ノ順序ニ倣ヒ勘定帳式ノ如ク整理シテ毎月本應ニ送致シ之ヲ本應ノ勘定帳ニ合算スヘシ

第四條

一 額内外トモ經費内譯調査ノ爲メ明細表雛形ノ如ク一種毎ニ之ヲ製シ勘定帳一同大藏省ニ送致スヘシ尤モ陸軍省教導團表面ノ如キハ從前ノ通ニテ妨ナシ

第五條

一本應支應ニ於テ不用物品其外賣却代價又ハ手數料等一切收入スル金額ハ雛形ノ如ク每一月別ニ勘定簿冊ヲ整理シ大藏省ニ上納スヘシ  
但支應ノ分ハ本應勘定帳ニ合算スヘシ

第六條

一 凡ソ金穀ヲ出入スル細大トナク主務ノ者必ス考按ヲ具シ逐一其受拂フヘキ員數ト事款トヲ掲ケテ回議ニ付シ長官ノ檢印ヲ經ルノ後タルヘシ假令ヒ急速ノ際些少ノ員數ト云フトモ長官ノ檢印ナクシテ出納スルヲ許サス而シテ其檢印アル原書ハ宜ク分類編輯シ以テ異日ノ照會ニ供スヘシ

第七條

一 官員備士等ノ月給旅費等ニ至ル迄總テ支出スル所ノモノハ必ス受領ノ證書ヲ領收シテ切符ヲ交付シ日用什器買上代等元金交付セスシテ差支ル類ハ其月月費額ヲ見積若干ノ金員別ニ出納課ニ受入置毎月仕拂高精算相立殘金返還シ更ニ後月ノ裁額ヲ受拂フヘシ而シテ徵收スル所ノ證書ハ其時時主任檢印ヲ加ヘ各官分類編輯シテ後照ニ供スヘシ

第八條

一 每年十一月ニ至リ翌全年其廳所管ノ費用一切ノ目的ヲ立當費臨時費ヲ區分シ詳明ニ列載セ  
ル概算帳ヲ作り之ヲ大藏省ニ送付ス於同省ハ院省使府縣ノ概算ヲ集計シテ一表ヲ製シ前年  
十二月限正院ニ上申スヘシ

(以下勘定帳等難形略ス)

此出納順序ハ頗ル簡單ニシテ全文僅ニ十一箇條ヨリ成レリト雖モ他日會計法制定ノ基礎ハ實ニ  
此ニ置カレタルモノトイフヘシ然リ而シテ明治二年一月處務細則ヲ定メテ出納ノ檢束會計統一  
ノ端ヲ啓キテヨリ月ヲ累ネ歲ヲ追フテ國家ノ財務漸シ發達ノ萌芽ヲ現シタルヲ以テ更ニ之ニ適  
應セル會計法規制定ノ必要ヲ生シタルニ因ルモノト謂フヘシ

同月更ニ府縣ノ金穀出納順序ヲ定メ官員ノ月給並ニ常費捕亡費其他概費金穀ハ前半年額ハ其前  
年十一月後半額ハ其年五月ヲ期シ大藏省ニ申請シテ之ヲ領受シ一切ノ費用ニ充テシム且常備  
金ノ名稱ヲ改メ第一常備ヲ常費第二常備ヲ豫備凡積置米金ヲ概費ト爲シ其他第二常備ヲ以テ繰  
替及臨時ニ支給スルノ費用ハ概シテ臨時費ト改稱ス其規定左ノ如シ

第四百二十七號達

京都大阪二府並諸縣

各廳金穀出納ノ順序等一定ノ方法無之ニ付今般右取扱ノ順序並書式勘定帳難形共別冊頒布候  
條右ニ照準來明治七年一月ヨリ施行可致尤從前勘定帳ニ相添差出來候小譯證書ノ儀ハ爾後不  
及差出候此旨相達候事

但從前唱來候諸縣第一常備ハ常費第二常備ハ豫備凡積置米金ハ概費其他第二常備ヲ以テ繰替  
及ヒ臨時支給ノ費用ハ概シテ臨時費ト改稱シ且本年大藏省第百五十四號布達勘定書式ノ内

一旦本拂ノ分差繼拂ノ廉今般相達候勘定帳書式ノ通更正候條此旨可相心得事  
(別冊)

金穀出納順序 (前文ハ院省達ノ分ト同様)

第一條

一 官員月給並常費捕亡費概費金穀共毎年一月ヨリ六月迄ノ經費凡積ヲ立テ前年十一月迄七月  
ヨリ十二月迄ノ分ハ其年五月迄大藏省ニ申請シ請取以テ一切ノ費用ニ充ツ其受取ノ手續等  
ハ大藏省ノ規則ニ從フヘシ

但前年十一月十二月三箇月分勘定仕上殘金ノ内豫備金ハ本年一月ヨリ六月迄ノ費用ヘ差  
繼其他ノ殘金ハ悉皆上納スヘシ尤判任官月給並捕亡費定額殘金ノ類ハ成規ノ如ク其應ヘ  
備ヘ置クヘキ事

第二條(院省ヘ達ノ分ト同様ナレハ略ス)

第三條(同上)

第四條

一 諸經費内譯調査ノ爲メ明細表難形ノ如ク一種毎ニ之ヲ製シ勘定帳一同大藏省ヘ送致スヘシ  
但諸上納ノ儀モ經費表式ニ倣ヒ毎種明細表ヲ製シ可差出尤貸渡並返納ノ分ハ勘定帳袖密  
ニ付別段製表ニ不及事

第五條

一 不用物品其他賣拂代價手数料官宅宿料等總テ稅外ノ收入金ハ難形ノ如ク毎三月別ニ勘定簿

冊ヲ製シ官宅修繕料ノ如キ備金ノ外ハ大藏省並同省主任各寮へ上納スヘシ

但贖金ハ本年第十九號布告ノ通相心得勘定書ヲ添テ司法省へ上納スヘシ

第六條(院省へ達ノ分ト同様ナレハ略ス)

第七條(同上)

第八條

一 懲役人等ハ専ラ授工服従ヲ以テ主トス故ニ其力役收入ヲ懲役場一切諸費用ノ元額ニ併セ支給シ其消費收入トモ正算調理シ程式ニ從ヒ勘定帳ニ組入ルヘシ

第九條

一 管下士庶人ヨリ金穀ヲ獻納セント乞フ者アレハ壬申正月第十七號公布ニ照シテ京議處分シ其官費ニ係ル學校病院堤防營繕及諸工業ノ費ヲ補フモノハ其納ル所ノ金穀ヲ費用ノ元額ニ組ミ詳細勘定書ヲ製シテ節次大藏省文部省工部省等事務所割ノ廳へ送致スヘシ

第十條

一 豫備繰替金請求ノ儀ハ三箇月宛取束別紙雛形ノ如ク任譯書副へ大藏省へ申牒スヘシ尤繰替高相嵩ミ元金缺乏ニ至ル時ハ三箇月ヲ不待シテ請求スヘシ

第十一條

一 毎年十二月ニ至リ翌全年ノ經費概算表ヲ大藏省ニ於テ編製シ正院へ上申可致答ニ付各廳所管一切ノ費用翌年ノ目的ヲ立常費臨時費ヲ區分シ詳明ニ列載セル概算帳ヲ作り十一月十五日限同省へ送致スヘシ

勘定帳等雛形略ス)

### 第二節 一般會計法規ノ第二期(自明治十七年(至明治十四年)

從來府縣並ニ院省各廳ニ於ケル金穀出納ノ方法ニ關シテハ未タ一定ノ規則アラサリシヲ以テ明治六年十二月二十七日太政官達第四百二十七號第四百二十八號ヲ以テ金穀出納順序及勘定帳ノ様式ヲ定メ收入ト經費トノ區別ヲ明ニシ計簿ヲ調製シテ出納ニ關スル月計年計ヲ精密ニシ又各官廳ヲシテ毎年十一月十五日迄ニ明年ノ費用ヲ概算シテ大藏省ニ送附セシメ之ニヨリテ明年ノ經費ヲ豫算スルコト、シ明治七年一月ヨリ施行セラレシハ前章ニ於テ述フルカ如シ

明治七年三月五日太政官達第二十七號ヲ以テ明治六年十二月太政官達第四百二十八號院省金穀出納順序第八條ヲ改正シテ左ノ如クス

第八條 毎年十一月ニ至リ翌全年其廳所管ノ費用一切ノ目的ヲ立常費臨時費ヲ區分シ詳明ニ列載セル概算表ヲ作り之ヲ同月十五日限大藏省ニ送付ス同省ニ於テハ院省使府縣ノ概算ヲ集計シテ一表ヲ製シ同年十二月限正院ニ上申スヘシ

三月二十九日海外各國派駐公使館及領事等ノ支費ヲ精算スル法規ヲ制定ス

四月五日太政官達第四十號ヲ以テ各廳假拂ノ金額ハ院省ニ於テハ每一箇月府縣ニ於テハ每一箇月ヲ期シ之ヲ精算シテ經費勘定帳ニ記入シ明細表ヲ附シテ提出セシム蓋シ各種ノ事業ニ屬スル經費及外國品ノ代價等ノ如ク速ニ決算ヲ終了スルヲ得サルモノニアリテハ假拂金ハ帳簿上尙ホ現在額トセラレ居リシヲ以テナリ

第四十號(明治七年四月五日)

院省府縣

諸經費勘定帳書式ノ儀明治六年<sup>十二</sup>第四百二十七八號ヲ以テ相達候處旅費用意金ノ類ハ最前凡積ヲ以テ若干ノ金額假渡取計幾多ノ年月ヲ經候共御用濟歸著ノ上ナラテハ精算ニ不至或ハ外國へ注文機械及諸買上品土工營業等一事一物ノ經費ヲ兩三度乃至四五度ニモ割合仕拂候類往往有之右等經費ハ精算仕上ヲ待テ勘定帳へ登記候儀ト心得候向モ有之由其實仕拂候金額モ勘定帳面ニテハ有高ノ姿ニ相成居且ハ歲歲費額計算ノ分界モ相立兼候間自今一事歲月ヲ跨リ候モノト雖モ御用ノ濟未濟事業ノ成未成ニ不關内渡假渡見込渡ノ分共現實仕拂ノ仕譯書爲差出院省ハ一箇月府縣ハ三箇月毎ニ必中仕切ヲ以精算仕上致シ如式勘定帳へ登記シ兼テ相達候難形ニ照準内譯明細表相添無遺漏可差出依テ勘定帳書式相副此旨相達候事

(勘定帳書式略之)

七月二十四日太政官達第九十六號ヲ以テ諸帳簿竝ニ納受證書中金穀及ヒ物品員數ニ關係アル分自今一二十ノ文字ハ壹貳拾ノ字體ヲ用ヒシム

八月二十五日太政官達第九十九號ヲ以テ各官廳ヨリ提出セル出納勘定帳ニシテ制規ニ違フモノ及ヒ提出遲延ノモノハ検査員ヲ派遣シ調査セシムルコト、ス

第九十九號(明治七年八月二十五日)

院省使府縣

出納勘定帳ノ儀大藏省へ差出候後編成方不台規ノ廉往復等ニ時日ヲ費シ遂ニ整頓遲延ニ及ヒ候儀有之趣不都合ノ次第ニ付自今右様ノ節ハ勿論期限ヲ過右帳差出サル向ハ速ニ検査察官員出張ノ上質問調査爲致候條此旨相達候事

但時宜ニヨリ臨時出張出納検査爲致候儀モ可有之候間此段兼テ可相心得事

十月十三日復々太政官達ヲ以テ會計年度ヲ改正シ甲年七月ヨリ乙年六月ニ至ル間ヲ以テ會計ノ一周年度トナシ其年度ニ屬スル一切ノ收入支出ヲ完結スルモノトシ而シテ各廳經費ノ申請竝ニ勘定帳ノ進達期限ヲ改正シ八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス蓋シ從來ノ會計年度ハ五年十一月二十九日ノ改正ニヨリ曆年ニヨリタリト雖モ元來租稅納入ノ時期多クハ甲乙二年ニ跨リ乙年ノ夏秋ニ至リテ始メテ甲年ノ賦額ヲ納入シ終ルヲ得ルノ状態ナルヲ以テ曆年ニヨリテ其收支ヲ決算スルトキハ自ラ交互錯綜ノ憂アルヲ以テナリ

明治七年十月十三日(太政官達)

院 省

金穀出納ノ儀每歲一月ヨリ十二月迄ヲ以テ分界相立來リ候處更ニ其年七月一日ヨリ翌年六月三十日迄ヲ以テ分界ヲ立テ會計上ノ一周年ト相定候條左ノ條件ノ通り相心得來明治八年七月一日ヨリ改正可致此旨相達候事

第一條 外國派出我公使領事館費用竝勘定帳等總テ本文ニ准スヘシ

第二條 諸收入益金等本文ニ准スヘシ

第三條 留學生學資ノ如キ年給ヲ以テ取極候分ハ來八年一月ヨリ六月迄半年分ニテ分界ヲ立テ同年七月ヨリハ更ニ本文ニ准シ相渡スヘシ

但賞典米終身扶持等ノ支給ハ從前ノ通

第四條 本文改正以後年期ヲ以テ貸付年賦返納ノ金穀類ハ本文ニ准シ其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ以テ一箇年トシ毎年五月限リ大藏省へ納ムヘシ且最初貸付ヲナス十二月以前ナレハ其



年ヨリ取立一月以後ナレハ翌年ヨリ取立ヘシ  
但改正前貸付ノ分ハ總テ從前ノ通

縣 府

前文同上

第一條 各廳經費ノ申請竝勘定帳進達期限等更定スル別表ノ如シハ出入比較難シ形  
但明治八年七月一日ヨリ之ヲ施行スヘシ

第二條 年期ヲ以テ額ヲ定メタル諸稅ハ總テ從前ノ通タルヘシ尤爾後年期續ノ節ハ一月ヨリ  
六月迄ヲ以テ分界ヲ立テ更ニ其七月ヨリ翌六月迄ヲ以テ一周年ト定ムヘシ  
但新タニ年期ヲ定ムル者ハ七月ヲ以テ起月トスヘシ

第三條 各縣常費捕亡費月給定額竝概費等來ル八年一月ヨリ六月迄ノ分ハ從前ノ通支給シ更  
ニ同年七月ヨリ半年分ツ、支給スヘシ

第四條 三府竝開港場アル縣縣常額金來八年一月ヨリ六月迄半年分ハ從前ノ金額月割ヲ以テ  
相渡シ同年七月以後ノ常額ハ更ニ相定ムヘシ

第五條 棄兒養育米ノ如キ年給ノ類ハ來八年一月ヨリ六月迄半年分ニテ分界ヲ立テ同年七月  
ヨリハ更ニ本文ニ准シ相渡スヘシ

但家祿賞典米終身扶持及ヒ社寺遞減給米等ノ支給ハ從前ノ通

第六條 本文改正以後年期ヲ以テ貸付年賦返納ノ金穀類ハ其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ以テ一  
箇年トシ毎年五月限リ大藏省ヘ納ムヘシ且最初貸付ヲナス十二月以前ナレハ其年ヨリ取立

一月以後ナレハ翌年ヨリ取立ヘシ

但改正前貸付ノ分ハ總テ從前ノ通

(開拓使ヘノ達ハ前二者ト大同小異ナレハ之ヲ略ス)

十一月八日太政官達第四百四十四號ヲ以テ院省ニ令シ金穀出納勘定帳ノ書式ヲ改正ス蓋シ常額金  
仕拂ノ中外國ヘ注文ノ器械物品代ノ如キ實際中仕切勘定難出來分ハ年末ニ至リ其緣由及全員共  
仕譯書調整シ其年十二月分勘定帳ヘ相添ヘ大藏省ヘ差出シ右全員翌年一月ヨリ出納勘定帳ヘ組  
込決算スヘキコト、セシニヨル

同月二十二日太政官達第五百五十五號ヲ以テ金穀出納勘定帳中ノ金額米數費目等ヲ改削塗抹スル  
コトヲ禁ス

第五百五十五號(明治七年十一月二十二日)

院省使府縣

金穀出納勘定帳ノ中金員米數費目等ヲ改削塗抹ノ痕往往相見候趣ニテ右ハ他日紛雜ヲ生ズル  
基ニ付來明治八年一月ヨリ改削塗抹ノ儀ハ一切不相成候尤大藏省ヘ差出候後事故アリテ改正  
致シ度向ハ其事故ヲ詳細ニ記載シタル長官名印ノ書面ヲ以同省ヘ可申出且又同省ニ於テ調査  
ノ上違算其外不都合ノ廢有之節ハ検査頭ヨリ改正ノ儀可及照會候條此旨相達候事

但内譯表改正ノ節ハ朱ヲ以傍ニ明書シ主務官員捺印ノ上差出不苦事

十二月八日大藏省ニ於テ金穀出納取扱順序ヲ定メ各寮課ニ令達ス今其要旨ヲ述フレハ先ニ改正  
ノ會計年度ニ從ヒ六月三十日ヲ以テ百般出納ノ金穀ヲ調理完結スルモノトシ又其出納金穀ハ時  
期ニヨリ之ヲ分チテ甲乙ノ二部トシ其年七月一日ヨリ翌年六月三十日マテニ收入支出スルモノ

ヲ甲部トシ前年七月一日ヨリ其年六月三十日マテニ收入支出スルモノヲ乙部トス而シテ諸收入ノ中一年一回徴收スル僕婢税ノ類ハ六月七月ヲ以テ其區域ヲ劃定シテ領收ス支出モ亦同次ニ一般ノ會計ハ本年ノ收入額ヲ以テ本年ノ要費ニ充ツルヲ本則トスレトモ甲部ノ收入額未ク完備セシテ其費用ヲ支給スルコト克ハサレハ甲部ヨリ轉借シ甲部ノ收入アルヲ俟テ償還シ其授受ハ總テ通常傳票ノ順序ニヨル而シテ甲乙ノ部分ハ極メテ判明ナルヲ要シ其名稱ハ毎年七月一日ニ於テ之ヲ改メ即チ前年ノ乙部ハ準備ニ甲部ハ乙部ニ轉シ更ニ其年七月以後收支スヘキモノヲ甲部トシ常ニ部名ノ上ニ干支ヲ冠シテ以テ之ヲ區別スルモノトス

金穀出納取扱順序

第一條

金穀出納期限ハ本年十月十三日番外公布之通其年七月一日ヨリ翌年六月三十日マテヲ以テ一大季節トス故ニ百般出納ノ金穀ヲ調理結果スルハ六月三十日ヲ以テ終尾トスヘシ

第二條

諸般收支ノ金穀ヲ大別シテ二部トス其一ヲ甲部トシ其二ヲ乙部トス甲部トハ其年七月一日ヨリ翌年六月三十日迄ニ收入支出スヘキ者ヲ云乙部トハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ニ收入支出スヘキモノヲ其年七月一日ヨリ翌年六月三十日迄ニ現納現拂ノ順序ヲナスモノヲ云

第三條

諸收入ノ内一箇年度收<sup>地租ノ如キ</sup>モノ類ハ年度ヲ以テ甲乙兩部ヲ分界シ月割ヲ以テ<sup>僕婢税ノ如キ</sup>諸支出モ上ニ同シ但家祿ノ如キハ從前ノ期

限ヲ延縮スルニ及ハストイヘトモ若シ除族等ノモノアレハ月割ヲ以テハ<sup>假令ハ六月除族ノ給スヘシ</sup>支給スヘシ支出之順序ハ其年六月迄ハ乙部七月以後ノモノハ甲部ヨリスヘシ而シテ右ニ類似スルモノハ皆此法ニ因テ區域ヲ定メ收支ノ順序ヲ爲スヘシ

第四條

一般會計ハ本年ノ收額ヲ以テ本年ノ要費ニ供ス故ニ甲部ノ收額未ク充分ナラスシテ其費用ヲ維持供給スル能ハサル時ハ乙部ノ額中ヨリ甲部ニ借入レ諸用需ニ供シ甲部ノ收入充分有餘アルヲ待テ乙部ニ返償スヘシ而シテ此借入レ戻入レハ總テ通常傳票ノ手續ヲナスヘシ

第五條

甲乙ノ部分ハ極テ判明ナラシムルヲ要シ其名稱ハ歲歲新タナルモノトシ毎歲七月一日ニ於テ之ヲ改ム故ニ前年ノ乙部ハ準備甲部ハ乙部ニ挿入シ其年七月以後收出スヘキモノヲ甲部トシ常ニ部名ノ上ニ干支ヲ冠シ<sup>其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一歲トシ</sup>ハ<sup>明治八年會計トスル時</sup>月迄ヲ乙部<sup>之ヲ區分ス故ニ名稱未ク改ラサルノ際</sup>金穀<sup>其年六月前ニ七月後ノ諸費用ヲ交付</sup>シ收入金穀ヲ領收スル事アレハ更ニ甲部ノ名稱ヲ設ケ干支ヲ以テ之ヲ判別スヘシ

附 甲乙準備ノ名稱ヲ轉換スルニ際シ交互錯綜ナキヲ要スルカ爲メ假ニ明治十年ノ會計ヲ元トシ變換ノ比例ヲ掲クル左ノ如シ

甲部

明治十年<sup>年ト稱スルハ其年七月ヨリ翌年六月迄十二ノ一切會計ヲ專攬スルモノニシテ</sup>月間ニシテ會計ノ一歲ヲ云以下徵之<sup>治十一年ニ至リ殘餘ノ金穀アラハ即チ乙部ト改稱スヘシ</sup>

乙部

明治九年ノ甲部ニシテ十年ニ至リ猶殘餘ノ金穀アルヲ以テ本部ニ改稱ス  
但十年ニ至リ九年中ニ納拂スヘキノ金穀ハ皆本部ニ屬スヘシ

準備

明治八年ノ甲部ニシテ九年ニ在ツテハ乙部トシ十年ニ至リ殘餘ノ金穀ヲ以テ本部ニ挿入  
ス故ニ八年中ニ納拂スヘキノ金穀事故アリテ十年ニ至リ收出スルハ皆本部中ニ於テスヘ  
シ

但本文掲クル處ハ年度ヲ以テ乙部ヨリ準備ヘ挿入スルノ順序ヲ示スノミニシテ八年以  
前ニ關スルモノヲ收入支出シ及ヒ造幣採鑛等ノ度資ニ供シ殖益金ヲ領收スル等 從前  
ノ成規ニ據ルヘシ

第六條

準備ノ金穀ニ於ル一類二類ヲ分別スル等ハ成規ニ據ルヘシトイヘトモ年度ヲ區分スルハ極メ  
テ明詳ニスヘキヲ要ス但甲乙兩部ノ如ク借入戻入ノ順序ハ之ヲ要セサルモ準備中ニ於テ妨ケ  
ナシトス

第七條

改正以後金穀貸付年期定メ方ハ其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ以一周年トシ元利共五月中ニ取立  
ヘシ尤最初貸付ヲナス其年十二月以前ニ在レハ其年ヨリ即チ其年七月ヨリ翌年六月迄ノ一周年翌年一月以後ニ  
在レハ翌年即チ翌年七月ヨリ翌年六月迄ノ一周年ヨリ年期ヲ定メ取立ヘシ

但改正前貸付有之分ハ從前ノ成規ニ依リ取立ヘシ

第八條

出納寮ニテ毎年一月調成スル金穀請拂ノ日締表及ヒ總計表ノ如キ一般ノ出納ニ關スル計算ハ  
都テ甲乙ニ部ヲ類別シ傳票手續モ亦同様タルヘシ

第九條

當用ノ内甲乙兩部ノ金穀及準備金穀ノ出納ニ關スル議案及仕出書等ハ本年三月二十九日相達  
候書式ニ照準シ品種名稱等詳明ニ區分スヘシ  
同月二十三日大藏省達乙第四十一號ヲ以テ府縣收入金穀領收證書ノ様式及取扱順序ヲ定ム  
明治八年一月十三日太政官達第五六號ヲ以テ明治六年十二月第四百二十七號達出納勘定帳附屬  
内譯明細表ノ様式ヲ改正ス  
三月十日太政官達第三十三號ヲ以テ勘定仕上書ノ正確ナルコトヲ證明スル爲メ稅外收入貸渡金  
及經費ノ勘定帳ニ記載スル文例ヲ定ム

第三十三號(明治八年三月十日太政官達)

院省使廳府縣

金穀出納勘定仕上ノ儀ハ其年限リ分界ヲ立テ決算致シ其年ニ屬スル收入經費等翌年勘定ヘ編  
入候儀無之ハ勿論ニ付爾後毎歲最末ノ勘定帳ヘ左ノ文例ニ照準シ記載可致此旨相達候事  
經費勘定帳末文例

右者明治何年四月ヨリ六月マテ官省東京府ハ諸費仕拂勘定仕上書面ノ通相違無之候就テハ明治何年七月ヨリ同何年六月迄ニ屬スル經費ニ於テ需要還納其他脱落等一切無之候也

年號 月

長 官

官 姓 名 印

大 藏 卿 宛

同月十四日太政官達第三十六號ヲ以テ府縣ニ令達シ百般ノ收入及經費等一周年ノ總額ヲ豫算シ本年ヨリ毎年度様式ニ照準シ翌年二月二日ヲ期シテ大藏省ヘ差出サシム今其要點ヲ記スレハ先ツ收入金穀概計表ヲ製スルノ順序中ニ於テ收入金穀概計表ハ一會計年度中收入金穀ノ多寡ヲ統理概計シテ之ヲ登上シ猶三箇月毎ニ現實收納セシ員數ヲ記入シ其比ヲ凡積ノ該額ニ取リ一箇年五葉ニシテ比較ノ全キヲ見ルヘキモノニシテ前年ニ於テ翌年一歳ノ收額ヲ概計シタル計表ヲ第一葉トシ七月ヨリ九月マテ三箇月間ヲ合算シタル計表ヲ第二葉トシ其第三葉ハ十月ヨリ十二月マテ第四葉ハ一月ヨリ三月マテ第五葉ハ四月ヨリ六月マテ各三箇月間ヲ合計スヘク而シテ第一葉ノ概計表ハ一歳收入金穀ノ多寡ヲ豫定スル爲メニ差出ス所ノモノニシテ最緊要ナレハ收入概目ニ掲記スル科目ニ照準シ内譯明細簿ヲ製シ計表ヘ副ヘ差出スヘシトセリ仍テ諸收入物品科目名簿ヲ左ニ掲ク

諸收入物品科目名簿

- 一 地租
- 田畑宅地ノ稅
- 山野稅
- 地券稅

一 印紙稅

- 證 印紙稅
- 證券界紙稅
- 生絲印紙代
- 繭印紙代
- 真綿印紙代
- 生絲賣買鑑札料
- 蠶種印紙代
- 一 祿稅
- 官祿稅
- 家祿稅
- 一地所拜借料其他
- 地所拜借料
- 河岸場拜借料
- 溫泉場拜借料
- 池拜借料
- 下草料
- 池魚料

- 松茸料
- 砥石料
- 一 船税
- 五十石以上船税
- 舩漁船海川小廻船税
- 一 車税
- 馬車
- 荷積馬車
- 人力車
- 牛車
- 荷積大七八車
- 荷積中小車大六以下
- 一 銃獵税
- 一 牛馬賣買免許鑑札税
- 一 碇泊税並ニ免許手数料
- 一 酒類税
- 酒造營業税
- 酒類請賣營業税

酒類釀造税

- 一 煙草税
- 一 諸雜入
- 量出米
- 地所拂下代
- 官舎拂下代
- 官林藪木竹拂代
- 官廳不用物品拂代
- 官舎拜借料
- 官庫拜借料

右件件ハ收入スヘキ物品ノ科目ヲ概記スルノミナレハ此他收入スヘキ廉廉アラハ此書式ニ倣ヒ一ト廉限リ該額ヲ豫定シ豫算内譯簿並ニ概計表ニ記入スヘシ

次ニ經費概計表及内譯明細簿ヲ製スル順序中ニ於テ經費概計表モ收入概計表ノ如ク一會計年度中支出スヘキ金額ヲ統理概算シテ之ヲ登上シ猶三箇月毎ニ大藏省ヨリ請取リタル員數ト實際支出スル員數ト其經費ノ増減トヲ掲ケテ其比ヲ凡積ノ該額ニ取り一箇年五葉ニシテ比較ノ全キヲ見ルヘキモノニシテ一葉ヨリ五葉ニ至ル計表差出期限及表面ノ書式體裁位數等ノ件ハ收入概計表ニ異ナルナク而シテ第一葉ノ計表ハ一歲經費ノ多寡ヲ豫定シ一般歳入出ノ目途ヲ立ツル基礎トスル爲メニ差出ス所ノモノニシテ最緊要ナレハ内譯明細簿ヲ製シ計表ニ添ヘ差出スヘシトス

而シテ各府縣經費概目例言中ニ於テ一般ノ經費ヲ大別シテ三トス則チ左ノ如シ

一定額常費

一類外常費

一臨時費

一每歲費額ヲ定メ毎月或ハ每半箇年東京府ハ每月 他府ハ每箇年其各廳ニ交付スルモノ之ヲ定額常費トス

但定額常費ヲ以テ仕拂フト雖モ其事業ニ付テ許可ヲ經ヘキ條件ハ從前定規ノ通タルヘシ

一每歲費程ヲ豫算シ費額ヲ確定セス每件其事由ヲ詳悉シ時時成規ニ從ヒ之ヲ大藏省ニ請求スル平常ノ費用ヲ類外常費トス

但其事業ニ付テ許可ヲ經ヘキ條ハ前項但書ニ同シ

一臨時費ハ凡概目ニ掲クル如シト雖モ他ニ非常ノ費途ヲ要シ之ヲ臨時費ト定ムルトキハ其旨該廳ヘ豫達スヘシ

但臨時費中各科目及小科目等ハ概ネ定額常費及ヒ類外常費中ノ科目ニ照準シテ之ノ部分スヘシ

而シテ各費目中各科目及ヒ小科目ニ應シ費途ヲ分チテ其額ヲ定メ或ハ之ヲ豫算ス故ニ各科目ハ勿論小科目ノ金額トモ彼是流用スルヲ許サス尤小科目中細目ノ金員ハ彼是流用スルモ妨ゲナシ但實際ノ都合ニ因リ各科目及小科目ノ費額ヲ流用セントスルトキハ其旨ヲ詳悉シ大藏省ニ申請スヘシトシ各府縣經費概目ヲ限定シテ左ノ如クス

各府縣經費概目

定額常費

一給與

官員月給

(細目ハ之ヲ略ス以下同シ)

等外月給

譯官月給

陵墓掌以下月給

雇月給

諸雇給

内國旅費

諸賄料

宿代

被服費

賜饌料

恩賞

一應中費

需用費

運送費

- 雜費
- 一 囚獄費
- 諸雇給
- 內國旅費
- 諸賄料
- 需用費
- 囚人賄料
- 被服費
- 患者費
- 一 懲役費
- 諸雇給
- 內國旅費
- 諸賄料
- 需用費
- 懲役人賄料
- 患者費
- 被服費
- 一 外國人諸費

- 雇月給
- 內國旅費
- 賄料
- 宿料
- 一 居留地諸費 但シ外國人居留地
- 常夜燈費
- 諸雇給
- 額外常費
- 一 給與
- 家祿
- 賞典祿
- 社寺祿
- 終身扶持
- 賜饌料
- 恩賞
- 賑恤
- 一 應中費
- 需用費

郵便電信

遙拜式入費

接待費

地租取立費

雜費

一 史誌編輯費

官員月給等

等外月給

雇月給

諸雇給

旅費

需用費

一 廩費

諸雇費

需用費

馬買上

一 警察費

等外月給

雇月給

諸雇給

內國旅費

宿代

諸賄料

需用費

恩賞

被服費

雜費

一 遷卒費

官員月給

等外月給

雇月給

諸雇給

內國旅費

諸賄料

需用費

被服費



- 雜費
- 一 囚獄費
- 諸雇給
- 內國旅費
- 諸賄料
- 需用費
- 囚人賄料
- 被服費
- 患者費
- 一 懲役費
- 諸雇給
- 內國旅費
- 諸賄料
- 需用費
- 懲役人賄料
- 患者費
- 被服費
- 一 外國人諸費

- 雇月給
- 內國旅費
- 賄料
- 宿料
- 一 居留地諸費 但シ外國人居留地
- 常夜燈費
- 諸雇給
- 額外常費
- 一 給與
- 家祿
- 賞典祿
- 社寺祿
- 終身扶持
- 賜饌料
- 恩賞
- 賑恤
- 一 廳中費
- 需用費

- 一 警察費
- 恩賞
- 一 運卒費
- 恩賞
- 一 囚獄費
- 處刑濟支那人入費
- 一 外國人諸費
- 外國旅費
- 恩賞
- 賜饌料
- 一 外國船漂著費 但シ官費ニ立ツヘキ分
- 諸雇給
- 諸賄料
- 需用費
- 被服費
- 一 禁錮人諸費 但シ府縣預ケノ輩
- 諸雇給
- 諸賄料

- 需用費
- 禁錮人賄料
- 患者費
- 一 復籍人諸費 已巳四月以前脱籍ノ者
- 諸雇給
- 需用費
- 復籍人賄料
- 一 祭典費
- 泉涌寺御供米
- 臨時費
- 一大工業或ハ新建築等ノ經費一廉官費一萬圓已上ノ目途ヲ以テ著手スル費用
- 一 堤防沿河道路橋梁等新規修繕共經費一事業ニ付一萬五千圓已上ノ目途ヲ以テ著手スル費用
- 右二項ハ内務省所轄ニ付内詳明細簿朱ヲ以掲載スヘシ
- 附 錄
- 神宮
- 官國幣社
- 經費概目
- 定額常費
- 一 給與

- 神官月給
- 諸雇給
- 内國旅費
- 諸賄料
- 宿代
- 賜饌料
- 恩賞
- 一廳中費
- 需用費
- 郵便電信
- 一廐費 但シ神馬ノ分
- 諸雇給
- 需用費
- 神馬買上
- 一營繕費 但シ新營繕共一廐費十圓未満ノ分
- 諸雇給
- 需用費
- 運送費

- 一祭典費
- 諸雇給
- 需用費
- 額外常費
- 一給與
- 内國旅費
- 一廳中費
- 需用費
- 一廐費
- 需用費
- 神馬買上
- 一祭典費

國幣社例祭金幣料

其他諸收入金米豫算内譯簿收入概計表、經費豫算内譯明細簿、經費概計表、前年未決算副表、前年未納副表ノ各雛形竝ニ勘定帳及諸表縣地出發期限表ヲ規定セリ(全文ハ國庫正出納部ニ掲載ス)

同月三十日太政官達第四十四號ヲ以テ府縣支廳ノ經費勘定帳ヲ本廳ノ勘定帳ニ編入スル規程ヲ定ム(明治十一年七月二十二日太政官布告第十七號ニヨリテ府縣支廳ハ消滅セリ)

五月十五日太政官達第八十號ヲ以テ府縣收入經費豫概目及經費豫算内譯明細簿樣式中ノ條款ヲ

改正ス

同月十八日院省廳及開拓使ニ令達シ百般ノ收入及經費等一週年ノ總額ヲ豫算シ毎年度之ヲ大藏省ニ送達セシム其大體ニ於テハ三月十四日太政官達第三十六號府縣ニ對スルモノニ同シ(納整理ノ部参照)是ニ於テ金穀ノ出納及經費ノ支出ニ關スル制度ハ大ニ整頓スルニ至レリ

同月二十二日太政官達第八十六號ヲ以テ收入及貸下金穀受拂勘定帳ノ書式ヲ改正ス

八月十二日太政官達第四百十二號ヲ以テ府縣ニ令シ本年三月第三十六號達中收入概計表並物品

科目明細簿豫算内譯簿増減差引内譯明細簿及概計表ヲ製スル順序ノ内ヲ改正増補ス今左ニ租稅

科目名簿ヲ掲ケン

租稅科目名簿

- 一 地租
  - 田畑宅地ノ稅
  - 山野稅
- 一 地券稅
- 一 地券證印稅
- 一 證券印紙稅
- 一 印紙稅
- 一 界紙稅
- 一 蠶種印紙稅

- 一 生絲印紙稅
- 一 繭印紙代
- 一 真綿印紙代
- 一 生絲賣買鑑札料
- 一 酒類稅

- 清酒
- 味淋
- 燒酎
- 白酒
- 銘酒

- 一 酒類請賣營業稅
- 一 牛馬賣買免許鑑札稅
- 一 銃獵稅
- 一 車稅
- 一 船稅

- 五十石以上船稅
- 解漁船並海川小廻船稅
- 一 碇泊稅並免狀手数料

一官祿稅

一家祿稅

一煙草稅

右件件ハ收入スヘキ租稅ノ科目ヲ概記スルノミナレハ此他收入スヘキ稅目アラハ此書式ニ倣ヒ一ト廉限リ該額ヲ豫定シ豫算内譯簿竝概計表ニ記入スヘシ

同月十九日太政官達ヲ以テ内務、工部兩省ニ令シ收入概計表竝内譯明細簿ヲ改正シ又大藏省ニ達シ收入概計表中官祿稅、海關稅及諸收入ヲ省カシム

同月二十四日太政官達第四百四十九及五十號ヲ以テ經費勘定簿竝ニ内譯表ノ書式ヲ改正ス

九月十五日太政官達第六十一號ヲ以テ院省廳ニ令シ各科目及小科目ノ費額ヲ流用セントスル時ハ其旨ヲ詳悉シテ大藏省ニ申請スヘシトノ規定ヲ改メ單ニ各科目ノ費用ヲ流用セントスル時ハ大藏省ヘ通知スヘシトス

明治九年九月六日太政官達第八十五號ヲ以テ各官廳ノ諸物品出納順序ヲ定メ諸物品受拂月計簿ノ様式ヲ頒布ス

同月同日太政官達ヲ以テ内務、海軍、工部、大藏諸省各廳作業費區分及受拂例則ヲ定ム今其概要ヲ述フレハ各廳經費中作業ニ屬スル費途ヲ概別シ其受拂ノ順序ヲ確定セルモノニシテ造幣紙幣造船續山鐵道電信其他諸製作等一般作業ニ屬スルモノハ渾テ作業費ニ編入支辨シ通常ノ經費ト混同セサラシメ作業費ヲ二途ニ區分シテ興業費及營業費トス興業費ハ即チ創始ニ付器械等ノ購入或ハ据付家屋建築等其他總テ創始ニ屬スル費途ヲ云ヒ營業費ハ即チ開業以後ノ費用ニシテ平常ノ

事業ニ屬スル諸費ヲ云フ而シテ作業費トシテ交付セシ原額ノ内興業費ハ拂切ノ例ニ據リ精算シ營業費ハ毎月收支ノ實況ヲ大藏省ヘ報告シ年度ノ末ニ至リ悉皆納付セシメ翌年更ニ交付ス但シ最前大藏省ヨリ受領シタル原額ニ不足ヲ生スルコトアラハ之ヲ該額中ノ拂ニ立ツルコト、シ又營業收入金ハ毎月納付ニ及ハス幾回モ運換支用スルヲ許シ尤モ年度末ニ至リ益金アルトマハ稅外收入ヘ編入シテ之ヲ大藏省ヘ納付セシム(全文ハ特別會計ノ部ニ掲載ス)

同月十九日大藏省出納條例ヲ定ム蓋シ從來歲入出ノ出納方法ハ屢變更セラレ數年間沿革一ナラサリシカ昨七年十月會計年度ヲ改正シ次テ今年ニ入りテ歲入出概計ノ方法モ頗ル完備セシヲ以テ此ニ出納ニ關スル法則ヲ一定スルノ必要ヲ生シタルヲ以テ是ヨリ先キ三月二十九日大藏省ニ於テハ出納條例取調掛ヲ置キ各寮ヨリ委員ヲ出シ從來ノ成規ニヨリ實際ノ便否ヲ斟酌シ金穀出納ニ關スル處務ノ規程ヲ定メシメ此ニ本條例ノ制定ヲ見ルニ至レリ今其綱要ヲ記セン出納ニ關スル要件ハ之ヲ大別シテ收入支出ノ二種トシ二種ヲ區分シテ常用金ノ收入支出準備金ノ收入支出トス常用金ハ一歲ノ收入ヲ以テ一歲ノ經費ニ充ツルモノニシテ其金額ハ法令ニヨリテ之ヲ定メ準備金ハ專ラ紙幣ノ基金及公債償却ノ準備トシ分チテ第一類、第二類、第三類トス又常用金ハ甲乙兩部ヲ置キ甲部ハ本年度ノ名稱ニシテ乙部ハ次年度ニ於テ本年度ノ出納會計ヲナスノ名稱トシテ準備金ハ第二類ニ於テ特ニ年度ヲ定メ其本年度ヲ本部トシ次年度ニ涉ルモノヲ後部トス次ニ常用ノ歲入ヲ區分シテ租稅及稅外收入ノ二種トシ準備ハ單ニ其第二類ニ收納スルモノシ歲入トシ常用ノ歲出ハ通常臨時ノ二類トシ準備ノ歲出ハ第二類ニ限ルモノトス而シテ常用準備共ニ其收入支出ハ嚴ニ之カ科目ヲ立テ大綱ヲ振擧スルモノヲ出納科目トシテ專ラ收入支出ノ處理上

ニ用ヒ其他ハ大科目小科目細科目ノ三項トス大科目ハ主管ノ記帳上ニ用フルモノニシテ小科目細科目ハ其詳細ヲ知悉スルタメニ之ヲ置クモノトス又出納科目ハ確固一定スルモノニシテ容易ニ變更スルコトナク大科目以下ハ毎年豫算ノ時ニ於テ之ヲ確定ス其他凡ソ收入支出ハ豫算ヲ以テ之カ標準ヲ立テ決算ニ至リ之カ完結ヲナスモノトシテ而シテ會計年度以下ノ條例二十款ヲ規定セリ左ニ大藏卿大隈重信ノ上申文及大藏省出納條例ノ全文ヲ掲ケン

正院へ上申文

政府歳入出之出納ハ當省之本務ニ於テ最緊要之事項ニ付其方法規則ニ於テハ置省以來専ラ心カヲ盡シ逐次變更釐正ニ及ヒ數年間沿革一ナラス候處昨年來ヨリハ會計年度モ設立シ豫算概計之法モ頗ル緒ニ就キ候様相成リ彼是經驗ヲ重ネ漸漸皆熟ニ至リ候旁以其法則モ稍一定スヘキ時ニ有之且亦記簿法ノ儀ニ就テハ昨年十一月中御許可之通追追著手ニ及ヒ本年七月一日以後ヨリ當省計算帳簿ハ悉皆其分ニ改定可致筈ニ候然ルニ出納上ノ法則一定ノ明文無之ハ自然記簿上ニ差謬計算整理難相成候條今般從來ノ成規ニ據リ實際ノ便否ヲ斟酌シテ處務之規程ヲ定メ出納條例ヲ調製シ即今竣功ニオヨヒ是亦丙子年度ヨリ施行可致存候依之條例中ニ就テ別紙綱領三十六條ヲ披抄シ此段及上申候也

大藏卿 大隈重信

右大臣岩倉具視殿

大藏省出納條例目次

卷首 綱領

- 第一款 年度部分條例
- 第二款 常用金科目條例
- 第三款 常用金支出科目條例
- 第四款 準備金收入科目條例
- 第五款 準備金支出科目條例
- 第六款 歳入出豫算條例
- 第七款 收入金納入條例
- 第八款 常用金收入條例
- 第九款 準備金收入條例
- 第十款 支出金拂出條例
- 第十一款 常用金支出條例
- 第十二款 準備金支出條例
- 第十三款 金種類竝證書條例
- 第十四款 米穀處置條例
- 第十五款 金銀公債證書類處置條例
- 第十六款 假納及過誤出納處分條例
- 第十七款 貸金取扱條例
- 第十八款 紙幣納拂條例

第十九款 出納計簿調理條例

第二十款 各廳計算調理條例

附言 本條例第一款以下ニ於テ文字脫漏意義不明ノ箇所往往ニシテ存在スト雖モ是レ全ク原本ノ爾ルニ因ルモノニシテ面シテ該原本以上ニ溯リ訂正補填スル途ナキヲ以テ今暫ク之ヲ措ク

大藏省出納條例

綱領

第一條 大藏省ニ於テ出納ニ關スル要件ヲ大別シテ二種トス一ハ收入ニハ支出是ナリ

第二條 收入支出ヲ區分シテ二部トス一ハ常用金ノ收入支出一ハ準備金ノ收入支出是ナリ

第三條 常用金ハ一歳ノ入ヲ以テ一歳ノ費ニ充ツル者ニシテ其金額ハ法令ニ依テ之ヲ定ム

第四條 準備金ハ專ラ紙幣ノ元金ト諸公債償却ノ準備トシ且ツ元金ヲ増殖スル爲メ運轉スルコトアリ乃チ分テ第一、第二、第三類トス

第五條 常用金出納會計ノ爲メニ甲、乙兩部ヲ置ク甲部ハ本年度ノ名稱ニシテ乙部ハ次年度ニ於テ本年度ニ於ケル出納會計ヲ爲スノ名稱トス準備金ハ其二類ニ於テ特ニ年度ヲ定ム而シテ其本年度ヲ本部トシ次年度ニ渉ル者ヲ後部ト稱ス

第六條 常用ノ歳入ヲ區分シテ二種トス租稅及稅外收入是ナリ準備ハ單ニ其第二類ニ收納スル者ヲ指シテ歳入トス

第七條 常用ノ歳出ハ通常臨時ノ二種トシ準備ノ歳出ハ第二類ニ限ル者トス其他ハ運轉ニ屬スルヲ以テ之ヲ歳出ト稱セス

第八條 常用準備共ニ其收入支出ハ嚴ニ之カ科目ヲ立ツ最モ大綱ヲ報舉スルモノヲ出納科目トシテ專ラ收入支出ノ取扱上ニ用ユ其他ハ大科目、小科目及細科目ノ三項トス大科目ハ主管ノ記帳上ニ用ユル者ニシテ小科目及細科目ハ其詳細ヲ悉知スル爲メニ之ヲ置クモノトス

第九條 出納科目ハ確乎一定スル者ニシテ容易ニ變替スルコトナシ大科目以下ハ毎年豫算ノ時ニ於テ之ヲ確定ス既ニ確定セシ上ハ其理財期限内ハ決シテ之ヲ改ムルヲ得ス若シ不次ニ到來セシ件アルトキハ之レカ種類ヲ案シテ其科目ヲ定メ類似ノ出納科目内ニ編入シ以テ大

第十條 凡ソ收入支出ハ豫算ヲ以テ之カ標準ヲ立テ決算ニ至テ之カ完結ヲ爲ス者トス

第十一條 歳入ノ豫算中租稅ハ租稅寮ニ於テ之ヲ定メ稅外收入ハ各廳ノ申牒ニ據テ集積ス皆收入豫算法ニ據テ之ヲ調理スル者トス

第十二條 歳出ノ豫算ハ各廳見込ノ概計ヲ徵集シテ之ヲ定ム亦皆經費豫算法ニ照シテ之ヲ處置ス

第十三條 準備金出入ノ豫算ハ國債寮ニ於テ之カ見込ヲ具狀ス

第十四條 凡ソ收入支出ハ素ヨリ豫算額ニ照シテ處分スト雖モ之ヲ收入スヘク及ヒ支出スヘキト否トノ議ヲ定ムルハ各主管ニ於テ其事務章程ト處務順序ニ從テ之ヲ踐行スヘシ

第十五條 前條ノ手續ヲ了スル後之ヲ納付シ之ヲ請求スルニ對シテ之ヲ收入シ之ヲ支出スル

ノ取扱ハ其主務ニ於テ之ヲ擔任スヘシ

第十六條 收入スヘキ金額ヲ納付スルニ當テハ主務ニ於テ議冊若シクハ上納證書ヲ以テ要傳票トナシ検査寮ヲ經過シテ傳票課ニ至リ大藏卿ノ傳票ヲ以テ記録寮ニ送り其記録ヲ了テ出納寮ニ送致シ該寮ハ此ニ據テ本納ノ取扱ヲナス此ヲ收入傳票ノ手續トナス但準備ハ納入スル者ハ要傳票ヲ發スルノ際國債寮ニ同シ該寮ノ記帳ヲ經ルコト、ス

第十七條 支出スヘキ金額ヲ出スハ議冊若シクハ請求書ヲ以テ要傳票ト爲ス其手續ハ前條ト同一ニシテ唯納拂ノ別アルノミ

第十八條 凡ソ要傳票ニ二様ノ式アリ一ハ單ニ納請證書ニ就テ直ニ傳票ヲ付スルモノニハ回議冊ヲ以テ之ニ要傳票ノ印ヲ捺スル者ナリ而シテ一ハ科目竝ニ豫算ノ金額既定シタル者ニ用ヒ二ハ科目金額確定セスシテ新ニ評議決裁ヲ經ル者ニ限ルコト、ス

第十九條 傳票ヲ要スルニハ必ス收支ノ番號ヲ付シ以テ出入ノ傳票數ヲ明ラカニスヘシ而シテ該番號ハ一般收入支出ノ公號ニシテ各所必ス之ニ照依スルモノトス故ニ之ヲ改變スルヲ得ス又各寮課限リノ番號ト混合スルヲ得ス

第二十條 凡ソ一般ノ出納上ニ於テハ必ス金員ヲ以テシ決シテ他ノ物品ヲ用ユルコトナシ而シテ貨幣ノ内單ニ金ト稱スヘキ者ト單ニ金ト稱スヘカラサル者ト豫定シ敢テ混合セシムルコト無カルヘシ

第二十一條 一旦收入ス可キ金員アリテ又之ヲ支出スヘキ目的アル者或ハ今支出スルトモ更ニ收入スヘキ者ハ共ニ現金ヲ授受セス證書ヲ以テ之ヲ出入スルコトアリ此ヲ證書金ト稱ス

第二十二條 收入中米穀アルトキハ先ツ出納寮ニ於テ之ヲ購收シ其代價ヲ以テ納付センメ又米穀ヲ支出スヘキハ出納寮ニ於テ拂ヒ出スヘキ石代ヲ以テ交付スルコト、ス

第二十三條 洋金銀公債證書及古金銀諸地金ノ收入支出アルハ必ス國債寮ニ於テ買收シタル代價又ハ賣拂フヘキ代價ヲ以テ之ヲ收支スルコト米穀ノ如シ

第二十四條 米穀又ハ洋金銀公債證書古金銀ノ賣買交換等ノ基金ハ準備金ヲ以テ之ニ充用スヘシ而シテ其賣買交換等ヨリ生スル差ハ總テ準備金ノ損益トス

第二十五條 凡ソ收入支出スル金員ハ直ニ現貨幣ヲ以テスルコトナシ收入ハ各金庫ニ假納シテ其預リ證書ヲ以テシ支出ハ出納頭ノ拂切符ヲ以テス而シテ拂切符ハ各金庫ニ於テ之ヲ交換スルコト、ス

第二十六條 各廳ニ於テ其經費ニ屬スヘク又ハ他ヨリ收得スヘキ金員ニテ適事故ニヨリ其供給ヲ缺クトキハ其間姑ク相當ノ金額ヲ付與シ之カ需用ニ充テ現ニ其費額ヲ得ルニ當テ返償セシムル事アリ這等ハ準備金ヲ以テ措辦スル者ニシテ之ヲ一時貸トス

第二十七條 救助其他諸種ノ事故ニヨリ常用金ニ於テ抵當物ノ有無又ハ定期返納年月賦返納ニ拘ラス貸借ノ契約ヲナシテ支出スルヲ貸下金トス然レトモ此貸金ハ必ス返戻スル者ナルモ其返金ヲ悉皆最初支出セル年部ニ挿入スルヲ得ス依テ主管ニ對シテ拂切トシ之ヲ歲出ノ一部分ニ屬シ其返納金ハ稅外雜入ノ部ニ挿入スルコト、ス

第二十八條 各府縣へ授與スル金員ハ府縣渡金ノ送致規則ニ從テ之ヲ處置シ各府縣ヨリ納入スル金員ハ府縣納金受付規則ニ從テ之ヲ處置ス



第二十九條 外國へ支出スル金員ハ總テ國債寮ノ擔當ニシテ外國費金渡方規則ニ從テ處置スル者トス

第三十條 出納寮ニ於テ現金ノ納拂方ハ出納寮現金納拂規則及ヒ同出張所金錢受渡規則ニ從テ取扱フヘシ則チ納拂局及ヒ出張所ハ概シテ之ヲ金庫ト稱ス

第三十一條 出納寮ニ於テ地方ニ係ル納拂便宜ノ爲メニ其收納金ヲ其儘該地ニ預ケ置クヲ府縣預ケ金ト稱ス則チ府縣預米金出納規則ニ依テ之ヲ執行スル者トス

第三十二條 凡ソ出納上ニ於テ大藏卿ノ傳票ヲ要スルハ他ニ對シテ金員ヲ出入シ金庫内ノ増減ニ關スル者ニ限ル若シ夫レ出納寮ニ於テ管守セル金額ノ所在ヲ轉移シ又ハ各金庫ニ藏置セル金種類ヲ彼是交換シ又ハ置入タル米穀ヲ拂ヒ又ハ國債寮ニ於テ所管ノ地金公債證書株券類ヲ運轉シ或ハ賣買スル等ハ該寮頭ノ委任内ニ在リテ敢テ傳票ヲ要スルニ及ハス唯其買入ノ前代金ヲ請取り及ヒ賣拂ノ後代價ヲ納付スル時ニ於テ傳票ヲ以テ之ヲ出入スヘシ

第三十三條 金銀計算ハ必ス其算法ヲ一定センヲ要ス決シテ私見ヲ以テ區區ノ算則ヲ立ルヲ得ス

第三十四條 凡ソ計算ニ關スル帳簿並記載法ハ總テ「フツクキービソク」ニ從ヒ之カ規則ヲ立ツヘシ私ニ之ヲ改竄スルヲ得ス

第三十五條 出納ニ關スル帳簿ノ様式及ヒ標目ハ大藏卿ノ許可ヲ得テ検査頭ノ承認ヲ經タル部冊ニ限ルヘシ若シ改定増減スルコトアレハ其雛形ヲ以テ之ヲ検査寮ニ通報スヘシ尤各寮課使用ノ補助簿冊ハ此限ニ非ス

第三十六條 凡ソ出納セシ金員ノ計算ハ日計月計或ハ毎三箇月ノ計表ヲ徴シ遂ニ一年度ノ總計ニ至ルコトナス

第一款 年度部分條例

第一條 政府金庫ノ出納上ニ於テハ其年七月一日ヨリ翌年六月三十日ヲ以テ一年度トス而シテ年度ニハ必ス干支ヲ冠シテ之ヲ區分ス其干支ハ前六箇月所屬(七月マテ)ノ干支ヲ設(該カ)年度ノ干支トス

第二條 常用金ノ出納會計ニ於テハ其年度ヲ區分シテ甲乙兩部トス譬へハ明治九年丙子七月一日ヨリ翌十年六月三十日ニ至ルハ即チ丙子年度ニシテ該年度中ニ於テ該年度中ニ在ル出納セル部ヲ丙子甲部ト稱シ前年度即チ八年乙亥七月ヨリ九年六月マテ乙亥ニ係ル者ヲ丙子年度中ニ至テ出納セル部ヲ丙子乙部ト稱ス依テ本年ノ甲部ハ次年度ニ至レハ之ヲ其年度ノ乙部トス餘ハ總テ此ニ準ス

但乙部ヲ稱スル一周年中ニハ此部必ス決算完結スル者トス而シテ殘餘アレハ準備ニ挿入スヘシ

第三條 翌年度ニ關スル收支ノ到來セルトキハ更ニ其干支(度)ノ干支(年)甲部ヲ設ケテ之ヲ分ツヘシ

第四條 諸收入ノ内一箇年一度收納(地租)ノ如スルノ類ハ年度ヲ以テ甲乙兩部ヲ分界シ月割ヲ以テ(官)類(課)取立テ來ルモノハ六月七月ヲ以テ區域ヲ立テ收入スヘシ諸支出モ上ニ同シ但シ家祿ノ如キ曆年一箇年分ヲ以テ支給スルモノハ其曆年ノ干支ニ該ル會計年度ノ支出トス故

ニ六月以前ニ除族ノ者アリテ若干月分ヲ給スヘキモ其年七月後ニ係ル甲部ノ支出ニ屬ス蓋シ此等ノ收支ハ其曆年ノ干支ヲ會計年度ノ干支ニ索合シテ取扱フコト、ス

第五條 明治八年七月以後貸付金ノ年期ハ會計年度ヲ用ユルコト、ス則チ年賦起算ノ初年ヲ定ムルニ其一年度中前半年間ニ貸付セルモノハ該年度ノ年賦ノ初年トシ後半年間貸付セルトキハ翌年度ヨリ起算スヘシ而シテ毎年第五月ヲ徵收ノ期限トス

第六條 準備金ハ第二類ニ限り年度ヲ定メテ之カ出納ヲナシ以テ收入支出ノ會計ヲ整理ス尤モ第一類及第二類ハ年年改新セル一部タレハナリ

第七條 第二類準備年度ノ名稱モ亦常用金ノ如シ但シ區區ノ名稱ヲ殊ニシ本部及後部トス例ヘハ明治九年七月一日ヨリ十年六月三十日ニ至ルヲ出納ノ一年度トシ之ヲ第二類準備丙子本部ト稱ス

第八條 第二類準備ノ出納ヲ該年度内ニ完結シ得サルコトアル爲メニ更ニ會計年ヲ置ノ則チ十年七月以後ニ至テ丙子年度ニ屬スル出納ヲ爲スハ第二類準備丁丑後部ト稱ス

第二款 常用金收入科目條例  
第九條 凡ソ常用ニ收入スル金穀ヲ大別シテ租稅及ヒ稅外ノ二類トス而シテ別ニ款外ノ三科目アリテ本收入ノ二類ニ關セサル納付金員ヲ處置ス

第十條 租稅ハ専ラ租稅寮ニ於テ管掌スル者ニシテ大別シテ第一第二第三ノ三種トシ之ヲ出納科目トス而シテ名稱稅目ヲ再分シテ大科目トシ其詳細ナル者ヲ小科目及ヒ細科目トス其大科目以下ハ毎年豫算ノ時ニ於テ之ヲ決定スル者ト雖モ今旁略載シテ其區分ヲ示ス

一 第一種稅

海關稅

一 第二種稅

地稅

鑛山稅

官祿稅

家祿賞典祿稅

北海道物產稅

琉球藩貢納

一 第三種稅

酒類稅

煙草稅

證券印紙諸稅

郵便稅

訴訟野紙諸稅

代言免許料

蠶種紙印紙稅

生絲繭真綿印紙代

生糸賣買鑑札料  
 船稅  
 車稅  
 諸會社稅  
 銃獵稅  
 牛馬賣買免許稅  
 度量衡稅  
 板權免許料  
 外國行其他免許料  
 第十一條 稅外收入ハ各廳ニ於テ之ヲ拾取スル者ニシテ大分シテ官工收入稅外雜入ノ二種トシ之ヲ出納科目トス而シテ其大科目以下ハ每年豫算ノトキ若ハ臨時之ヲ定ムル者ニシテ今其概略ヲ附載スルコト左ノ如シ

- 一 官工諸收入
  - 工部省鑛山收入
  - 同 汽車收入
  - 同 電信收入
  - 同 製作收入
  - 內務省製糸收入

- 大藏省活版收入
- 同 電信料分金
- 海軍省製造收入
- 一 造幣局納入
- 一 官有物所屬納入
  - 官有物拂下代
  - 官有地及家屋類貸下料
  - 高嶋炭坑賣拂年賦金
  - 鐵道賣拂年賦金先收
- 一 諸返納
  - 宮方及舊藩藩貸金返納
  - 外國債分借追徵金
  - 石高貸下返納
  - 雜返納
  - 諸貸金返納
  - 諸貸金利子
- 一 稅外雜入
  - 內務省納入

- 蠶種原紙賣下ケ代
- 商業試驗品賣捌代
- 捕馬賣捌代
- 大藏省納入
- 諸證書印紙類製造利益
- 陸軍省納入
- 誓文紙竝官紙拂下ケ代
- 徵兵代人料
- 徒刑人諸工業益金
- 海軍省納入
- 軍醫寮收入
- 水路寮收入
- 院省書籍賣下ケ代
- 開拓使納入
- 贓贖金
- 諸科金
- 不用物賣捌代
- 府縣納入

- 東京府廳費
- 量出米拂代
- 諸貸金利子
- 貸出金返納
- 雜收納諸經費渡過ノ如キ決算ノ後ニ至  
テ返納スル者モ亦此部ニ入ル
- 雜入

第十二條 全ク歳入ニ算入スヘカラスシテ納入ヲ以テ支出ノ決算ヲ全フスルモノ及流融運用ノ爲メ納入スル一種ノ收納金ノ爲メニ左ノ科目ヲ置キ以テ之ヲ處置ス之ヲ款外納入ト稱ス

- 一 過誤渡返納諸經費種ノ如キ未タ支出ノ決算ヲ途ケス此返納ノ併ヒテ決算ヲナスヘキ者モ亦此部ニ算入ス
- 一 更正納時傳票ノ取扱ヒタル主務ニ於テ甲乙部又ハ科目ヲ誤リタリシ時納主ノ勘定上ニ關セシメテ訂正スルニ用ユル者トス
- 一 繰換借入
- 一 繰換貸返納

第十三條 前ノ科目ニ從ヒ常用ノ金員ヲ收入スルニ當テハ其稱呼ヲ一定スルヲ要ス即チ支甲(乙)部年度(又ハ款外)收入第何種稅又ハ他ノ出納科目(出納科目(若シ之アラハ何何分)何某納納主トスルノ類ナリ

第三款 常用金支出科目條例

第十四條 政府ノ歳出ヲ大別シテ二類トス通常歳出臨時歳出是ナリ

第十五條 通常及ヒ臨時ニ係ルノ費用ハ其目頗ル許多ナリト雖モ之ヲ支出スルニ於テハ左ノ

十二項ヲ以テ出納科目トス

- 一 帝室及皇族費
- 一 院省使經費
- 一 在外公館經費
- 一 府縣經費
- 一 神社經費
- 一 警視廳經費
- 一 造幣局經費
- 一 警察費
- 一 營繕費
- 一 土木費
- 一 準備へ繰入金
- 一 諸祿
- 一 貸費
- 一 雜出

鐵道賣拂代先收利子

御堀浚及四大橋修繕費

(決算ノ上準備へ拂出シ又ハ一年ノ中途ニ於テ準備ノ所屬ニ改正シテ之ノ挿入シ又ハ乙部決算完結ノ後其過誤納ヲ認メ之ヲ返戻スル爲メ拂出者等此科目ニ於テ挿入ス)

第十六條 通常歳出ニ於ケル需要ハ(原本ノ)ヨリ缺クヘカラサル者ナリト雖モ其費額ヲ支給ス

ルニ於テハ本末緩急ヲ裁制セサルヲ得ス則チ更ニ分別シテ左ノ二途トス

定額常費 額外常費

第十七條 定額常費ハ政務上ニ於テ最モ止ムヲ得サル必需ノ常費ニシテ毎年歳入ノ多寡ニ應シテ其額ヲ定メ容易ニ増減加除スルヲ得サル者トス

第十八條 必需ノ費用ナリト雖モ該年ノ景況ト需要ノ緩急歳入ノ多寡トニ依テ其額ヲ節省シ得ヘキ者又ハ甲應ノ經費ニ編入スト雖モ其事務タル乙應ノ主管ニ屬スル者ノ如キヲ額外常費トス

第十九條 臨時歳出モ亦タ其要需ニ從ヒ屬スル所概ネ第十五條十二項ノ科目ニ外ナラスシテ單ニ臨時費ノ一途ヲ付ス而シテ該費途タル事非常ニ起リタルカ或ハ止ムヲ得サルヨリ別段ノ議決ヲ以テ出費ヲ要スル者ニシテ毎ニ有スヘカラサルノ費用トス即チ新ニ大工業ヲ起シ或ハ特使ヲ發遣シ或ハ兵役ニ屬スル等ノ類ナリ

第二十條 普通歳出ニ算入スヘカラスシテ支出ヲ以テ納入ノ決算ヲ全フスル者及ヒ流轉運用ノ爲メ支出スル一種ノ出途ヲ款外支出トシ左ノ三科目ヲ置テ之ヲ處置ス

- 一 過誤納下戻戻過誤納ニシテ未タ納入ノ決算ヲ途ケス此下
- 一 更正拂取要取主ノ勘定上ニ關セズシテ於テ訂正スルニ用ユルモノトス
- 一 繰換金返戻
- 一 繰換貸

第二十一條 通常歲出臨時歲出中其類ニ從テ大科目小科目及ヒ細科目アリ遞ニ分析シテ漸ク明細ヲ盡スヘシ而シテ大科目以下ハ每歲豫算ノ時ニ於テ之ヲ確定スル者トス

第二十二條 定額常費ニ屬スル大科目ハ概ネ給與廳中費院費外國人諸費囚獄費懲役費ノ類ニシテ更ニ之ヲ詳ニセハ月給旅費賄料及ヒ需用費雜費ノ如キモノトス而シテ大科目ハ主管スル所ノ事務ニ從ヒ其項數モ自ラ許多ニシテ其名稱モ亦各種ナラサルヲ得ス

第二十三條 額外常費モ亦タ定額常費ニ倣ヒ大科目以下ヲ定メ臨時費ハ其費項ニ就テ科目ヲ定ムル者トス

第二十四條 科目中ニ掲ル貸費ハ一旦之ヲ支出スルモ更ニ回入スヘキ性質ニシテ全ク消盡スルニ非サルノ費用トス然レトモ會計ノ方法ニ依リ必スシモ其支出部ニ返戻シ得サルカ故ニ歲出中ニ置テ之ヲ處置ス

第二十五條 前條掲載ノ科目ニ從ヒ常用ノ金額ヲ支出スルニ當テハ自ラ稱呼ヲ一定スヘシ即チ干支甲乙部年度通常歲出部類何經費出納科目定額常費費途何某殿禮先ト稱スルノ類ナリ尤モ臨時歲出ハ部分ノ下臨時歲出何何科目臨時費ト稱スヘシ

第四款 準備金收入科目條例

第二十六條 準備金ヲ分別シテ三類トス

第一類ハ固有不動ノ準備ヲ云フ

第二類ハ歲入歲出ニ係ルノ準備ヲ云フ

第三類ハ活用運轉ノ準備ヲ云フ

第二十七條 第一類準備ハ本位金貨ヲ以テ之ニ充テ銀銅紙幣外國貨幣等ヲ以テ此類中ニ算入

セス

第二十八條 第一類準備ハ少クトモ一千萬圓ヨリ減少スルコト無カルヘシ

第二十九條 第一類準備金ハ特ニ新紙幣發行ノ豫備ニ充ツ而シテ第三類ノ増殖ニ依テハ本位金貨ヲ以テ此部中ニ繰入ルヘシ即チ左ノ一項ヲ以テ收入出納科目トス

一 増殖繰入

第三十條 第二類準備ノ内外公債ノ豫備其他常用出入ノ外ニ於テ歲出入ニ係ル者ニシテ毎年豫算ヲ定メ之ヲ徵集スルヲ得ル即チ其收入ノ出納科目ヲ左ノ五項トス且ツ大科目ヲ付載シテ其區別ヲ略示ス

一 奉還諸祿

華士族奉還祿

國債支消願奉還祿

一 貸金返納

官方及舊藩藩貸金返納 (明治十年六月二十二日削除)

外國債分借追徵金 (同)

石高貸下返納 (同)

雜返納 (同)

六年前救助貸下返納 (同)

一 官有物所屬收入  
 高嶋炭坑賣拂年賦金  
 鐵道賣拂年賦金先收  
 官有物拂下代  
 官有地及家屋類貸下料  
 一 造幣寮收入  
 一 贖贖及科金  
 贖贖金  
 諸科金  
 一 雜收入  
 不用物品賣拂代  
 雜入  
 六年十二月前常用諸延納 此延納ハ返納ト收シ入トニ限リ該年度ノ此部ニ攝入スルコト決算ノ度初テ納ハ入ツ決セシ者ニ限リ該年度ノ此部ニ攝入スルコト決算ノ  
 一 諸益  
 第三十一條 第二類準備歲入ノ外出納上便宜ノ爲メ左ノ科目ヲ置テ之ヲ款外納入トス  
 一 過誤渡返納 諸經費ノ如キ其返納ヲ併セテ決算スヘキ者モ亦此部ニ算入ス  
 一 更正納 第十二條常用收入科目ノ内更正納ノ割注ト同シ  
 一 臨時借入

一 臨時貸返納  
 第三十二條 前條ノ科目ニ從ヒ第二類ノ準備金ヲ收入スルニ當テハ一定ノ稱呼ヲ緊要ナリトス即チ第二類準備部類干支本後(部)年度(又ハ款外)收入何何出納科目何某納納主ト稱スヘシ  
 第三十三條 第三類準備ノ收入ハ多ク出入連環貸借對待スル者ニシテ他ノ收入ト同視スヘカラサルカ故ニ收支ヲ混合セル一科目ヲ以テ之ヲ出納ニ其科目トハ後ノ第三十九條ニ詳ニス  
 第五款 準備金支出科目條例  
 第三十四條 第一類準備ハ専ラ新紙幣發行ノ元金ニ充ルヲ以テ左ノ科目ノ外敢テ之ヲ支出スルコトナシ  
 一 紙幣支消  
 第三十五條 第二類準備金ノ支出ハ亦毎歲豫算ニ對シ之ヲ指辨スル者ニシテ左ノ四項ヲ以テ出納科目トス而シテ傍邊ニ其大科目ヲ附載シ之カ區別ヲ略示ス  
 一 國債償還  
 外國債償還  
 內國公債償還  
 一 造幣寮經費 (明治十年六月二十二日刪除)  
 造幣寮定額 (同)  
 同 額外 (同)  
 一 雜支出

鐵道賣拂代先收利子 (明治六年六月二十二日删除)

御堀浚及四大橋修繕費 (同)

新紙幣製造費

各金庫貨幣回漕費

雜出

六年十二月前常用諸延出 此延出ニ於ケル延納支出ヲ決セテ前ノ決算後ニ至リ初メテ該

一 諸損

第三十六條 第二類準備處出ノ外出納上便宜ノ爲メ左ノ科目ヲ置ク之ヲ款外支出トス

一 過誤納下戻 過誤納ニシテ未タ納入ノ決算ヲ遂ケテ此

一 更正拂 (第十二條常用金支出科目)

一 臨時貸出

一 臨時借返戻

第三十七條 右ノ科目ニ從ヒ準備ノ金員ヲ支出スルニ當テハ第二類準備部類干支本(後部年度)

(又ハ款外)支出何何出納科目何某渡渡先ト稱スヘシ

第三十八條 第三類準備金ハ第一類ノ分質ニシテ活用運轉ヲ主トシ其支出タルヤ必ス還入シテ決算ヲ消盡スルニ非ス之ヲ收入スルモ全ク最初支出セシ額ニ根底シ敢テ其原金ニ増減スルコトナシ則チ年度ヲ期セス豫算ヲ立テス且ツ單一ノ科目ヲ以テ逐次出入ノ決算ヲナスヘキ者トス則チ其出納科目ヲ左ノ七項トス而シテ傍ラ大科目ヲ附載シ以テ其區別ヲ示ス

一金銀公債證書類買上代

金銀銅地金買上代

中外公債證書買上代

洋金銀貿易銀買上代

株券地券類買上代

一 豫備及資本金

各應豫備金

貯蓄米資本金

外國爲換基金

兌換證券元金

一 借入金

運轉借入

一時借入

一 貸出金

運轉貸出

一時貸出

抵當貨幣

地金精製貸費



煉化石家屋建築貸費

一 常用繰入金

乙部決算殘金

一 運轉益

買上諸地金益

買上公債證書益

買上洋金銀類益

買上株券類益

貸出金益

外國爲換金益

貯蓄米資本金益

諸貸費益

一 運轉損

買上諸地金損

買上公債證書損

買上洋金銀類損

買上株券類損

運轉借入利子

貸出金損

貯蓄米資本金損

諸費損

外國爲替金損

貨物運搬費

同 賣買手数料

第三十九條 右ノ科目ニ從ヒ準備第三類ノ金員ヲ收入シ又ハ支出スルニ當テハ第三類準備部類收入(又ハ支出)何何出納科目何某納(又ハ渡納)去(渡)先ト稱スルコト、ス

第六款 歳入出豫算條例

第四十條 一年度中ノ收入スル者ヲ以テ其年百般ノ經費ニ充用スルニ依テ其收入支出スヘキ目途ノ概計ヲ立ルヲ歳入出ノ豫算合計トシ出納科目ニ隨テ計表ヲ製スルコト、ス

第四十一條 概計豫算ヲ立ツルハ各官廳ニ於テ其收入スヘキ額ト支出スヘキ額トヲ稽査シ明治八年第三十六號及ヒ第四百四十二號並同年五月十八日同八月十九日番外公達九年當省乙第四十三號同七十一號達等ノ法則ニ準シテ計表帳簿ヲ調成シ毎年二月二日ヲ限リ其應ヲ發シテ大藏卿ニ送呈ス

第四十二條 大藏卿各官廳ヨリ報告ヲ送呈スルニ隨ヒ直ニ之ヲ検査頭ニ付ス検査頭ハ前五箇年或ハ三箇年或ハ一箇年ノ實納實費ヲ對照シ且本年出入ノ多寡ヲ比較シテ其科目ヲ詳カニシ以テ歳入出豫算内譯明細簿ヲ作り六月五日ヲ限リ大藏卿ニ進呈スヘシ

第四十三條 大藏卿ハ歳入出豫算内詳細簿ヲ以テ統計頭ニ付シ歳入出豫算會計表ヲ作ラシメ且理財ノ方案ヲ付シ六月二十日ヲ期シテ之ヲ正院ニ上呈スヘシ正院ニ於テハ六月二十日ヲ限リ豫定シテ公布スルコト、ス

第四十四條 豫算會計ハ既ニ議定ヲ經ルノ後ハ該年度中敢テ私ニ變更増減スルヲ得ス但ムヲ得サル時ハ更ニ正院ノ議決ヲ經テ別ニ其命令アルヘシ

第四十五條 收入豫算中租税ハ租税頭之ヲ專掌シ官工收入及ヒ税外雜入ニ係ル收額ハ各主管ノ官廳及ヒ寮課ニ於テ第四十一條ニ準シ之ヲ整理スヘシ

第四十六條 準備金ハ第二類ニ限リ出入ノ豫算ヲ立ル者トス第三類ハ前年十二月二十八日ノ日計表ヲ以テ本年七月一日迄ノ基金額ヲ豫定ス而シテ準備金ノ豫算ハ國債寮ニ於テ整理スルコト、ス其取扱方ハ總テ前條ノ如シ

第四十七條 豫算決定ノ上ハ出納寮ニ於テ會計表並ニ内譯明細表ヲ統計寮及ヒ検査寮ニリ求需シ更ニ各院省府縣ノ收支ヲ較算シ運轉配置ノ便否ヲ勘量シテ各金庫ノ出納額及ヒ府縣指令出納額等ヲ概定シ配置表ヲ作り大藏卿へ進呈スヘシ

第七款 收入金納入條例

第四十八條 凡ソ大藏省へ金類ヲ收入スルハ其收納スル所ノ官廳ヨリ上納證書ヲ大藏卿ニ呈シ該金ハ出納寮各金庫ニ假納シ其預リ證書ヲ持テ出納頭ノ通知ヲ待テ追テ該頭ノ領收證書ト交換納付スル者トス

第四十九條 上納證書ヲ呈スルニ左ノ二様アリ

甲 別ニ稟請ニ及ハス直ニ上納證書ヲ呈ス

乙 先ツ稟請シテ指令ヲ得ルノ後上納證書ヲ呈ス

第五十條 甲ハ收入ノ科目豫算既ニ定リ即チ例規アル者ヲ收納スル時ニ用ユ

第五十一條 乙ハ科目豫算未タ確定セスシテ指令ヲ得サレハ納付ノ可否順序分明ナラサル者ニ用ユ然レトモ豫算精到セシ上ハ乙様ヲ用ユルハ最モ稀ナル者トス

第五十二條 納付ノ金額ハ主務ノ寮課ニ於テ上納證書ヲ得タル上直ニ要傳票ヲ發スヘシ尤モ第四十九條甲乙様ノ部分ニ依テ要傳票ノ發出方モ亦區別アリ

第五十三條 甲様ノ分即チ例規ナル收入金ハ別ニ回議評決ヲ請ニ及ハス直ニ其上納證書ニ就テ金員ノ肩ニ收入ノ年度部類及ヒ科目ヲ書シテ納主タル廳名ヲ記入シ而シテ先ツ主務ノ寮課名ヲ署シ次ニ關係ノ寮課ヲ連署シテ發出ス之ヲ甲様ノ要傳票トナス(第一號式)

第五十四條 乙様即チ例規ナキ收入金ヲ指令ニ依リ上納證書ヲ出セシ時ハ其收入スヘキ金員並ニ年度部類及ヒ科目ヲ肩書ニシ傍ニ其事由ヲ付シ且ツ納主タル廳名ヲ記シテ關係ノ寮課ニ合評セル回議ヲ發シ評決ノ後之ニ要傳票ノ印ヲ捺シテ發スヘシ之ヲ乙様ノ要傳票トス(第二號式)又各省ヨリ指令シテ之ヲ通知スル時ハ姑ク之ヲ受ケ追テ本廳ヨリ上納證書ヲ出スノ際直ニ回議ヲ以テ評決ヲ經ル若シ最初合評回議ヲ經タル等ノ而シテ要傳票ヲ發出ス其取扱方及ヒ様式ハ總テ前同様タルヘシ

第五十五條 乙様ニ係ル收入ノ内直ニ本省へ照會又ハ申請セシ時其處分方ノ回議ハ前ニ金員其他ヲ式ノ如ク記載シ次ニ回答又ハ指令案ヲ具スルヲ要ス(第三號式)而シテ追テ上納證書ヲ

出セシ上嚮ノ議冊ニ要傳票ノ印ヲ捺シテ發出スルコト第五十四條ノ如シ尤モ其申請ニ於テ別ニ事故アル者ハ必スシモ此限ニ非ス又他省ノ通知ニ係ル者ト雖モ最初指令ノ時合評回議ヲ經シカ又例規アル者ニ準スル分ハ別ニ回議ヲ要セス其通知書ヲ添付シ本廳ヨリノ上納證書ニ就テ直ニ甲様式ノ要傳票トナスヘシ

第五十六條 凡ソ收入金ニ關スル指令案ノ回議ニハ其ノ勘定ノ組方ヲ指示シ且ツ該回議ハ其金額ニ關係アル寮課ニ合評スヘシ最モ検査頭ノ稽查承認ヲ經ルヲ緊要トス

第五十七條 要傳票ハ甲様乙様ヲ論セス主務ヨリ直ニ之ヲ検査寮ニ回致スヘシ尤モ準備金ノ收入ニ係ルハ先ツ之ヲ國債寮ニ送付シ國債寮ノ記帳ヲ經テ後該寮ヨリ直ニ検査寮ニ回致スルコト、ス

第五十八條 検査寮ハ收入ニ關スル指令案ノ回議ヲ接受シタル時ハ検査條例ニ從テ之ノ稽查シ差違ナケレハ該頭ノ檢印ヲ捺シテ之ヲ保證スヘシ若シ意見アルトキハ回議ノ主管、照會シテ改正セシム

第五十九條 検査寮ハ第五十七條ノ手續ヲ以テ要傳票ヲ得レハ年度ニ就テ其收入ノ金員竝ニ部類科目及ヒ事由ヲ帳簿ニ登記シ原書ニ(番號)ノ印ヲ捺シ且檢證ノ印ヲ勘合シテ傳票課ニ送付ス尤モ準備金ノ番號ハ國債寮ニ於テ之ヲ付スヘシ

第六十條 傳票課ハ検査寮ヨリ交付セル要傳票ニ就テ其證印ヲ見認メ三葉連續ノ傳票ヲ製ス尤モ年度部類竝ニ出納科目ノ印ヲ捺シ番號竝ニ事由ヲ記スヘシ而シテ甲ノ一葉ヲ分載シテ該課ニ留存シ乙丙ノ二葉ヲ要傳票書ニ付シテ之ヲ大藏卿ニ呈スヘシ

第六十一條 大藏卿ハ右ノ傳票ヲ點檢シ乙葉ヲ本紙トナシテ卿輔書記ニ命シ之ニ其印章ヲ捺シテ又傳票課ニ返付セシムヘシ傳票課ハ之ヲ受ケテ要傳票書ニ(傳票濟)ノ印ヲ捺シ直ニ記錄寮ニ送付スルコト、ス

第六十二條 記錄寮ハ傳票課ヨリ交付セル要傳票書及ヒ傳票ヲ受ケ検査寮ハ證書ヲ照査シ其金員科目及ヒ事由共ニ差違ナキヲ見認タル上常用準備及ヒ年度科目ヲ區別シ種類ノ番號ニ從テ帳簿ニ記錄ス而シテ記錄濟ノ證トシテ傳票乙丙ノ二葉ニ割印シ且乙ノ一葉ハ記錄頭檢印シテ之ヲ出納寮ニ送付スヘシ

但記錄寮ハ傳票ノ丙號一葉及ヒ要傳票書ヲ留取シ逐次編綴シテ保存スルコト、ス

第六十三條 出納寮ハ記錄寮ヨリ交付セシ傳票ヲ受理シ直ニ各廳ニ對シテ金員納付ノ日限ヲ通達スヘシ而シテ各廳ヨリ各金庫ノ預リ證券ヲ以テ之ヲ納付スルニ當リ傳票面ト對照シテ其部類科目ニ就テ金員ヲ帳簿ニ登記シ且ツ納金庫ノ場所及金種類ヲ詳載ス而シテ各廳長官ニ對シ出納頭ノ領收證書ヲ交付スヘシ

第六十四條 出納頭ノ領收證書ハ他日検査寮ヨリ決算證書ヲ付與スル時ニ於テ之ト交換シテ返付スル者トス

第六十五條 諸收入ノ内米穀又ハ古金銀洋銀類及ヒ公債證書等アルトキハ一應賣買シテ代價ヲ以テ納付スルコト第十四款第十五款ノ條例ノ如シ且ツ證書ヲ以テ納付スルハ之ヲ證書金ト稱ス而シテ其取扱方ハ第十三款ノ條例ニ照依スヘシ

第六十六條 收入金ノ内舊紙幣ノ類アル紙幣寮ニ於テ交換ノ上納付セシムルハ第十三款中ニ

於ケル第七十六條ノ如クスヘシ

第六十七條 府縣ヨリ納付セル收入金ハ府縣納金受付規則ニ從テ之ヲ取扱フヘシ

第六十八條 各廳ニ於テ其收入金ノ計算ハ各第二十款ノ條例ニ從ヒ勘定帳及ヒ計表ヲ以テ大藏卿ニ報告スヘシ

第六十九條 各廳ヨリ進達セシ勘定帳及ヒ計表ハ検査寮ニ於テ受理シ亦タ第二十款ノ條例ニ從ヒ大藏卿署名ノ決算證書ヲ付與シ嚮キノ出納頭ノ領收證書ヲ收取スルノ順序ヲナスヘシ  
第七十條 凡ソ收納スヘキ金額ノ内幾分ヲ納メテ尙ホ其殘高アルハ未決算證書ヲ出サシムルコト第二十款ノ條例ノ如シ

第七十一條 收入金ハ常用及準備ノ部ニ於テ各(原本ノ)順序アリ之ヲ第八款第九款ニ詳ニス

第八款 常用金收入條例

第七十二條 租稅ヲ收入スルハ概計セル豫算ニ據ル租稅寮ニ於テ之ヲ收納スルコト、ス其取立方ノ事ニ至テハ特ニ其規則アリ敢テ此條例ニ關係セス

第七十三條 各廳ヨリ租稅ヲ納ムルニハ租稅頭ニ宛タル上納證書ヲ添へ租稅寮ニ納付シ該寮ニ於テハ租稅頭ノ領收證書ヲ交付スヘシ

第七十四條 租稅寮ニ領收セル税金ハ三種ノ科目ニ類別合計シテ金員ノ肩ニ年度科目ノ書シ租稅頭ヨリ大藏卿ニ對シタル上納證書(第四號式)ヲ製シ直ニ之ヲ検査寮ニ交付ス則チ租稅收納ノ要傳票ニシテ甲様式ニ準スル者トス而シテ納金府縣別ノ帳簿ヲ出納寮ニ回送シ之ヲ記取セシムヘシ

第七十五條 検査寮ハ租稅寮ヨリ交付セル上納證書ヲ受理シ之ヲ稽查記存シテ傳票課ニ至ルノ順序ハ總テ第五十九條ノ例ニ據ルヘシ

第七十六條 傳票課ニ於テ之ニ傳票ヲ付シ記録寮ヲ經テ出納寮ニ至ルハ總テ第六十條以下ノ例ニ據ルヘシ

第七十七條 出納寮ハ傳票ヲ得ルノ際直ニ租稅寮ニ通達シテ金額ヲ納メシムルハ第六十三條ノ例ニ異ナラス但シ該寮ヨリ納金府縣別ノ帳簿ヲ借取リ之ヲ記存シテ預金配賦ノ用ニ備フヘシ

第七十八條 租稅ノ内出納寮ヨリ預ケ金トナストキハ預金規則及ヒ第十三款ノ條例ニ照依スヘシ

第七十九條 租稅ノ内若シ米穀古金銀其他ノ各種アル時ハ第十四款第十五款ノ條例ニ從ヒ賣拂ノ手續ヲナスハ租稅寮ノ擔任タルヘシ

第八十條 租稅ノ内若シ事故アリテ準備ニ挿入スヘキ時ハ第九款ノ條例ニ據ルヘシ

第八十一條 租稅ノ勘定ハ租稅頭ヨリ毎三箇月勘定帳ヲ出シ院省使廳府縣ヨリハ租稅皆濟帳ヲ出スコト、ス而シテ第二十款ノ條例ニ從テ執行處分スヘシ

第八十二條 租稅ノ内若シ誤納アリテ納替ヲ要スル時ハ第十六款ノ條例ニ從テ之ヲ處分スヘシ

第八十三條 官工收入ハ多ク検査寮ニ於テ受理シ要傳票ノ取扱ヲナスコト、ス尤モ例規ナクシテ新ニ評議ヲ要スルハ本省議案課ニ受理スヘシ

第八十四條 官工收入ハ該工業ヲ管掌スル各廳ヨリ直ニ上納證書ヲ製シ之ヲ大藏省ニ送致シ大藏省ハ検査寮ニ於テ甲様式ノ要傳票ト爲シテ之ヲ發出スヘシ尤モ事故ニ依リ議案課ニ受理スル者ハ多ク乙様式ニ據ルコト、ス

第八十五條 稅外雜入ノ要傳票ハ検査寮又ハ議案課ニ於テスヘシ尤モ議案課ニ於テ受理スルハ多クハ乙様式ニ適スル者トス

第八十六條 稅外雜入中各廳ノ專管ニ屬シタル收納金ニテ甲様式ニ適當セル分ハ該廳ヨリ直ニ上納證書ヲ以テ之ヲ大藏省ニ送致ス大藏省ハ検査寮ニ於テ之ヲ受理スル前第八十四條ノ如シ

第八十七條 府縣納入ノ内東京府廳費組入金ハ該廳ヨリ直ニ上納證書ヲ進達シ検査寮ニ於テ之ヲ受理スル第八十六條ノ如シ

第八十八條 諸貸出元金及利子ノ納入ハ第十七款貸金條例ニ從ヒ取立タル毎回ノ合計ヲ以テ貸付掛ヨリ要傳票ヲ發シ之ヲ納付スヘシ

第八十九條 雜收納ハ其事件ニ就キ主務ヲ案シテ受理ノ區分ヲナスヘシ而シテ其式ハ甲様ナルアリ又乙様ナルアルヘシ

第九十條 租稅ノ内合米アルハ則チ稅外雜入ニシテ租稅寮ニ於テ取扱フコト、ス乃チ出納寮ヘ賣却ノ石代ヲ以テ上納證書ヲ製シ検査寮ニ致ス以下前條ニ異ナルコトナシ

第九十一條 稅外雜入中内務省へ稟請シ該省ニ於テ指令セン分ハ議案課ニ受理シ内務卿ノ通知書ヲ得テ府縣ヨリ上納書ヲ進達セシ上之カ要傳票ヲ發出ス總テ第五十三第五十四第五十

五條ノ例ニ照シテ之ヲ處辨スヘシ

第九十二條 凡ソ官工收入稅外雜入ノ勘定ハ上納證書ヲ進達セシ各廳ニ於テ調理シ大藏卿ノ決算證書モ之ニ對シテ付與スルコト、ス總テ第六十八條以下第七十條ノ例ノ如シ

第九十三條 凡ソ常用金收入ノ番號ハ總テ検査寮ニ於テ之ヲ付スヘシ尤モ甲乙部ヲ區別シテ之ヲ逐記スルコト、ス

第九十四條 款外納入中過誤渡返納ハ多ク検査寮ニ於テ受理スト雖モ或ハ其下件(事件)ニ依リ自ラ主務ノ區別アルヘシ而シテ第十六款第二百十九條ニ照ラシ甲様式ノ要傳票ヲ以テ之ヲ處置スヘシ

第九十五條 誤納納替ハ第十六款ノ條例ニ從ヒ其主務ノ寮課ニ於テ取扱ヒ繰替借入ハ出納寮ヨリ乙様式ヲ以テ之ヲ取扱フコト、ス

第九款 準備金收入條例

第九十六條 凡ソ準備金ヲ收入スルハ國債寮ニ於テハ其金員竝雜類科目及ヒ事由ヲ記付(原本)マシ其帳簿上ニ就テ之ヲ管理スル者ニシテ現金ハ總テ出納寮ニ納付シ該寮ニ於テ之ヲ保存スルコト、ス而シテ準備金取扱規則ニ照シテ之ヲ處置スヘシ

第九十七條 準備金收入ヲ要傳票ハ甲様式乙様式ニ拘ラス先ツ國債寮ニ於テ之ヲ記帳シ記帳済ノ印ヲ捺シテ検査寮ニ致シ以テ傳票課ニ付スヘシ故ニ検査寮傳票課ニ於テハ共ニ國債寮(記帳済)ノ印ヲ認テ後ニ非サレハ傳票ニ付セサルコト、ス

第九十八條 準備金ノ收入ニ於ケル番號ハ國債寮ニ於テ記帳ト同時ニ之ヲ付ス而シテ其番號

ハ毎類ニ之ヲ區別スヘシ

第九十九條 準備ノ收入金ハ國債寮ニ於テ其納場所及ヒ金種類ヲ詳悉記得スヘシ故ニ納入要傳票ノ時租稅ハ租稅寮ヨリ其帳簿ヲ該寮ニ回シ餘ハ出納寮ヨリ付箋シテ之ヲ報知シテ傳票課ニ於テモ此ニ限リ場所種類ヲ傳票面ニ記載スルコト、ス

第一百條 第一類準備金ヘ繰入スヘキ第三類増殖金ノ要傳票ハ國債寮ニ於テ乙様式ニ準シテ之カ順序ヲナスヘシ

第一百一條 第二類準備金ノ收入ハ豫算ニ對シテ之ヲ納入スヘシ而シテ年度ノ區分ヲ明ニスルヲ要ス

第一百二條 奉還諸祿ニ當ル金員ハ國債頭ノ請求ニ依リ常用ヨリ之ヲ拂出ニ從ヒ國債寮之ヲ擔任シテ納付スル者トス而シテ該事務ハ乙様式ノ要傳票ヲ以テ之ヲ處分スヘシ

第一百三條 貸金返納ノ内明治六年前救助貸下金ハ本省貸付掛ニ於テ其貸借ノ首尾ヲ整理スルヲ以テ其返納金ハ同掛ヨリ要傳票ヲ發シテ之ヲ納付ス此他ノ返納部ハ總テ國債寮ニ於テ受理スルコト、ス

第一百四條 官有物所屬收入ノ内高嶋炭坑賣拂年賦金鐵道賣拂年賦金先收ハ國債寮ニ於テ直ニ其上納金ヲ受理シテ乙様式ノ要傳票ヲ發シ官有物拂下代官有地及ヒ家屋類貸下料ハ內務省ノ通知ニ照會シ又ハ(定例トナリ通知ナキ分トモ)各廳ノ上納證書ニ就キ同寮ニ於テ甲様式ノ要傳票ヲ發ス

第一百五條 造幣寮收入ハ本省用度課ヨリ上納證書ヲ出シ國債寮ニ於テ之ヲ要傳票ヲ發出スル

コト、ス尤其尋常ノ分ハ素ヨリ甲様式ヲ用ヒ若シ事故アルトキハ乙様式ニ據ルコトアルヘシ

第一百六條 賍贖科金ハ管轄ノ各廳ヨリ上納スル者ニシテ検査寮ニ之ヲ受理シ甲様式ノ要傳票ヲ發スル者トス

第一百七條 雜收入ノ内不用物品賣拂代ハ國債寮ノ擔當ニ屬シ各廳ノ上納證書若シ之アルハ各省ノ通知ニ照管シニ就キ直ニ甲様式ノ要傳票ヲ發ス雜入及ヒ六年十二月前常用諸延納ハ豫メ其主務ヲ一定シ難シ検査寮國債寮又ハ議案課等各種類ニ從ヒ其受理スル所ヲ區別スヘシ而シテ其要傳票式ハ甲様ナルアリ亦タ乙様ナルアルヘシ

第一百八條 諸益ハ第三類ニ於テ該年度中ニ得ル所ヲ收入スル者ニシテ六箇月毎ニ之ヲ納付ス即チ國債寮之カ納主トナリ且ツ乙様ノ要傳票ヲ發スヘシ

第一百九條 款外收入ハ總テ國債寮ニ於テ擔當シ乙様式ノ要傳票ヲ以テ之ヲ處辨スルコト、ス

第一百十條 第二類準備金ノ收入ハ總テ乙様ノ要傳票式ヲ用フルヲ則トス

第一百十一條 金銀公債證書類買上代ヨリ納入スル金員ハ國債寮ニ於テ第十五款ノ條例ニ從テ之ヲ取扱ヒ其要傳票ヲ發出スヘシ

第一百十二條 豫備及資本金ノ内各廳豫備金ハ一時貸金ト同ク國債寮ニ擔任ス尤モ第十七款中

第二百三十四條ニ照シテ之ヲ取扱フヘシ貯蓄米資本金ハ出納寮ニ於テ第十四款ノ條例ニ從テ執行シ兌換證券元金ハ亦タ國債寮擔當シテ之ヲ取扱フ者トス

第一百十三條 借入金ハ全ク國債寮之カ主務トナリ貸出金ノ返納ハ各所ノ申牒ニ依リ總テ該寮

ニ於テ受理執行スルコト、ス尤モ一時貸金ハ第十七款ノ條例ニ照ラシテ之ヲ處辨スヘシ  
 第一百四條 常用繰入金ハ大藏卿ノ達ヲ得テ出納寮之カ納主トナリ要傳票ヲ發スヘシ  
 第一百五條 運轉益ノ内買上地金公債證書類ノ益ハ第十五款ノ條例ニ準シ國債寮之カ納主ト  
 ナリ貯蓄米資本金ノ益ハ第十四款ノ條例ニ照シテ出納寮ヨリ之ヲ納付ス而シテ貸出金益諸  
 貸費益ノ如キハ亦タ國債寮ヨリ其要傳票ヲ發スルコト、ス

第十款 支出金拂出條例

第十六條 凡ソ大藏省ヨリ支出スヘキ金員ヲ拂ヒ出スハ其之ヲ請取ルヘキ官廳ヨリ請求書  
 ヲ大藏省ニ致シ其傳票ニ依テ出納頭ノ拂出切符ヲ得各金庫ニ就テ交換スルコト、ス尤モ拂  
 出切符ヲ得ルニハ更ニ該官廳長官ノ請求書ヲ出シ之ト交換スヘシ

第十七條 請求書ヲ出スハ左ノ二様ニ據ルコト、ス

天 別ニ稟請スルニ及ハス單ニ請求書ヲ出ス

地 先ツ稟請シテ後請求書ヲ出ス

第十八條 天様ハ支出ノ科目金額豫算既ニ定リタル者ニシテ即チ定額常費及額外常費中例  
 規アル者ノ額ヲ請求スルニ用ユ

第十九條 地様ハ科目豫算確定セスシテ更ニ許可ヲ經サレハ之ヲ(闕)可ラサル者即チ例規ナ  
 キ額外常費及臨時費ノ類ヲ請求スルニ用ユ

第二十條 天様ニ據ルヘキ支出金ハ各官廳ヨリ直ニ請求書ヲ大藏省ニ出スヘシ

第二十一條 地様ノ式ニ至ルノ順序ハ先ツ請求ノ原故ヲ陳述シテ許可ヲ得サルヘカンス即

チ院省使ハ直ニ正院ニ上請シ廳府縣ハ該事務主管ノ上司ニ申請スルコト、ス

二十二條 院省使ハ正院ノ許可ヲ經タル後上請ノ旨趣ト許可ノ證ヲ併セ其金員及事由ヲ  
 詳記シタル請求書ニ許可濟ノ旨ヲ付シテ大藏卿ニ致ス

二十三條 府縣ハ主管上司ノ許可指令ヲ經タル後該上司ヨリ直ニ指令濟ノ旨ヲ詳記セル  
 通知書ヲ大藏卿ニ達シ府縣ヨリハ別ニ請求書ヲ出サ、ルヘシ

但廳ハ上司ノ許可指令ヲ經タル後チ直ニ請求書ヲ出スコト、ス

二十四條 院省使ヨリ上請ニ依リ正院ニ於テ許可アル時ハ其旨ヲ大藏省ニ令達アルコト  
 トス廳府縣ヨリ上司ニ申請シタル時該上司ニ於テハ其專行ノ權内ニ在ル事件ハ直ニ之カ指  
 令ヲナシ若シ專行ノ内ニ在ラサル者ハ合評回議又ハ照會書ヲ以テ大藏卿ノ承認ヲ經テ後指  
 令ス而シテ其許可ノ指令ヲナシタル時ハ其旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ且ツ院省使ノ上請ニヨ  
 リ正院ヨリ大藏卿ニ下問アル時ハ其答議及令達竝各上司ノ回議照會及ヒ其通知ヲ取扱フハ  
 議案課ノ撥當トス且ツ又回議照會ノ際ニ於テハ其勘定組ノ仕方ヲ指示シテ回酬スルヲ要ス  
 ヘシ

二十五條 支出ノ金額ハ主務ノ寮課ニ於テ請求書ヲ得タル上直ニ要傳票ヲ發スヘシ尤モ  
 天地様ノ區分ニ依テ要傳票ノ發出方自ラ殊別アルコト次條ノ如シ

二十六條 天様ノ分即チ定額アル支出金ハ別ニ回議評決ヲ請フニ及ハス直ニ其請求書ニ  
 就テ其金員ノ肩ニ支出ノ年度部類及科目費途ヲ書シ且ツ渡先ノ廳名ヲ記入シ而シテ先ツ主  
 務ノ寮課名ヲ署シテ次ニ關係ノ寮課ヲ連署シ(第五號式)之ヲ天様ノ要傳票トナス

第二百二十七條 地様即チ定額ナキ支出金ヲ指令ニヨリ請求書出セシ時ハ其支出スヘキ金員並ニ年度部類及科目費途トヲ書シ其事由ヲ付シ且ツ渡先ノ廳名ヲ記シテ關係ノ寮課ニ合評セラル同議ヲ發シ評決ノ後之ニ要傳票ノ印ヲ捺シテ發出スヘシ之ヲ地様ノ要傳票トナス(第六號式)又各省ノ通知ニ係ルハ該通知書ヲ受クルノ際直ニ回議ヲ以テ評決ヲ經而シテ要傳票ヲ發ス其取扱方及様式ハ總テ前同様タルヘシ

第二百二十八條 地様ニ該ル支出ノ内直ニ本省ヘ照會又ハ申請セシ時其處分方ノ回議ハ前ニ金員其他式ノ如ク記載シ次ニ回答又ハ指令案ヲ具スルヲ要ス(第七號式)而シテ評決ノ上其議冊ニ要傳票ノ印ヲ捺シテ發出スルコト第二百二十七條ノ如シ尤モ其申請ヲ許可セサル分ハ此限ニ非ス又他省ノ通知ニ係ル者ト雖モ該省ニ於テ最初指令スルノ際合評回議ヲ以テ現ニ大藏卿ノ決印ヲ經其證憑明瞭ナル分ハ通知書ニ就テ直ニ天様ノ要傳票(第八號式)トナスコトアリ  
第二百二十九條 凡ソ支出金ニ關スル指令案ニハ其勘定ノ組方ヲ指示シ且ツ該回議ハ必ヘ關係ノ寮課ニ合評スヘシ府縣渡ノ支出ハ必ス出納寮ニ合評スルコト、ス最モ検査頭ノ稽査承認ヲ經ルニ緊要トス

第二百三十條 支出金ノ要傳票ハ天地様ヲ論セス主任ヨリ直ニ之ヲ検査寮ニ回致スヘシ尤モ準備金ノ支出ニ係ルハ先ツ國債寮ニ送付シ該寮ノ記帳ヲ經テ後検査寮ニ回致スルコト、ス  
第二百三十一條 検査寮ハ支出ニ關スル指令案ノ回議ヲ接受シタル時ハ検査條例ニ據テ之ヲ稽査シ差謬ナケレハ該頭ハ檢印ヲ捺シテ之ヲ保證スヘシ若シ意見アル時ハ回議ノ主任ニ照會シテ改正セシム

第二百三十二條 検査寮ハ第三百三十條ノ要傳票ヲ得レハ検査條例ニ從ヒ其金員並ニ支出ノ年度部類科目及費途事由ヲ帳簿ニ登記シ要傳票書ニ支出ノ(番號)ヲ印シ且ツ(檢證)ノ印ヲ勘合シテ傳票課ニ送付スヘシ尤モ準備金ノ支出ハ國債寮ニ於テ之カ番號ヲ付スルコト、ス  
第二百三十三條 傳票課ハ検査寮ヨリ交付セル要傳票ニ就テ(檢證)ノ印ヲ見認メ三葉連續ノ傳票ヲ製ス尤モ年度部類科目費途ノ印ヲ捺スルヲ要傳票書ニ照依ス且ツ番號事由ヲ記スヘシ而シテ甲ノ一葉ヲ分截シテ該課ニ留存シ乙丙ノ二葉ヲ要傳票書ニ付シテ之ヲ大藏卿ニ呈ス

第二百三十四條 大藏卿ハ右ノ傳票ヲ點檢シ乙葉ヲ本紙トシテ卿輔書記ニ命シ其印章ヲ鈐シテ又傳票課ニ返付セシム傳票課ハ之ヲ受ケテ要傳票書ニ(傳票濟)ノ印ヲ捺シ直ニ記録寮ニ送付スルコト、ス  
第二百三十五條 記録寮ハ傳票課ヨリ交付セル要傳票書及傳票ヲ受ケ検査寮ノ證印ヲ照査シ其金員科目及事由共ニ差違ナキヲ見認タル上常用準備及年度ヲ區別シ番號ニ從テ帳簿ニ記録ス而シテ記録濟ノ證トシテ傳票乙丙ノ二葉ニ割印シ且ツ乙ノ一葉ハ記録頭檢印シテ之ヲ出納寮ニ送付スヘシ

但記録寮ハ傳票ノ丙號一葉及要傳票書ヲ留取シ逐次編綴シテ保管スルコト、ス  
第二百三十六條 出納寮ハ記録寮ヨリ交付セシ傳票ヲ受理シ直ニ各廳ニ對シテ金員交付ノ日限ヲ通達スヘシ而シテ各廳ヨリ該長官ノ請取書ヲ出スニ當リ傳票面ニ對照シテ其部類科目ニ就テ金員ヲ帳簿ニ登記シ且ツ支出スヘキ金庫ノ場所及金種類ヲ詳載シ拂切符ヲ製シテ右ノ受取證書ト交換付與スヘシ



第三百三十七條 右ノ拂切符ヲ受取タル各廳ハ切符ニ記載セル支出スヘキ金庫ノ場所ニ就テ之ヲ交換シテ現金ヲ受取ルヘシ

第三百三十八條 支出ノ内米穀又ハ洋金銀公債證書諸地金ノ類ヲ要スル時ハ出納寮又ハ因債寮ニ於テ之ヲ拂ヒ得ヘキ代價ヲ以テ額トス即チ第四款第五款ノ條例ニ照依スヘシ若シ證書ヲ以テ支出スルハ之ヲ證書金ト稱ス第十三款ノ條例ニ照シテ執行スヘシ

第三百三十九條 府縣廳ヨリ請求セル支出金ハ府縣渡金送致規則ニ從テ之ヲ取扱フヘシ

第三百四十條 各廳ニ於テ其經費ノ計算ハ各第二十款ノ條例ニ從ヒ勘定帳ヲ以テ大藏卿ニ報告スヘシ

第三百四十一條 各廳ヨリ進達セシ勘定帳ハ検査寮ニ於テ之ヲ受理シ亦タ第二十款ノ條例ニ從

ヒ決算證書ヲ付與スルノ際嚮キニ各廳長官ヨリ差出シタル領收證書ヲ返付スル者トハ

第三百四十二條 領受セル金額ノ内幾分ヲ仕拂ヒ尙ホ未拂ノ金額アルハ未決算證書ヲ出シシムルコト第二十款ノ條例ノ如シ

第三百四十三條 凡ソ支出金ハ常用及準備ノ部ニ於テ各其取扱方ノ順序アリ之ヲ第十一款第十

第十一款 常用金支出條例

第三百四十四條 定額常費ノ金員ハ豫算ノ額ニ據リ各廳ヨリ直ニ請求書ヲ出スコト、ス

第三百四十五條 定額常費ノ請求書ハ検査寮ニ於テ之ヲ受理シ天様ノ式ニ從ヒ要傳票ヲ發出スヘシ

第三百四十六條 府縣ノ經費ハ多ク其預ケ金ヲ以テ之ヲ支給スルコト、ス然ルトキハ出納寮ニ

於テ預ケ金規則ニ準シ之カ取扱ヲ爲スヘシ

第三百四十七條 額外常費ノ内例規アル分ハ各廳ヨリ天様ニ準シ直ニ請求書ヲ出ス而シテ主務

一定ノ件ハ該主務ノ寮課ニ受理シ其他ハ検査寮ニ於テ地様式ニ據リ要傳票ヲ發出ス、シ

第三百四十八條 額外常費中例規ナキ者ハ總テ地様ノ式ニ據リ主務ノ寮課又ハ議案科ニ於テ受理スル者トス

第三百四十九條 臨時費ニ係ル支出ハ總テ地様ノ式ニ屬シ議案課ニ於テ受理スヘシ

第三百五十條 帝室及皇族費ハ總テ天様ノ取扱ニシテ豫算額ニ照シ宮内省ヨリ出シタル請求書ヲ検査寮ニ於テ受理スル者トス

第三百五十一條 貸費ノ支出ハ總テ貸付係ニ於テ擔任シ第十七款ノ條例及貸下金出納規則ニ據テ之ヲ所置スヘシ

第三百五十二條 貸費ノ内例規ナキ者ハ勿論地様ニ準シ救助其他例規アル貸下金ハ地方應ニ委任セリト雖モ執行ノ毎回内務省へ申牒スルヲ以テ該省ノ通知書ヲ受ケ貸付係ニ於テ地方官ノ借用證書ニ照シ地様式ニ準シ要傳票ノ順序ヲナスヘシ

第三百五十三條 款外支出ノ内課納下戻ハ最初納入ノ取扱ヒヲナセシ寮課ニ於テ地様ノ式ニ依テ要傳票ヲ發出ス則チ第十六款第二百十三條以下ノ例ニ照ラシテ之ヲ處辨スヘシ

第三百五十四條 款外支出ノ内繰替借返戻ハ出納寮ニ於テ要傳票ヲ發出ス亦タ地様ノ式ニ據ルヘシ

第一百五十五條 凡ソ常用金支出ノ番號ハ検査寮ニ於テ之ヲ付スヘシ尤モ甲乙部類ニ區別シテ之ヲ逐記スルコト、ス

第十二款 準備金支出金條例

第五十六條 準備金ハ國債寮ノ掌管ニシテ出納寮ヨリ現金ヲ拂出ス者トス而シテ準備取扱規則ニ照ラシテ執行スルヲ緊要トスヘシ

第五十七條 準備金支出ノ要傳票ハ天様ト地様トニ拘ハラス國債寮ニ於テ之ヲ記帳シ記帳済ノ印ヲ捺シテ検査寮ニ致シ以テ傳票課ニ付スヘシ故ニ検査寮傳票課ニ於テハ共ニ國債寮記帳済ノ印ヲ認メテ後ニ非ラサレハ傳票ノ手續ヲ爲サ、ル者トス

第五十八條 準備金ノ支出ニ於ケル番號ハ國債寮ニ於テ記帳ノ同時ニ之ヲ付ス而シテ其番號ノ一類毎ニ之ヲ區別スヘシ

第五十九條 準備金ノ支出ハ國債寮ニ於テ其支出スヘキ金庫ノ場所及金種類ヲ定メ、ヲ要ス故ニ記帳ノ同時ニ其金庫ノ場所及種類ヲ付シテ之ヲ發出シ傳票課ニ於テモ準備金ノ支出ニ限リ場所種類ヲ傳票面ニ記載スヘシ而シテ出納寮ニ於テモ之ヲ見認メテ拂切符ヲ製スルコト、ス

第六十條 第一類準備金ノ支出ハ必ス大藏卿ノ達ニ依テ國債寮ニ於テ之ヲ執行スルコト、ス

第六十一條 第二類準備ノ支出ハ豫算額ニ照ラシテ之ヲ處置スルヲ要ス而シテ年度ノ區別ヲ嚴密ニスヘシ

第六十二條 國債償還ハ國債寮ヨリ地様式ノ要傳票ヲ以テ之カ支出ヲナスヘシ

第六十三條 造幣寮經費ハ本省用度課ヨリ請求書ヲ出シ國債寮ニ於テ天様ノ要傳票ヲ發スルコト、ス

第六十四條 雜支出ノ内鐵道賣拂代先收利子即チ堀浚及四大橋修繕費ハ國債寮ニ擔當シ雜出竝六年十二月前常用諸延出ハ検査寮國債寮又ハ議案課等各種類ニ從ヒ其主務ヲ區別シテ之ヲ受理スヘシ而シテ其要傳票式ハ天様ナルアリ亦タ地様ニ據ルアリ準備金類運輸費ハ本省用度課ノ請求書ニ就キ國債寮ヨリ天様ノ要傳票ヲ發スヘシ

第六十五條 諸損ハ每六箇月第三類運轉損精算ノ上諸益ノ内ヨリ支出償戻スル者ニシテ國債寮ハ之カ受取主トナリ且ツ地様ノ要傳票ヲ以テ之ヲ處辨スヘシ

第六十六條 款外支出ハ渾テ國債寮ノ擔當ニシテ亦地様式ノ要傳票ヲ以テ之ヲ處辨スルコト、ス

第六十七條 第三類準備金ノ支出ハ總テ地様ノ要傳票式ヲ用ユルヲ則トス

第六十八條 金銀公債證書類買上代ノ支出ハ全ク國債寮ノ擔當ニシテ第十五款ノ條例ニ從ヒ之ヲ執行スヘシ

第六十九條 豫備金及ヒ資本金ノ内各應豫備金ノ支出ハ一時貸分ト同ク國債寮ニ擔任シ第十七款第二百三十四條ニ照ラシテ之ヲ執行ス貯蓄米資本金ハ出納寮ニ於テ第十四款ノ條例ヲ履行シテ之カ要傳票ヲ發シ兌換證券元金ハ專ラ國債寮ノ擔當ニ屬スル者トス

第七十條 借入金ノ返戻ハ全ク國債寮ノ擔任トス貸出金ハ各所ノ申牒又ハ大藏卿ノ指令又

ハ其決裁ニ依リ該寮ニ於テ受理執行スルコト、ス尤モ一時貸金ハ第十七款ノ條例ニ照ラシテ之ヲ處辨スヘシ

第七十一條 運轉損益ノ取扱ハ總テ國債寮ニ於テ受理執行スル者トス

第十三款 金種類並證書條例

第七十二條 凡ソ出納上ニ於テ緊要ナル貨幣ニシテ單ニ金ト稱スル者ハ左ノ七種ニ限ルヘシ

- 一金貨
- 一新銅貨
- 一舊銅貨
- 一新紙幣
- 一銀行札
- 一金札一圓以下

第七十三條 七種貨幣ハ總テ同位ノ價格タルヲ以テ要傳票ノ時假令幾種ヲ混用スルトモ單ニ金何圓ト稱シ敢テ其種類ヲ區別スルニ及ハス但準備金ノ收支ハ第九十九條及第一百五十九條ニ據ルヘシ

第七十四條 出納寮ハ現品ヲ出納シ國債寮ハ之ヲ運用スルニ就テ其種類ヲ悉知スルヲ最モ緊要トスルカ爲メニ特ニ兩寮ニ於テハ必ス各種類ヲ區別シテ其計算ヲ詳カニシテ出納

寮ニ於テ日日差引セル計表ヲ調製スヘシ

第七十五條 當今現在セル舊紙鈔ノ内左ノ四種ハ一般通用ノ效力ヲ有セサルモノニシテ諸收入ノ際之ヲ用ユルニハ必ス新紙幣ト交換ノ上納付スルコト、ス

- 一金札五圓以上
- 一兌換證券
- 一開拓使證券
- 一會計券
- 一舊藩札

第七十六條 四種ノ舊紙鈔ヲ以テ納付ヲ要スル官廳ハ必ス之ヲ紙幣寮ニ新紙幣ト交換ヲ請フヘシ而シテ紙幣寮ハ交換期限ヲ過クルト雖モ交換スヘキ理由アラハ該價格ニ適當セル新紙幣ノ預リ證書ヲ付與シ之ヲ以テ納付ノ金員ニ充ツルコト、ス是ニ於テ一般ノ出納上ニ於テハ該舊紙鈔ノ名稱ヲ存セス純ニ金圓ノ取扱ニ歸スヘシ

第七十七條 米穀及貿易銀洋銀、古金銀、金、銀、銅、屬地金雜種混合地金並ニ公債證書ノ類ハ出納上ニ於テハ之ヲ貨幣ト爲サス全ク物品トシテ賣買手續ヲナシ其代價ヲ以テ出納スルコト、ス即チ第十四款第十五款ノ條例ノ如シ

第七十八條 凡ソ出納上ニ於テ便宜ヲ以テ現ニ貨幣ヲ授受セスシテ證書ヲ以テ爲替ヲ爲ス者即チ證書金ニシテ之ヲ受入證書拂出證書ト稱ス

第七十九條 譬ヘハ他ヨリ證書ヲ以テ納入スルハ其現金ハ他ニ存在シ實ハ我ニ收得スヘキ

金額ノ爲ナル證書ニ付我ヨリハ之ヲ受入證書ト稱ス畢竟我ノ拂出證書ハ他ニ在テハ受入證書トナル即チ常用拂出證書ヲ以テ準備ニ納入スルトキハ準備ニ於テハ受入證書トナル餘ハ皆此ニ準ス

第八十條 凡ソ證書金ハ之ヲ發スル官廳ニ於テ證書ヲ製シ而シテ之ヲ拂渡又ハ納入スルハ其證書裏面ニ拂出又ハ收納ノ印ヲ捺シ各該長官署名ニテ送付スルコト、ス

第八十一條 拂出證書受入證書ヲ以テ出納スルハ全ク他ノ現貨幣ノ取扱ヒト異ナルニトナシ唯傳票面ニ證書金ト書シ而シテ假納ノ手續ヲ爲サス別段ニ拂切符ヲ製スルニ及ハザル者トス

第十四款 米穀取扱條例

第八十二條 一般ノ出納上ニ於テハ米穀ヲ用ユルコトナシ故ニ出入ノ米穀ヲ處置スル爲メ出納寮中專務ノ一部(即チ貯蓄課)ヲ置キ次之ニ整理スルコト、ス

第八十三條 米穀ヲ處置スル爲メニ之ヲ購入スル基金ハ準備金ヨリ貸出シ貯蓄課ニ交付スルコト、ス而シテ此貸出ノ金員ハ多ク證書金ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第八十四條 凡ソ收入ノ内若シ米穀アルトキハ納付ノ主管廳ハ假ニ出納寮米廩へ送致シテ其預リ證書ヲ取り更ニ同寮貯蓄課ハ通報シ相當ノ米價ヲ定メ右米廩ノ預リ證書ヲ以テ之ヲ賣渡スコト、ス該課ハ準備ノ證書金ヲ以テ右米廩ノ預リ證書ヲ買取ルヘシ即チ納付ノ官廳ノ貯蓄課ヨリ受取リタル證書金ヲ以テ納付ノ金員ニ充テ而シテ勘定帳ハ證書面ノ金額ヲ本行ニ置テ之ヲ計算スヘシ

第八十五條 米穀ヲ處置スルニ就テ院省使廳ハ其廳ヨリ直ニ賣拂ノ手續ヲナシ府縣ノ分ハ

出納寮之ニ代テ其取扱ヲ爲スヘシ

第八十六條 出納寮ハ納付ノ官廳ヨリ米穀賣込ノコトヲ貯蓄課へ通報セシトキ直ニ地保ノ式ニ依テ要傳票ヲ發シ右米價ニ適當セル基金ヲ準備金ヨリ借入ルヘシ國債寮ニ於テ其貸出ヲ承認シタルトキハ出納寮ハ準備金ノ拂出證書ヲ製シ(或ハ現金ヲ用ユルコトアリ)之ヲ該課ニ交付スルコト、ス而シテ該基金ハ借入ノ毎回逐次番號ヲ附シ(此號ヲ貯蓄課受取證)第何號ノ借入トナシ簡便ニシテ明瞭ナルノ手續ヲ緊要トスヘシ

第八十七條 出納寮貯蓄課ニ於テハ買取リタル米穀ヲ逐次賣拂ヒ其代價ヲ以テ嚮キニ借入タル準備金ニ對シテ返償ス即チ乙様式ノ要傳票ヲ發シ第何號ノ基金へ返納ト稱スヘシ

第八十八條 米穀賣買上ヨリ生シタル差ハ其損益ヲ詳ラカニスルヲ要ス譬へハ借用ノ基金十萬圓ニシテ賣拂ノ益一萬圓アルトキハ一金十萬圓第何號ノ基金返納トシ其益分ハ之ヲ別筆ニシテ一金一萬圓第何號ノ基金ニ屬スル差益ト記載スヘシ(第九號式)此ニ及ンテ損失アルトキハ右基金ノ原額ヲ肩書ニ掲ケ一金九萬圓外金一萬圓ハ云云ニ付損ト記シ第何號基金へ返納ノ旨ヲ詳カニシテ要傳票(第十號式)ヲ發出ス

第八十九條 各廳ニ於テ經費中現米ヲ要需スルコトアラハ主務ノ寮課ヨリ出納寮貯蓄課ニ照會シテ石代ヲ定メ其金額ヲ以テ要傳票ヲ發シ之ヲ交付スヘシ要需ノ官廳ハ此金ヲ以テ該課ニ就キ現米ヲ買取ルコト、ス即チ其手續ハ第二二三條洋金銀需要ノ順序ト同一タルヘシ

第九十條 府縣ヨリ收納ノ内萬一米穀アリテ且之ヲ該縣へ預ケ置ヘキ者ハ府縣預ケ金規則

ヲ遵行シ該府縣ノ石代ヲ付シタル證書ヲ以テ納付セシメ且出納寮貯蓄課へ賣渡ノ手續ヲナシ其代價ヲ上納スルコト第百八十四條ノ如シ而シテ該課ヨリ右米ヲ更ニ府縣へ預クルノ順序ヲナスヘシ他日該府縣ニ於テ米ヲ需要スル時ハ主任ハ其石代ヲ以テ本行ニ置キ米額ヲ腹書ニシタル傳票ヲ發出シ出納寮ハ此ニ照シテ該府縣渡シトセル金員ノ拂切符ヲ製シ直チニ之ヲ貯蓄課へ回付ス該課ハ此金ニ對シテ米額ヲ賣ル者トシ更ニ米ヲ本行ニ置キ金ヲ腹書シタル米渡ノ切符ヲ製シテ該府縣へ交付ノ順序ヲナスヘシ府縣ハ此切符ヲ得タル時反テ腹書ニセシ金員ヲ本行ニシテ例規ノ如ク受取證書ヲ出スコト、ス即チ勘定帳モ亦タ金員ヲ主トシテ整理スルハ無論タルヘシ本文金員ヲ以テ勘定スヘキ旨ハ貯蓄課ヨリハ交付スル米切符ノ裏面ニモ書記シテ渡スコトハス

第百九十一條 貯蓄豫備ノ爲メ又ハ他ノ事故ニ依テ米穀ヲ買收シ又ハ之ヲ賣却スルノ順序モ亦タ前各條ト異ナルコトナシ而シテ其取扱方ハ豫メ定リタル規則ニ從ツテ執行スルコト、ス

第十五款 古金銀公債證書類取扱條例

第百九十二條 一般ノ出納上ニ於テハ單ニ金ト稱スル者ノ外古金銀貿易銀洋金銀金銀銅屬ノ地金雜種混合地金及公債證書ノ類ハ之ヲ物品ト見做シ先ツ賣買ノ手續ヲ爲シ通貨ヲ以テ出入スルコト、ス即チ其取扱ヒ方ハ國債寮ノ擔當トシ各專務ノ部ヲ置キ之ヲ處辨スヘシ之ヲ地金部洋銀部證書部ト稱ス

第百九十三條 前條ニ掲載セル古金銀以下ノ各種ヲ賣買スルニ就テノ基金ハ準備金ヲ以テ之ヲ處辨スルコト、ス

第百九十四條 古金銀以下各種買入代金ノ爲メニ國債寮ニ於テハ地樣式ノ傳票ヲ以テ之ヲ其專務ノ部へ借入レトシ出納頭ノ拂出切符ヲ受取り更ニ之ヲ納拂局ニ預ケ此時納拂局ニ於テ其假預リ證書ヲ領收シ置クヘシ而シテ買入ノ毎回代金引出シ切符ヲ製シテ賣主ニ交付スヘシ

第百九十五條 諸上納ノ際又ハ其他ノ爲メニ古金銀以下ノ各種公債證書ヲ除クヲ國債寮ニ賣拂ハントスル官廳ハ該各種ノ現品ヲ先ツ出納寮納拂局へ預ケ其假預リ證書ヲ受取りテ之ヲ國債寮ニ送り其代價ニ相當スル代金引出切符ト交換シ更ニ納拂局ニ就テ其金額ヲ受取ルヘシ而シテ又該局ノ假納證書ヲ以テ上納ノ順序ヲナスコト、ス

第百九十六條 諸上納又ハ其他ノ爲メ公債證書ヲ國債寮ニ賣拂フハ直ニ國債寮へ現品ヲ納メテ代金引出シ切符ヲ受取ルヘシ蓋シ公債證書ニ限リ國債寮ニ於テ現品ヲ管守シ地金洋金銀類ハ出納寮納拂局ニ於テ之ヲ管守ス而シテ國債寮ハ該局ノ預リ證書ヲ以テ之カ管理シ爲スコト、ス

第百九十七條 金銀公債證書類ヲ處置スルニ就テ院省使廳ハ該廳ヨリ直ニ賣拂ノ手續ヲ爲シ府縣ノ分ハ出納寮之ニ代テ其取扱ヲ爲スヘシ

第百九十八條 洋金銀買上代金ハ豫メ之ヲ借入レ置クコトヲ要セス買上ノ毎回地樣式ノ傳票ニ依テ出納頭ノ切符ヲ受取り直ニ之ヲ賣主ヨリ出セル納拂局ノ假預リ證書ト交換スルコトトシ別ニ引出シ切符ヲ製スルヲ用ヒス而シテ其他ノ手續ハ前條ニ同シ

第百九十九條 國債寮ニ於テハ買取リタル古金銀銅地金公債證書及洋金銀ノ類ヲ時機ノ謀リ

又ハ他ノ要需ニ依テ之ヲ賣拂ヒ毎同其代價ヲ以テ嚮ニ借入レタル準備金ニ對シテ返償スルコト、ス即チ乙様式ノ要傳票ヲ發シ地金及公債證書類買上代へ返納トスヘシ

第二百條 金銀銅地金ヲ精製分析又ハ貨幣鑄造ニ付スル時ハ精製分析又ハ成貨ノ上ニテ其價ヲ以テ返償スルコト前第九十九條賣拂ノ時ト異ナルコトナシ

第二百一條 古金銀銅地金公債證書及洋金銀ヲ賣拂ヒ又ハ精製分析又ハ鑄造上ヨリ生シタル差ハ其損益ヲ詳ニシテ差引スルヲ要ス譬へハ買上代ノ原金十萬圓ニシテ差益一萬圓アル時ハ一金十萬圓何買上代返納トシ其益分ハ別筆ニシテ一金一萬圓何買上代第何號ニ屬スル差益ト記載スヘシ(第九號式)之ニ反シテ損失一萬圓アルトキハ右買上代金ノ原額ヲ肩書ニ掲ケ一金九萬圓外金一萬圓ハ云云ニ付差損ト記シ何買上代返納ノ旨ヲ詳ニシテ要傳票第十號式ヲ發スルコト、ス

第二百二條 通貨ノ平準ヲ得セシムル爲メ又ハ貯蓄ノ爲メ洋金銀公債證書等ヲ臨時購收シ又ハ賣却スルモ亦タ前條ノ手續ト異ナルコトナシ而シテ貯蓄ノ洋銀ハ各官廳ノ要需ニ依テ之ヲ賣渡スヘシ

第二百三條 凡ソ一般支出ノ内洋銀ヲ要スルコトアルハ主任ニ於テハ豫メ國債寮ニ照會シテ相當ノ代價ヲ聞知シ而ル後其金額ヲ本行ニシ洋銀ヲ腹書ニシタル傳票ヲ以テ之カ支出ヲ爲スコト、ス而テ受取主ハ出納頭ノ拂出切符ヲ得國債寮ニ就テ腹書ニセル洋銀ヲ請求スル時國債寮ハ洋銀引出切符ヲ製シテ之ニ交付ス受取主ハ直ニ納拂局ニ於テ其現銀ヲ受取ルヘシ因テ受取主ノ勘定ハ本行ニセシ金員ヲ主トシテ之ヲ整理スルコト、ス該引出切符ニハ納拂局ニ於テ取來ハ返納

シテ實ノ現品假預リ證  
書ト交換スルコト、ス

第二百四條 古金銀類以下ノ各種ヲ賣買シ及ヒ納付スルノ手續ハ古金銀類其他取扱規則及ヒ府縣納金受付規則ニ據テ之ヲ執行スヘシ

第二百五條 古金銀ノ價格ハ七年第九十三號ノ公布ニ據テ之ヲ定メ貿易銀及墨西哥銀ハ國債寮ノ定率價格ヲ立テ之ヲ處置シ洋金ハ先ツ洋銀ノ時價ニ較算シ然ル後其定價ニ從テ公債證書ハ奉還祿者へ拂下ケ地代ノ分ハ七年八十三號公布引現金證書高千圓ニ付九百一十四圓六十四錢三七四ノ價格ニ從ヒ其餘ハ時價ヲ以テ之ヲ定ムヘシ而シテ雜種ニシテ價格ノ定ラサル者ハ出納寮ノ鑑定ニ據ルコト、ス

第二百六條 地金類貿易銀洋金銀公債證書ノ賣買損益差引等ハ每一箇月詳細ナル勘定帳ヲ作り大藏卿ニ進呈スルヲ緊要トス

第十六款 假納及過誤出納處分條例

第二百七條 常用準備ニ拘ラス總テ收納スル金類ハ直ニ現品ヲ納付スルヲ得ス必ス出納寮金庫ノ假納證書ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第二百八條 凡ソ收納セントスル金類ノ納主タル官廳又ハ主務ノ寮課ヨリ先ツ便宜所在ノ出納寮金庫ニ預ケ其預リ證書ヲ受取り置クコト、ス之ヲ假納證書トス而ル後上納證書ヲ進呈スヘシ

第二百九條 該上納金ノ處分ヲ取扱フ主務ヨリ要傳票ノ手續ヲ爲シ追テ出納頭ノ通知ニ依リ右ハ假納證書ヲ納付ス之ヲ本納トシテ出納頭ノ領收證書ヲ交付スヘシ

第二百十條 米穀又ハ地金及洋金銀類公債證書等一旦賣拂ノ上納入スル者ト雖モ通貨ニ交換シタル後更ニ金庫ノ假納證書ニ換ヘテ本納スルハ勿論ノコト、ス

第二百十一條 假納中ニテ未タ本納ニ至ラサルノ間若シ事故アリテ下戻シヲ要シ或ハ納替ヲナスハ別段議決傳票ヲ經ルニ及ハス單ニ出納寮ニ於テ之ヲ處辨スヘシ

第二百十二條 凡ソ收入金ノ内若シ過納アリテ下戻シヲ要スルトキハ其主務ノ寮課ヨリ地様式ノ要傳票ヲ以テ之カ支出ヲナスヘシ

第二百十三條 過納下戻ヲ要スル者ハ年度ニ依テ金額ノ區別アルヘシ則チ乙部中ノ過納ハ乙部ヨリ支出シ準備ニ在テハ準備ヨリ之ヲ支出ス而シテ過誤納下戻ノ名義ヲ以テ之ヲ措辨スルコト、ス簿記上ニ於テハ各科目ニ分屬シテ差引ヲナスヘシ尤モ決算完結後ニ在テハ常用準備共ニ現時ノ甲部本部ニ於テ雜支出ヲ以テ之ヲ措辨スヘシ

第二百十四條 納入ノ内甲部ニ入ルヘキヲ乙部ニ入レ又ハ準備ニ入ルヘキヲ常用ニ入レタル如キハ之ヲ誤納トス誤納ノ金額ハ一旦之ヲ下戻シ更ニ其當然ノ本部ハ納替ニスルヲ則トス而シテ出納寮若クハ國債寮ニ於テ擔任シ主任ノ報知ニヨリ之ヲ處辨スヘシ尤甲應ヨリ納ムヘキヲ乙應ヨリ納タル等ノ誤謬ハ此限ニアラス且租稅ニ係ルモノハ租稅寮ニ於テ擔任スルコト、ス

第二百十五條 納替ノ爲メニ下戻ヲ要スルトキハ主務ノ寮ニ於テ地様ノ式ニ從ヒ誤納下戻ト納替トヲ一紙ニ列載シタル回議ヲ以テ要傳票第十一號式ノ發シ之カ支出ヲナスヘシ而シテ之ヲ支出スルノ金員ハ當初納付セシ時ノ部類ニ於テスルハ第二百十二條過納下戻ノ條ニ明

說セシト同一ナリトス

第二百十六條 誤納ニ依テ下戻シタル金員ヲ更ニ納替ニスルハ下戻ト同一ニ發出シタル回議ニ傳票ヲ付シ別ニ要傳票ヲ發セサルコト、ス

第二百十七條 納替ノ傳票手續ヲ了テ出納寮ヨリ納付ノ期限ヲ主務ノ寮課ニ通知スル時ハ主務ノ寮課ハ下戻ヲ得ル受取證書ヲ出納寮ニ送致シ該寮ハ納替トナル金員ノ領收證書ヲ以テ之ト交換スヘシ乃チ互ニ現金ヲ授受スルニ及ハス各右證書ノ交換ノミニシテ之ヲ完結スル者トス

第二百十八條 誤納金ノ下戻納替ハ主務ノ寮課ト出納寮ノ間ニ於テ之ヲ處辨シ納主タル官廳ハ其成績ニ從テ勘帳面ヲ整頓スルニ止リ現ニ其順序ヲ履行スルニ及ハス尤モ事故ニ依テハ此限ニアラサルコトアルヘシ

第二百十九條 凡ソ支出金ノ内若シ過渡シアリテ返納スル時ハ嚮ニ支出ノ取扱ヲセシ寮課ニ於テ其返納證書ヲ受理シ甲様式ノ要傳票ヲ以テ納付ノ順序ヲナスヘシ而シテ該金額ハ最初支出セシ年度中ニ於テ過渡返納ノ部ニ挿入スルハ第二百十三條過納下戻ニ於ケルト同一ナリトス

第二百二十條 支出金ノ内甲部ヨリ拂フヘキヲ乙部ヨリシ準備ヨリ出スヘキヲ常用ヨリセシ如キハ之ヲ誤出トス誤出ノ金額ハ一旦納入更ニ支出ノ順序ヲ省キ支出スヘキ本部ヨリ誤出セシ部ニ償戻スヘシ則チ出納寮並ニ國債寮擔任シテ主務ノ報知ニヨリ之ヲ處辨スルコト、ス而シテ誤出ノ訂正ハ時ニ大藏省中ノ事ニ止リ敢テ他ノ官廳ニ關係セサル者トス

第十七款 貸金取扱條例

第二百二十一條 凡ソ行政上ニ屬スル貸金ノ事務大藏省ニ於テハ專ラ本省貸付掛ニ擔任シ貸付金返納規則ニ據リ之ヲ處辨スルコト、ス則チ最初申請ノ時各寮課ニ受理スル者ハ該掛合評ノ回議ヲ以テ決裁指令濟ノ後嚮ノ回議書ニ更ニ通知書ヲ添ヘ之ヲ該掛ヘ送付スヘシ

第二百二十二條 貸付掛ニ於テ通知書及回議濟照會ヲ得ル時ハ地樣式ニ準シ更ニ回議ヲ以テ要傳票ヲ發出シ其金員ハ該掛主長ニ對シテ支出スルコト、ス

第二百二十三條 貸付掛ニ於テハ借主ニ屬スル官廳ノ證書ト交換シテ之ヲ貸渡スヘシ而シテ出納寮ヨリ受取リタル金員ノ勘定ハ該掛ニ於テ之ヲ整理シ借主ヨリハ該掛ニ對シテ勘定書ヲ出スヘシ則チ借主ニ對シテハ貸付掛之カ貸主トナリ出納寮ニ對シテハ貸付掛之カ受取主トナル者トス

第二百二十四條 貸付掛ニ對シテ拂出シタル貸下ニ屬スル金員ハ常用金一般ノ出納上ニ於テハ貸借ノ差引ヲ悉知スルヲ要セス單ニ其仕拂ヲ明瞭ニセシムルヲ以テ足レリトス尤モ貸主ト借主トノ間ニ於テハ其差引ヲ詳ニスルハ勿論タルヘシ故ニ元金ノ内棄損等アル時ハ別ニ傳票ヲ要スルニ及ハス當時回議ノ決濟ヲ證據トシテ該掛損耗ノ部ニ挿入シ之ヲ決算スヘシ

第二百二十五條 貸下金ノ返納ハ貸付掛ニ於テ之ヲ徵集シ收納ノ毎回領收證書ハ貸付掛主長ヨリ之ヲ交付シ其金員ハ貸付掛ヨリ要傳票ヲ以テ單ニ稅外雜入ノ部ニ納入ス而シテ出納頭ノ領收證書ハ該掛ニ留存スヘシ

第二百二十六條 常用貸金ニ就テ既ニ貸下ノ後事故アリテ借主又ハ他ヨリ大藏卿ニ申請スル

コトアレハ之ヲ貸付掛ニ受理シ却テ當初ノ主務ニ合評セル回議ヲ以テ之カ處分ヲナスヘシ尤モ時宜ニ依リ當初ノ主務之ヲ受理スル時ハ又々第二百二十一條ニ準シテ之ヲ執行スヘシ  
第二百二十七條 大藏卿ヨリ決算證書ハ貸付掛ニ對シテ之ヲ付與ス此ニ照ラシテ借主ニ屬スル官廳ニ對シテノ決算證書ヲ貸付掛主長ヨリ交付スヘシ因テ各嚮キニ交付セシ領收證書ト交換スルハ一般ノ收入金ニ於ケル者ト同權ナリトス

第二百二十八條 準備第一類ノ收入ニ於ケル貸金返納ノ處分ハ總テ常用貸付金ノ返納ト同權ニシテ其貸借ヲ取扱フ主務ニ於テ之カ差引ヲナスニ止リ一般ノ出納上ニ於テハ唯該年度ノ收入トシテ之ヲ納付スルコト、ス

第二百二十九條 準備第三類ノ貸金ハ亦タ國債寮ニ對シ收支ヲ爲スト雖モ其貸借ハ一廉限リ差引精算セサルコト、ス

第二百三十條 各官廳ニ於テ一時供給ヲ缺クノ間始ク其金額ヲ貸與スルハ之ヲ一時貸ト稱シ第三類準備金ノ指辨ニ屬シテ國債寮ノ擔任トス尤モ各官廳ヨリハ先ツ該事主管ノ寮課ニ向テ之ヲ請求シ主務ノ寮課ハ國債寮合評ノ回議決裁ヲ經テ國債寮ヨリ繰替渡スヘキ旨ヲ指令シ且其原議ニ通知書ヲ副テ該寮ニ送付スヘシ該寮ハ右ノ通知ニ依リ地樣式ニ準シ國債寮渡ノ要傳票ヲ以テ該金額ヲ支出スルコト、ス而シテ該金額ハ各官廳ニ對シテハ國債寮之カ貸主トナリ大藏省ニ對シテハ國債寮之カ借主トナルヘシ

第二百三十一條 前條一時貸ノ金員ヲ各廳ヨリ返償スル時ハ國債寮ヨリ要傳票ヲ發シテ之ヲ返納ス尤モ返納ノ要傳票ハ當初ノ主務ニ合評スルヲ要ス而シテ大藏卿ヘ對スル勘定ハ該寮



準備金ノ勘定ニ編入シ各官廳ヨリハ國債頭ニ對スル勘定ノ外別ニ大藏卿ニ進呈スルニ及ハサルヘシ

第二百三十二條 一時貸金既ニ貸下ノ後若シ該金ノ事ニ就テ借主ヨリ大藏省ニ申請スルコトアラハ亦タ當初ノ主務ニ受理シ總テ第二百三十一條ニ準シテ之ヲ執行スヘシ

第二百三十三條 一時貸金ニ就テ決算證書交付ノ順序ハ第二百二十七條常用貸金ニ於ケル者ト同輔タルヘシ

第二百三十四條 第三類準備豫備及資本金ノ内各廳豫備金ハ全ク一時貸金ト同シ則チ第二百三十一條以下第二百三十三條ノ例ニ據テ之ヲ取扱フヘシ

第十八款 紙幣納拂條例

第二百三十五條 凡ソ現在セル新紙幣及舊紙幣ハ總テ紙幣寮ヨリ乙様及地様式ノ要傳票ヲ以テ之カ納拂ヲ爲スヘシ

第二百三十六條 新紙幣ヲ製造シタル時ハ其發行スヘキ者ト豫備ニ充ル者トニ拘ラス每一月之ヲ總計シ傳票ヲ以テ一旦金庫ニ納入スルコト、ス且新舊紙幣ノ交換又ハ引揚ニ依リ收入セシ分モ固ヨリ前同様ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二百三十七條 新舊紙幣ノ流通發行スル額及燒却煮潰ニスヘキ高ハ紙幣寮ノ受金ニシテ金庫ヨリハ拂出シタル者トスヘシ故ニ前第二百三十六條ニ依リ一旦納入セシ上ハ更ニ傳票ヲ以テ之ヲ紙幣寮ニ受取ルコト、ス納受ノ要傳票ハ一紙ニシテ而シテ流通發行シ又ハ燒却煮潰ニ付シ又ハ散逸ニ屬セシ分ハ同寮勘定上ニ於テ亦タ支拂ニ立テ順次之ヲ決算スヘシ

第二百三十八條 紙幣納受ハ每一月分ヲ翌月十日ヲ限リテ傳票ノ手續ヲ爲シ勘定書ハ同二十日迄ニ之ヲ進達スヘシ且右勘定上ニ據リ諸紙幣現流通高ノ増減ヲ表出シ勘定書ニ添ヘテ進達スルコト、ス而シテ該勘定書ハ一般ノ定規ニ準シ決算證書ヲ付與スヘシ且月計照會表ヲ製ス而シテ本局ニ於テ對照スル等ノ手續ハ第十九款第二百五十一條ニ準ス

第二百三十九條 記録寮ニ於テ調製セシ公債證書ヲ出入スルモ亦タ紙幣ノ出入ト同シ則チ第二百三十五條ヨリ第二百三十八條ニ準據シテ執行スヘシ

第十九款 出納計簿調理條例

第二百四十條 大藏省ニ於テ現ニ出納セシ計算ヲ大藏卿ニ報告スル爲メ調製スル日計表左ノ如シ

- 第一常用金在高日計表
- 第二準備金在高日計表
- 右出納寮ニテ調製ス
- 第三常用金出入日計表
- 第四準備金出入日計表
- 第五常用準備豫算差引表
- 右傳票課ニテ調製ス
- 第六出納決算月計簿
- 第七各府縣預ケ金月計差引表

第八假納金月計差引表

第九預ケ金月計差引表

右出納寮ニテ調製ス

第十月計照會表

右出納寮國債寮記録寮傳票課ニテ調製ス

第十一常用出入精算表

第十二常用出入明細表

第十三常用出入未成算表

第十四常用出入成算表

第十五常用出入比較追調表

第十六歳入出決算内譯明細簿

右検査寮ニテ調製ス

第十七歳入出決算表

右統計寮ニテ調製ス

第二百四十一條 第一項第二項ノ日計表ハ毎日常用金準備金ノ出入ヲ差引シタル後全クノ殘額ヲ表出スル者ニテ其金種類部分竝ニ所在ノ金庫ヲ區別シテ之ヲ掲載スヘシ

第二百四十二條 第一項第二項ノ日計表ハ出納寮ニ於テ翌日午前第十時迄ニ之ヲ調製シ傳票課ヲ經由シテ大藏卿ニ呈ス卿檢印ノ上更ニ之ヲ傳票課ニ付與シ該課ニ保管セシムルコト、

ス

第二百四十三條 第三項第四項ノ日計表ハ出納科目ニ據テ出入セル總額ノ計算ヲ表出スル者ニシテ該年度ノ起首タリ現ニ收入シ及支出セル金額ヲ逐次精算シテ之ヲ掲載スヘシ

第二百四十四條 第五項ノ日計表ハ該年ノ豫算科目ニ對シテ毎日收入支出セル差引ノ計算ヲ表出スル者ニシテ收入部ト支出部トヲ區別シ各豫算ノ金員ニ對シ之ヲ收支ノ現額ト差引殘額トヲ掲載スヘシ

第二百四十五條 第三項第四項第五項ノ計表ハ傳票課ニテ之ヲ調製シテ大藏卿ニ呈ス總テ第二百四十二條ノ如シ

第二百四十六條 第六項ノ月計簿ハ毎月納拂ノ計算ヲ表出スル者ニシテ其金額ニ就テ部分及納拂先等ヲ區分シテ之ヲ計算スヘシ而シテ該計簿ハ出納寮ニテ調製シ翌月二十日ヲ限リ大藏卿ニ呈シ卿ノ檢印ヲ經テ後検査寮ニ於テ大藏卿署名ノ決算證書ヲ作爲シテ該簿ト共ニ更ニ大藏卿ニ呈ス卿又タ之ニ證印シテ傳票課ニ下付ス該課ニ於テ右ノ決算證書ハ出納寮ニ交付シ月計簿ハ記録寮ヲ經由シテ統計寮ニ交付スヘシ而シテ出納寮ヨリハ嚮ニ領收シタル大藏卿ノ傳票ヲ傳票課ニ還付スル者トス

第二百四十七條 第七項ノ月計表ハ各府縣預ケ金ノ計算ヲ表出スル者ニシテ毎月其金額ニ就テ出入ヲ差引計算シテ之ヲ掲載スヘシ

第二百四十八條 第八項ノ月計表ハ各金庫假納金ノ新算ヲ表出スル者ニシテ毎月各應ヨリ各金庫へ假納セシ金額ト其本納済ノ者トヲ差引キ計算シテ之ヲ掲載スヘシ

第二百四十九條 第九項ノ月計表ハ出納寮ニ於テ各廳ノ用度支拂ノ爲メニ一時預リニセシ金員ノ計算ヲ表出スル者ニシテ其金額及廳名ヲ區分シ之ヲ掲載スヘシ

第二百五十條 第七項第八項第九項ノ月計表ハ出納寮ニ於テ翌月五日ヲ限り之ヲ調製シテ大藏卿ニ呈ス卿檢印ノ上傳票課ニ下付ス而テ該計表ハ記録寮ニ回致シテ之ヲ保存セシムヘシ

第二百五十一條 第十項ノ月計表ハ毎月常用準備ノ出入ヲ整算シテ各所湊合照會スル者トス則チ收入支出スル所ノ金額ヲ出納科目ニ分チ計算シ且其差引殘ヲ掲載スヘシ而シテ該表ハ翌月五日本局ニ於テ其金員ヲ對照シ差違ナケレハ大藏卿ノ印ヲ受ケ其一通ハ検査寮ヲ經由シテ統計寮ニ下付シ餘ハ傳票課ニ留存スヘシ

第二百五十二條 統計寮ニ於テハ前條ノ月計照會表ヲ以テ原據トシテ常用金準備金出納月報ヲ調理シ大藏卿ニ呈スヘシ而シテ該月報毎月十五日ヲ期シ之ヲ正院ニ進達スル者トス

第二百五十三條 第十一項ノ精算表ハ收入金及經費納拂ノ實計ヲ審明スル者ニシテ出入セル金員ノ決算未決算ヲ詳細ニ掲載スヘシ

第二百五十四條 第十二項ノ明細表ハ精算表中決算ニ係リタル部ヲ表出スル者ニシテ決算濟小譯ノ詳細ヲ掲載スヘシ

第二百五十五條 第十一項第十二項ノ計表ハ每一箇月分ヲ翌月五日ヲ限りテ之ヲ調製シ大藏卿ニ呈シ以テ正院ニ進達スル者トス

第二百五十六條 第十三項ノ未成算表ハ蓋シ殘高表ニシテ日日納入セルモノ未タ成算一至ラズ及拂出セルモノ亦タ未タ成算ヲ遂ケス即チ帳簿上ノ殘高ニ屬スル者ヲ掲載スルコトトス

第二百五十七條 第十四項成算表ハ殘高表ノ内逐次成算ヲ遂クルニ從ヒ其成算高ヲ掲グル者トス

第二百五十八條 第十三項第十四項ノ表ハ一月毎ニ之ヲ調製シ大藏卿ニ進呈スル者ナリ

第二百五十九條 第十五項ノ比較追調表ハ歲出入ノ豫算ニ對シ現ニ出入セシ差引ノ計算ヲ表出スル者ニシテ每三箇月之ヲ調製シ大藏卿ヨリ正院ニ進達スルコト第二百五十五條ノ如シ

第二百六十條 第十六項ノ明細簿ハ歲出入ノ決算ヲ表出スル者ニシテ第四十二條ノ豫算内譯明細簿ニ對照シテ其決算ノ實計ヲ載録スヘシ而シテ該簿ハ每歲乙部中ヲ限り大藏卿ニ呈シテ後統計寮ニ下付スヘキ者トス

第二百六十一條 第十七項ノ決算表ハ第四十三條ノ豫算表ニ對スル者ニシテ統計寮ニ於テ決算内譯明細簿ニ照依シテ之ヲ調製シ大藏卿ニ呈スヘシ而シテ大藏卿ヨリハ正院ニ進達シ以テ公布ニ及フ者トス

第二百六十二條 第二百四十條ニ掲ケル計表ノ外本省貸付掛及國債寮ノ諸貸下金諸拂月計表等ハ特ニ其條例規則ニ據リ整理スル者ナルヲ以テ敢テ本款ノ部ニ挿入セス

第二百六十三條 出納寮貯蓄課及國債寮洋銀部等ノ出入在高計算モ前條同様ノ旨趣ナリトス尤モ傳票課ニ於テ照考ニ要用ナル爲メ其在高日計表ヲ同課ニ送付スヘシ

第二十款 各種計算調理條例

第二百六十四條 院省使廳府縣ニ於テハ明治八年八月太政官第四百四十九號第五百十號ノ公達租稅寮ハ大藏卿ノ達シニ遵ヒ勘定書ヲ大藏卿ニ進達スヘシ

第二百六十五條 各官廳ヨリ進達スル勘定書ハ概ネ左ノ如シ

- 一 租稅勘定帳並計算表
- 一 稅外收入勘定帳並通算表及ヒ明細表計算表共
- 一 租稅並稅外收入未納仕譯書
- 一 經費勘定帳並通算表及ヒ明細表計算表共
- 一 諸費決算未済仕譯書

第二百六十六條 租稅ノ勘定帳及計算表ハ租稅寮ニ於テ毎三箇月之ヲ調理シ其他各官廳ノ收納金及ヒ經費金ノ勘定帳並計表類ハ該廳ニ於テ毎月之ヲ調理シテ大藏卿ニ致ス卿ハ之ヲ検査ニ下付スヘシ

第二百六十七條 各府縣ノ收納金及ヒ經費金ノ勘定帳及ヒ計表類ハ該府縣ニ於テ毎三箇月ニ之ヲ調理シテ大藏卿ニ致ス乃チ之ヲ検査ニ下付スルコト前條ノ如シ

第二百六十八條 検査寮ハ大藏卿ヨリ下付セラレタル勘定計簿ヲ受ケ検査條例ニ從テ稽查精算シ其決算完結スル者ハ大藏卿署名ノ決算證書（收納金ハ第三號證書ヲ製シ卿ノ證印ヲ受ケ該廳ニ付與シ其計簿ハ記録寮ニ送付スヘシ而シテ收入ニ係ルノ分ハ最初出納頭ヨリ交付セシノ經費ニ係ルノ分ハ各廳長官ヨリ差出セシ領收證書第一號證書ヲ返付スルコト、ス尤モ計算書ハ精算ノ上速ニ記録寮ニ送致シ其登記ニ附スヘシ）

第二百六十九條 各院省使廳府縣ニ於テ收納スヘキ金額ノ内若干ヲ納メテ尙ホ未納ノ殘額アルトキハ計表進呈ノ際殘額ハ期月ヲ限り納入スヘキカ又ハ漸次納入スヘキカ其旨趣ヲ記載

シタル未決算證書（人號證書）ヲ差出サシメ検査寮ニ於テ之ヲ追調簿ニ記載シ其條例ニ從ヒ追次督促徴收スル者トス而テ其勘定完結スルニ從テ第二百六十八條ノ例ニ準シ決算證書ヲ付與スヘシ

第二百七十條 前條ノ如キ各廳ニ於テ經費金ノ内支拂殘額アル時ハ亦タ勘定帳進呈ノ際該拂額ハ期月ヲ限り仕拂決算スヘキカ又ハ漸次仕拂フ者カ其旨趣ヲ記載シタル未決算證書（第二號證書）ヲ差出サシメ検査寮ニ於テ之ヲ追調簿ニ記載シ其條例ヲ履行シ而シテ勘定正算仕上スルニ從テ前第二百六十八條ノ取扱ヲ以テ決算證書ヲ付與スヘシ

第二百七十一條 府縣ニ於テハ明治九年五月十六日大藏省乙第四十三號達旨ニ據リ三箇月毎ニ收入經費ノ計表ヲ進達ス則チ第一第二第三第四回ノ報告表ニシテ検査寮ニ受理シ検査條例ニ從テ之ヲ處分スル者トス而シテ院省使廳モ此ニ準シテ其報告表ヲ出スヘシ

第二百七十二條 院省使廳藩縣ヨリ毎年十月三十一日ヲ限り租稅皆濟帳ヲ大藏卿ニ進呈シ租稅寮之ヲ受理シテ決算皆濟ノモノハ大藏卿署名ノ決算證書ヲ製シ卿ノ證印ヲ受ケテ該廳ニ附與シ會テ交付セシ租稅頭ノ領收證書ヲ收取消却スヘシ

第二百七十三條 各廳豫備金及ヒ一時貸金並ニ救助及ヒ勸業資本貸金ノ類ハ總テ國債寮又ハ貸付掛ノ擔任ニシテ該寮課ヨリ之カ勘定書ヲ進達シ府縣ヨリハ別ニ大藏卿ニ對スル勘定書ヲ出サス

第二百七十四條 常用準備ノ收支中ニ於テ之ヲ單ニ該兩部中ノ雜支出又ハ雜收納トスヘクシテ敢テ各廳ノ費用又ハ收入トスヘカラサルモノハ出納國債ノ兩寮ニ於テ勘定書ヲ調製スル

コト、ス

明治十年七月六日太政官達ヲ以テ内務大藏海軍工部諸省作業費出納條例ヲ定メ作業費ノ收支ニ關シ一層詳細ニ規定セリ即チ凡ソ作業ニ屬スル費途ハ一切之ヲ作業費ト稱シ開業ニ際シ其資本金額ヲ定メ以テ營業上百般ノ事款ヲ辨理シ而シテ該業ノ收入ヲ以テ資本へ償還シ剩ル金額ヲ益金トシ以テ先ニ消費セル金額ヲ漸次償却スヘキモノトシ諸作業費ハ豫算精算トモ通常經費ト之ヲ判別スヘキコト作業費ヲ區分シテ興業費及營業費ノ二種トスルコト作業費及收入額トモ前途一周歲ノ豫算ヲ確定シ大藏省へ申牒スヘキコト興業費及營業費ノ受拂制限ノコト其他收入金運用及工費償却損益比較等ノコトヲ規定セリ(全文ハ特別會計ノ部ニ掲ク)

明治十一年一月十七日太政官達第一號ヲ以テ勘定帳書式ヲ改正シ八年八月二十四日制定セル勘定帳書式ノ内通算表明細表ハ爾後送致スルヲ要セス但其原簿ヲ各廳ニ保存セシム而シテ經費及稅外收入勘定帳書式ハ二月十八日大藏省達乙第五號ヲ以テ之ヲ頒布セリ

同月同日太政官達第二號ヲ以テ金穀及物品出納ノ實況ヲ検査スルタメ大藏省官吏ヲ毎歲各廳へ出張セシムル旨令達シ同時ニ検査員派出規程ヲ頒布セリ

第二號(明治十一年一月十七日太政官達)

官院省使府縣

金穀及ヒ物品出納ノ實況検査ノ爲メ大藏省官員ヲシテ毎歲各廳へ派出セシメ候條此旨相達候事

但別冊検査員派出規程爲心得相達候尤臨時派出ノ儀ハ明治七年八月第百九號達ノ通可相心得候事

検査員派出規程

- 第一條 本年第一號達ニ基キ各官廳ニ整備スル内譯明細簿ヲ初メ總テ金穀及ヒ物品ノ出納竝ニ計算ノ實況ヲ検査スル爲メ毎歲二回ヨリ少カラズ検査員ヲシテ官院省府縣ニ派出セシムヘシ
- 第二條 大藏卿ハ検査員ヲ派出セシムルノ時凡ソ十五日前ニ於テ其旨ヲ各廳ニ告知スヘシ
- 第三條 検査員ヲ各地方ニ派出スルハ連接ノ地方ヲ區分シ一區ニ派出ノ人員ヲ兩名ト定メテ巡回セシムヘシ
- 第四條 検査員ノ各地方ニ滞留シテ事務ヲ検査スルニハ豫メ日數ヲ限ラス該事務ノ便宜ニ從フヘシ
- 第五條 各廳ニ於テ周年收支ノ目途ヲ立ツルハ該年豫算決定ノ金額ニ基ツクモノナリト雖モ或ハ成規ニ違ヒ其宜シキヲ得サルモノアレハ之レヲ更正セシムヘシ
- 第六條 検査員派出前送達セシ勘定帳ノ内成規ニ戻觸スルノ條又ハ事由不明瞭ノ件アレハ検査員之ヲ携帶シ該廳ニ就テ検査シ未タ送達セサル向ハ該廳ニ到リ其帳簿ニ就テ検査ヘシ
- 第七條 勘定帳ノ調成携帶スル者ハ其事件ト所由トヲ推究シテ大藏卿ニ具進スヘシ
- 第八條 勘定帳内譯明細簿ノ内成規ニ悖戻スル等ノ件アルトキハ其事由ヲ掲記シ該廳長官ニ申報スヘシ若シ其事由不明瞭ニシテ成規ノ照准スヘキナキ歎或ハ該廳長官ノ專斷ニ出ツルカ如キハ詳悉具狀シテ決テ大藏卿ニ請フヘシ
- 第九條 内譯明細簿ノ内前條ニ掲クル類夥多アルトキハ其簿冊ヲ携帶シ歸テ省中ニ於テ検査

スルコトアルヘシ

第十條 出納検査ニ要用ナル計簿ハ悉皆點檢スルヲ得ヘシ

第十一條 府縣經費ノ内目今某省へ稟議中ニテ未タ指令ヲ得サルカ又ハ甲ノ省府縣ヨリ乙ノ省府縣へ一時繰替金等アリテ夫レカ爲メ結算ニ至ラサルモノハ其事實ヲ精覈シ該狀ヲ大藏卿ニ具申シテ其指圖ヲ受クヘシ

第十二條 經費ノ内主管ノ廳へ請求スヘキ費用ニシテ未タ調理整頓セサルカ故ニ請求ノ場合ニ至ラス之レカ爲メ結算ニ支障アルモノハ速カニ調理請求セシムヘシ

第十三條 經費ノ殘餘或ハ諸收入金ノ納付スヘキモノアルトキハ速ニ完納セシムヘシ

第十四條 銀行又ハ爲替方ト各廳トノ間ニ交渉セル事務或ハ官金直取扱ノ向ハ其順序ヲ精覈シ若シ了解シ難キコトアルトキハ推問ノ上其事狀ヲ大藏卿ニ具申スヘシ

第十五條 該廳ニ現在ノ金ハ大藏省及ヒ各廳ヨリ交付シタル金又ハ預ケ金其他諸收入金等總テ現金在高帳ニ照シ其員額ヲ點檢シ區分明瞭荷モ交互錯雜ナカラシムヘシ

第十六條 歳入出豫算決算ノ法則月俸旅費其他雜給ニ關スル規則或ハ簿記ノ雛形計算ノ方法等曉解シ難キノ條件アリテ諮問ヲ受クルトキハ例規ニ照シ事由判明ナルモノハ其趣旨ヲ以テ回答スヘシ

但疑問ノ回答ハ派出検査員ノ名ヲ以テス

第十七條 疑問照會ヲ受ケサル件ト雖モ検査ノ際該廳ニ於テ成規ヲ誤解セント認ムルモノアレハ其旨ヲ説明シテ成規ニ據ラシムヘシ

第十八條 物品請拂ノ計算ニ於ルモ前各條ニ掲載スル例規ニ準シ検査スヘシ

第十九條 派出検査員ハ勘定帳及ヒ明細簿検査ノ形狀ヲ初メ各廳出納事務ノ實況計算方法ノ得失等ヲ詳悉シ以テ復命書ヲ作り之ヲ大藏卿ニ出スヘシ

次テ二月九日検査條例ヲ制定ス蓋シ先是各廳ノ收支ヲ追調積查シ居リシモ其方法ニ關シテハ未タ一定ノ規程ナキヲ以テ明治九年十月大藏卿大隈重信之カ制定ノコトヲ稟議セリ

検査條例查定候議ニ付伺

會計年度改正ノ機御發令相成候以來總テ其年ノ收入ヲ以テ其年ノ支出ヲナシ且ツ其入出スル所ノモノハ實地ニ就テ追調積查致シ候ニ付自然計務ノ正確ニ屬シ候儀ハ今更續陳致シ候迄モ無之然ルニ其調査ノ順序詳明條記セルモノ無之トキハ其處務踐行ノ際ニ於テ或ハ區區ニ沙リ候儀モ可有之ト願慮仕候仍テ別紙検査ノ條例ヲ查定可仕ト存候間此段相伺候也

明治九年十月二十四日

大藏卿 大隈重信

太政大臣三條實美殿

(別紙略之)

此ニ至リ同條例ノ制定ヲ見ルニ至レリ之ニヨレハ歳入出ノ豫算ノ裁定ヲ經テ一般ニ公布スル際更ニ大藏卿ヨリ歳入出豫算内詳細簿ヲ検査局長ニ交付シ同局長ハ此ニ據テ歳入出ノ金額ヲ追調整理スルモノニシテ大藏卿ヨリ受領スル各廳勘定帳ハ十日以内ニ調査正算ヲ完結スルモノトス而シテ検査ヲ終レルトキハ検査済ノ證書ヲ交付シ置キ更ニ歳計完結ノ時ニ方リ一周歳検査完了ノ金額ニ對シ大藏卿ノ名ヲ以テ決算證書ヲ製シ難ニ交付セシ検査済證書ト交換スルモノトス

検査條例

凡ソ金穀出納検査ノ事務タル會計ノ年度ニ基キ全國收支ノ多寡ヲ點檢シ終歲需用ノ當否ヲ稽査シ每件成規定例ニ照シテ悖入濫出ナカラシメ以テ其計算ヲ審密ニスルニ在リ是レ會計上最モ缺ク可カラサルノ要領タリ故ニ今其方法ヲ詳カニスル爲メ條例ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一款 歳入出豫算表ノ事

第一節 會計ノ年度ハ甲年七月ヨリ乙年六月ニ至ルヲ以テ一歳ト定ム則チ曆年ノ八年七月ニ度ノハ之ヲ會計年ニシテ此一歳中收入スヘキノ金員ハ前年會計年度以下ニ於テ其額ヲ豫定シ以テ其年百般ノ經費ニ充用スルノ用途ヲ定立シ收入支出ノ科目ヲ列載シテ表簿ヲ調製ス名ケテ歳入出豫算表及内譯明細簿ト云フ即チ一歳會計ノ綱領トスルモノナリ

第二節 一歳收出スル金額ノ多寡ヲ調理シ歳費ノ用途ヲ確立スルハ會計ノ大基礎タルヲ以テ明治八年<sup>三</sup>第三十六號ト同年五月十八日及ヒ爾後改正ノ公達ニ據リ前年ニ於テ先ツ翌年一歳收出ノ内譯明細簿ヲ各廳ニ於テ調成シ二月二日ヲ期トシ其廳ヲ發シ大藏卿ニ送致スヘキモノトス

第三節 内譯明細簿ノ到達スルニ隨ヒ検査局長之ヲ受ケ該簿ヲ整理スルニ當リ先ツ前五箇年三箇年或ハ前一箇年ノ實納實費ト比較照査シ該額ノ増減アルモノニシテ若シ其事由明瞭ナラサルトキハ之ヲ其廳ニ推究スヘキモノトス

第四節 一般歳入出ノ金額ヲ合計スルニ方リ若シ收入ノ金額支出ノ員額ニ充タサル等ノ事アレハ收出理辨ノ見込書ヲ作り大藏卿ニ出スヘキモノトス

第五節 各廳ノ内譯明細簿ヲ整理シ了レハ第一節ニ掲クル歳入出豫算内譯明細簿常用簿及ヒ豫算表ヲ製シ各廳ヨリ申報セシ該簿ヲ添付シテ六月一日ヲ期シ之ヲ大藏卿ニ出スヘキコト、ス

第六節 歳入出ノ豫算裁定ヲ經テ一般公告アルノ際更ニ大藏卿ヨリ歳入出豫算内譯明細簿ヲ検査局長ニ下付スルヲ例トス検査局長ハ之ヲ受領シ以テ歳入出ノ金額ヲ追調精理スルノ根基トス

第二款 各廳ヨリ送致スル報告表ヲ精査スル事

第一節 各廳ニ於テ豫算ト實額トヲ比較追調シ每歲四回其實況ヲ大藏卿ニ報告スレハ検査局長之ヲ受領シテ調査勘算スルモノトス

第二節 報告表ハ豫算ノ増減ト現收實費ノ金額等ヲ調査シ而シテ豫算ト實額ト差異ナキヤ否ヲ勘算スルモノトス

第三節 各廳ノ報告表ハ調査勘算スルノ後コレヲ集計シ每回比較表ヲ製シテ之レヲ大藏卿ニ出スモノトス

第三款 收入支出ノ勘定帳ヲ調査勘算スル事

第一節 關稅及地租其他關稅租稅兩局ニテ徵收スルモノハ同局ニ於テ年度ト科目トヲ列別シ各稅ノ完納決算ニ至ルニ隨ヒ勘定帳ヲ製シテ大藏卿ニ出シ檢閲ヲ了シテ之ヲ検査局長ニ授與スルヲ例トス

第二節 關稅及租稅勘定帳ヲ領受スレハ乃チ第四款第一節ニ掲クル追算簿ニ照合シテ調査勘

算スルモノトス

第三節 關稅及租稅勘定帳ハ一般稅額ノ現ニ收納スルモノヲ遺漏ナク登記スルヲ則トス故ニ納期ヲ過キ未納ニ屬スルモノアレハ検査局長ハ關稅又ハ租稅局長ニ對シ其納入ヲ督促スルモノトス

第四節 一歳ノ稅額ヲ領收シ了ルニ方リ關稅租稅局ニ於テ年報ヲ製シ之ヲ大藏卿ニ出セハ檢閱ヲ了シテ検査局長ニ付スルヲ例トス故ニ第二節ニ掲クル如ク追算簿ニ照シテ調査勘算スルモノトス

第五節 出納局ニ於テハ毎月收出スル金員ノ多寡各廳ノ名稱及ヒ其事項顛末常用準備年度等ヲ詳明ニシ決算簿ヲ調成シ甲月ニ關スルモノハ乙月二十日ヲ期トシテ各長官或ハ書記官ヨリ差出シタル請取證書ヲ出納局長ノ受取證書ニシテ各長官或ハ書記官ヨリ添付シ以テ大藏卿ニ出シ檢閱了テ之ヲ検査局長ニ付スルヲ例トス

第六節 決算簿ヲ接受スルニ隨ヒ第四款第一節ニ掲クル追算簿ニ照シテ調査勘算スルモノトス

第七節 準備金勘定帳ハ國債局於テ其運轉及ヒ消費雜入ヲ分ツテ別冊ニ調成シ每一月之ヲ大藏卿ニ出シ檢閱了テ検査局長ニ付スルヲ例トス

第八節 貸付金ハ國債局於テ其貸付及ヒ返納トモニ每一月勘定帳ヲ調成シテ大藏卿ニ出シ檢閱了テ検査局長ニ付スルヲ例トス

第九節 紙幣受拂勘定帳及ヒ納入勘定帳ハ每一月出納局ニ於テ調成シテ大藏卿ニ出シ檢閱了

テ之ヲ検査局長ニ付スルヲ例トス

第十節 第七節第八節第九節ニ掲クル勘定帳ヲ領取スレハ第六節ニ掲ケシ如ク追算簿等ニ照シテ調査勘算スルモノトス

第十一節 各廳經費勘定帳ハ各廳於テ大藏卿ヨリ交付シタル一切經費ノ金額ニ就テ定額常費額外常費臨時費等ノ區分ヲ詳明ニシ實際ノ消費ト計數ノ多寡トヲ詳カニスル爲メ經費勘定帳雛形及ヒ勘定仕上ニ緊要ナル定規ニ基キ整理調成シテ以テ大藏卿ニ送致スルモノトス大藏卿ハ直ニ之ヲ検査局長ニ付スルヲ例トス

第十二節 經費勘定帳ハ第四款第一節ニ掲クル追算簿及各長官或ハ書記官ヨリ出納局長へ出シタル請取金ノ證書検査局へ出シタル成算未済ノ證書本款第二十五條照シテ勘定帳元受高ヲ検査シ第一款ニ掲クル豫算内譯明細簿ニ憑據シテ毎科目ノ出途ヲ辯明シ其費額ヲ勘算スルモノトス

第十三節 鐵道電信鑿鑿製作其他總テ作業ニ屬スル費途ハ興業營業ノ二費ヲ區分シ營業費ハ之カ資本ヲ交付シ其收入金ヲ併テ運轉出納セシムルノ定規ナレハ其收支ノ員額ヲ明カニシ以テ損益ヲ比較スル等該規ニ基キ調査勘算スルモノトス

第十四節 各廳經費ノ内其現金ハ既ニ該年度内ニ支出スルト雖モ歲尾ニ於テ未タ實費ノ決算ニ至ラサルモノハ未決算仕譯帳ヲ製シテ送致スルノ定規タルヲ以テ之ヲ接受スルニ隨ヒ其決算ニ至ラサル緣由ヲ稽査シ計數ヲ勘算スルモノトス若シ其決算遲延スルモノアレハ推問督促シテ速ニ決算セシムルヲ要ス



第十五節 各廳稅外收入勘定帳ハ毎三箇月ヲ區分調成シテ送致スルモノトス故ニ其收入ニ關スル定規ニ照シテ之ヲ調査勘算ス

第十六節 凡ソ勘定帳ヲ検査スルニ當リ其事理明晰ナラサルカ又ハ計算上確當セサルアレハ推問ノ上其事全ク規則ニ違反スルモノハ規則第何條ニ違反スルヲ以テ決算ニ立カタク旨ヲ大藏卿ノ名ヲ以テ該長官ニ達スルモノトス  
第十七節 内譯明細簿ハ各官廳ニ整理シテ備置モノナレハ検査員派出ノ際之ヲ検査スルモノトス

第十八節 内譯明細簿ヲ検査スルニ當リ第十六節ニ掲クル如キ事故アレハ同節ニ準シ決算ニ立カタク旨ヲ派出検査員ノ名ヲ以テ該廳長官ニ申報スルモノトス

第十九節 勘定帳ノ内不明了ノ條多數ニシテ之ヲ推問スルモ事理明瞭ニ至ラサルカ或ハ會計上ニ於テ錯雜アルト思考セシトキハ其旨ヲ大藏卿ニ具スヘシ大藏卿ハ検査員ヲシテ該廳ニ派出セシメ其計簿ヲ整理シテ速ニ決算ニ至ラシム可キモノトス

第二十節 勘定帳ノ送致期限ヲ過キ未タ送致セサルモノハ之ヲ督促シ事故アリテ延期ヲ請求スルアレハ狀況ヲ酌量シテ五十日以内ノ延期ヲ許ス事アリトス若シ該期日ヲ過キ送致セサルアレハ太政官ニ稟申シテ處置ヲ請フヘキモノトス

第二十一節 凡ソ勘定帳ハ大藏卿ヨリ受領シタル日ヨリ十日以内ニ調査正算完結ニ至ラシムルヲ例トス

第二十二節 一歲經費ノ勘定帳ヲ完結スルノ後若シ殘餘ノ金額アラハ成規ニ據リ還納セシム

ルノ順序ヲナスモノトス

第二十三節 收入經費勘定帳ノ検査ヲ了スルニ方リ検査済ノ證書ヲ製シテ租稅勘定帳ハ検査ヘ交付スヘシ之ヲ各長官或ハ書記官ニ交付シ收入金ハ彙キニ現金ヲ納入スルノ際附與シタル領收ノ證書則チ六號ノ證書ニシテ金額ヲ領收スルノ際主務ヲ返付セシメ經費金ハ其金額ヲ交付スルノ際各長官或ハ書記官ヨリ差出シタル第一號證書詳カナリヲ返還スルノ順序ヲナス

第二十四節 租稅ノ未成算ニ涉ルモノハ検査局長ヨリ租稅局ヘ對シ未成算證書ヲ交付シ其他稅外收入ノ未タ納入セサルモノハ追テ納入スヘキ旨ヲ證書則チ人號ノ證書ニシテ各長官ヨリシムルモノニ記載シ差出サシム此證書ヲ出サシムルハ検査済證書ヲ交付スルノ時ニ於テスルヲ則トス

第二十五節 各廳ヘ交付セシ處ノ金額其幾分ハ成算シ幾分ハ成算ニ至ラサルトキ其成算ノ高ハ第二十三節ニ掲ケル如ク検査済證書ヲ交付シ未成算ノ高ハ他日成算スヘキ旨ヲ記載セル證書則チ第二號未成算ノ證書ニシテ各長官或ハ書記官ヨリ差出サシムルモノトス  
シメ尙殘高アルモノ漸次如此シテ完結ニ至ラシム

第二十六節 勘定帳及各廳ニ備フル内譯明細簿等ノ検査了テ歲計完結ノ時ニ於テ一周歲検査済ノ額ニ對シ大藏卿ノ名ヲ以テ決算證書ヲ製シ彙ニ交付セシ検査済證書ト交換スヘキモノトス

第二十七節 凡ソ勘定帳ハ決算證書ヲ交付シテ後歲入出決算表ヲ製シ了レハ總テ記録局ニ送

付スヘキモノトス

第四款 歳入出決算表ノ事

第一節 收入支出ノ金額ハ無遺漏檢證簿ニ登録シ其金員事由ヲ括ヒ年度及ヒ常用準備ト收入支出トヲ分チテ追算簿<sup>追算簿</sup>計簿<sup>計簿</sup>ニ關スル及ヒ原簿ニ登録ス

第二節 收入支出ノ既ニ成算ニ至ルモノハ其計數事由ヲ追算簿ニ詳記シテ成算ノ成否ヲ詳ニシ每一月成算未成算表ヲ製シテ大藏卿ニ出ス若シ其精算遷延スルアレハ各長官ニ對シ大藏卿ノ名ヲ以テ決算ヲ督促スヘシ

第三節 會計年度一周歳ヲ經テ收入支出ノ總テ完結ニ至ルヲ期トシ更ニ歳入出決算表ヲ製シテ之ヲ大藏卿ニ出ス

第五款 金員ヲ收出スル順序ノ事

第一節 凡ソ收入支出スル處ノ金員ハ每件必検査局長ノ檢印ヲ經ルニ非レハ出納ヲナスヲ得サルモノトス故ニ其收出ノ際ニ方リ之ヲ檢定勘理スルノ順序ヲ採テ第二節以下ニ詳カニス

第二節 收入ノ金員ハ各長官ヨリ大藏卿ニ送致スル處ノ文書ヲ第一款ニ掲クル豫算内譯明細簿ニ照査シ年度科目等ヲ詳明ニシ納入ノ順序ヲナスモノトス

第三節 定額常費ハ一歳ノ金額ヲ毎月或ハ毎三箇月ニ分賦シ各長官ニ交付スルモノナレハ大藏卿ニ請求スルノ文書ハ検査局長之ヲ受領シ第一款ニ掲クル豫算内譯明細簿ニ照査シテ交付ノ順序ヲナスモノトス

第四節 額外常費モ一歳支給スヘキノ費額ハ前節ニ同ク豫算内譯明細簿ニ據リ判明ナレハ該

費ヲ交付スルニ方リ此明細簿ニ就テ當否ヲ照査ス且此經費タルヤ事業ノ緩急ニ應スヘキモノニシテ素ヨリ定額ノ如ク期節ヲ逐テ交付スヘキモノニアラス府縣所屬ノ費途ハ概ニ限ヒ四分シテ每期之ヲ交付ス而シテ此金額ニ於ケル或ハ太政官ノ知達ニ因テ交付スヘキアリ或ハ各長官ヨリ直ニ大藏卿ニ稟請スヘキアリ故ニ如此ハ太政官ノ知達若クハ各長官ノ稟申ヲ受付スルニアラサレハ之ヲ交付セサルモノトス

第五節 臨時費ハ前節ニ同ク豫算ノ該額ニ照査シテ交付スルモノトス且ツ該費ニ於ル總テ太政官ノ允許ヲ經テ後請求スルモノナレハ其知達ヲ受領セシ上ニアラサレハ交付セサルモノトス

第六節 貸付金及ヒ準備金收出ノ如キモ豫算ノ該額ト成規トニ照シ收入交付ノ順序ヲナスモノトス

第七節 凡ソ金錢ノ收出ヲ要スルトキハ各長官ヨリ稟申スル趣旨ニ依リ擔任ノ各局課長ハ其請求ニ應シ指令若クハ回答等ヲ作り諸般ノ順序ヲ了シテ後其議冊ヲ検査局長ニ付シ傳票ノ(前數節ニ照シテ傳票トハ金員收出スル公文ナリ其順序ヲナスモノトス)

第八節 前節ニ掲クル議冊ヲ受領スルニ隨ヒ其收出スヘキ員額事由ヲ第四款第一節ニ掲ケシ檢證簿ニ登記シ了テ之ヲ傳票課長ニ送付スルモノトス

第六款 物品請拂表ヲ檢査スル事

第一節 凡ソ各廳所有ノ機械書籍木石其他一切ノ物品ハ元高及消耗高殘等ヲ詳明ニスル爲メ各廳ニ於テ物品請拂表ヲ製シ毎三箇月大藏卿ニ送致スレハ直ニ之ヲ検査局長ニ付スルモノ

トス

第二節 物品請拂表ハ總テ其代價ヲ以テ記載シ仕拂ニ至テハ定額内外及臨時費ヲ區分スルモノナレハ之ヲ領受スルニ隨ヒ成規ニ照シテ調査勘算シ其差支ナキヲ保シテ大藏卿ノ檢閲ニ供スルモノトス

右検査條例ハ上裁ヲ經テ定ムル所ナリ凡ソ検査員タルモノハ常ニ此旨ヲ服膺シ克ク順序ヲ履踐シテ苟モ之ヲ誤認スルコト勿レ

五月二日大藏省達乙第二十一號ヲ以テ金錢利割稱呼ヲ定メ官金取扱上ニ之ヲ用ヒシム

乙第二十一號(明治十一年五月二日)

府 縣

今般於當省金錢利割稱呼ノ儀左ノ通相定候條各廳ニ於テモ官金取扱上右ノ稱呼相用可申此旨相達候事

利割稱呼左ノ如シ

- 利 利割ノ首位即チ元高十分ノ稱
- 分 割十分ノ稱即チ元高百分ノ稱
- 厘 分十分ノ稱即チ元高千分ノ稱
- 毛 厘十分ノ稱即チ元高萬分ノ稱

同月八日金錢出納上其相當年度ノ干支甲乙部ヲ設ケタル區分法ヲ廢ス

七月三十一日太政官達第三十四號ヲ以テ出納閉鎖期限ヲ定ム蓋シ會計ノ決算ト出納閉鎖ノ期限ハ密接ノ關係ヲ有スルモノナルニ會計ノ決算ニ就テハ明治九年出納條例ノ制定發布アリテ申乙

兩部ヲ設ケ其期限内ニ整理完結スヘキコトヲ規程シタリシト雖モ出納閉鎖ノ期限ニ就テハ未タ確然タル規程ナカリシカ爲メ各年度所屬ノ出納ハ數年ニ跨リテ尙ホ完結スルコト能ハス計算頗ル繁雜ヲ極メ隨テ決算ノ遲延ヲ來タシ會計整理上不便少カラサリシモ此ニ至リテ整理期限ノ制定アリ又一層ノ進歩ヲ會計法規ニ加ヘタリ

第三十四號(明治十一年七月三十一日)

官院省使府縣

出納閉鎖ノ期限ノ儀左ノ通相定候條明治十一年度ヨリ施行可致此旨相達候事

第一條 歲入出決算ハ二箇年間ヲ以テ完結スルヲ程度トス故ニ大藏省ニ於テハ會計年度經過ノ後八箇月即チ翌年二月ヲ限リ出納ヲ閉鎖スヘシ

第二條 諸稅其他一般ノ收入共總テ閉鎖期限内ニ調理シテ大藏省ヘ完納スヘシ

第三條 諸經費ヲ請求シ或ハ其殘餘ヲ返納スル等ハ總テ閉鎖期限内ニ於テ結了スヘキモノナレハ前以テ其順序ヲ爲スヘシ

第四條 出納閉鎖ノ期ニ際シ若シ經費ノ決算ニ至ラサルモノアラハ其事由ヲ詳悉シテ伺出府何出大藏省ヘシ

第五條 出納閉鎖ノ後若シ大藏省ニ於テ勘定帳検査上ヨリ差額ヲ生スルコトアラハ爾後四箇月以内即チ右差額ニ限リ出納スルコトヲ得ヘシ通稱ノ地ニアル支廳ニ屬スル未決算ニシテ事實本文期限内ニ完結シ難キハ尙二箇月ヲ

九月三十日太政官達第四十二號ヲ以テ各廳金錢出納ノ簿記ハ十二年七月ヨリ複記法ニ改正シ既ニ該法ニ習熟セル向ハ即チ今ヨリ改正スルヲ得但シ簿記條例ハ大藏省ヨリ布達スヘキコトヲ定

ム蓋シ從來會計簿記ノ制完備セサルヲ以テ先是八年十一月金穀出納簿記ヲ改正シ西洋式ヲ用ヒ  
 シコトヲ稟議シテ允裁ヲ得九年一月大藏省中ニ簿記法改正取調掛ヲ置キ各寮官吏ヲシテ之ヲ講  
 習セシメシカ是ニ至リテ此令達アリ但シ大藏省ニ於テハ八年度ヨリ之ヲ實行セリ  
 十一月八日大藏省達乙第五十五號ヲ以テ計算簿記條例ヲ定メ府縣ニ頒布ス之ニヨレハ各廳金錢  
 ノ出納ハ複記法ニヨリテ左右ニ大別シ貸借ノ文字ヲ掲ケテ對比記入シ其金員ニ係ル文字ハ總テ  
 亞刺比亞數字ヲ用フルモノトス(全文ハ國庫出納編記簿計簿ノ章ニ掲載ス)  
 十二月二十六日金穀計算簿記及諸書類取扱規則ヲ制定ス  
 明治十二年四月十四日太政官達第十八號ヲ以テ各廳經費決定ノ後事故アリテ増額セシ金員ハ自  
 然餘麻ヲ生スルモ他ノ科目ヘ流用スヘカラサル旨令達ス  
 六月二十一日大藏省達乙第三十一號ヲ以テ府縣ニ令シ官有物ニ屬スル收入及雜入ノ豫算並ニ決  
 算順序ヲ定ム

乙第三十一號 (明治十二年六月二十一日)  
(大藏省達)

官有物ニ屬スル收入及ヒ雜入ノ豫算並決算順序別紙ノ通更正候條明治十二年度所屬ノ分ヨリ  
 右ニ照準可取計此旨相達候事

官有物ニ屬スル收入及ヒ雜入豫算並決算順序

一官有物ニ屬スル收入及雜入ヲ別紙ノ如ク五大科目ニ分チ毎大科目ヲ數個ノ細目ニ分チ豫算  
 並ニ決算ヲ整理スヘキモノトス依テ豫算内譯簿ハ此大科目ヲ一打ニ掲ケ勘定帳ハ官有物收  
 入並雜入及雜部ノ項ヲ此大科目ニ換ヘ總テ内譯細目ヲモ記載スヘシ

但從來勘定帳ニ掲出セシ科目ハ本文ノ通り更正シタルモノト心得ヘシ

一森林ニ屬スル收入豫算内務省直轄ハ府郡ヨリ申牒スルノ例規ヲ改メ總テ内務省ニ於テ調製  
 スルコト、ス故ニ稅外收入豫算内譯簿ノ内之カ員額ハ編入スルニ及ハス尤實際ノ收額ハ本  
 年五月當省乙第二十六號達ノ順序ニ因リ當省ヘ納付シ勘定仕上ヲナスヘシ

官有物ニ屬スル收入及ヒ雜入科目

(大科目)

一森林收入

但該目ハ官有森林ニ屬スル收入ヲ類聚スル科目ニシテ則 森林地拂代 立木竹枯木損木植  
 ノ實漆ノ實松茸松露晚筍竹ノ皮落葉下草等ノ拂代及ヒ刈取代透シ等ヲ請負ヒ年年或ハ年季  
 中納額定リタル料金等ノ種類ヲ分ツテ細目トス

一官有物拂下代

但該目ハ森林ニ屬セサル官有物品ノ拂代ヲ類聚スル科目ニシテ則 枯木損木障得木魚水  
 草蓮根等拂代 建物船艦器械書籍藥用品等拂代ノ種類ヲ分ツテ細目トス

一官有物貸下料

但該目ハ森林ニ屬セサル官有物品ノ貸下料ヲ類聚スル科目ニシテ則 田畑宅地河岸堤温泉  
 場山野等種種ノ需用ノ爲メ貸下ケ年年或ハ年季中納額定リタル料金ノ類官倉官庫船艦器械  
 等ノ貸下料並ニ藏敷料外國人官倉官庫拜借料等ノ種類ヲ分テ細目トス  
 一開港市場官地貸下料